



タイ人の怒り感情の文化的感情規則と表示規則

堀本, 美都子

(Degree)

博士 (学術)

(Date of Degree)

2016-03-25

(Date of Publication)

2017-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第6557号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1006557>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



博 士 論 文

タ イ 人 の 怒 り 感 情 の 文 化 的 感 情 規 則 と 表 示 規 則

平成28年 1 月

神戸大学大学院国際文化学研究科

堀本 美都子

博 士 論 文

タイ人の怒り感情の文化的感情規則と表示規則

審査委員：米谷淳教授

松本絵理子教授

石井敬子准教授

平成28年 1 月

神戸大学大学院国際文化学研究科

堀本 美都子

目次

序章	1
第1節 本研究の背景となる問題意識	1
第2節 本研究の目的	5
第3節 先行研究	6
第1項 表情研究	6
1.1 表情による感情の表示と認知における文化差	6
1.2 表情における文化差を生み出す要因	8
1.3 表情識別実験に用いる刺激	9
第2項 感情の社会構築性	12
第3項 日本人の怒り表出	12
第4項 タイ人の怒り表出	14
第5項 日タイの文化差	16
第6項 Horimoto(2012) の再検討	17
第4節 博士論文の構成	19
第1章 研究1 タイ人の無表情認知に関する社会文化的要因の検討	21
第1節 目的	21
第2節 方法	22
第3節 結果	23
第4節 考察	25
第2章 研究2 タイ人の怒りに関する社会文化的要因の検討 ～面接調査による質的研究	27
第1節 目的	27

第2節	方法	28
第1項	対象者	28
第2項	面接方法	28
第3項	データの分析方法	29
第3節	タイ人の怒りの誘因と社会文化的要因に関する結果と考察	32
第1項	結果	32
1.1	怒りの誘因	32
1.2	怒りの強度	37
1.3	怒りを感じた相手の立場	42
第2項	考察	44
2.1	怒りの誘因における社会文化的要因	44
2.2	怒りの誘因と価値観	46
2.3	相手の立場による怒りの誘因の変化	47
第4節	タイ人の怒りの対処方法と社会文化的要因に関する結果と考察	48
第1項	結果	48
1.1	怒りの対処方法	48
1.2	怒りを感じた相手の立場	51
1.3	怒りの対処方法選択の理由	52
1.4	怒りを感じた相手との人間関係	55
1.5	怒りの対処方法に対する評価	56
第2項	考察	60
2.1	怒りの対処方略	60
2.2	怒りの表出における前提と目的	62
2.3	怒りの対処方法と自己の意思の伝達	64
2.4	怒りの社会的機能	64
2.5	タイ人の怒り対処方略のモデル化	67

第3章 研究3 タイ人の怒りの感情規則と表示規則の検討

～状況的質問票を用いた日タイ比較～	70
第1節 目的	70
第2節 方法	70
第1項 状況的質問票	70
第2項 質問票に用いる15の怒りの喚起場面	72
第3項 方法	75
第3節 結果と考察	75
第1項 性別の効果	76
第2項 場面別の結果と考察	78
2.1 場面1の結果と考察	78
2.2 場面2の結果と考察	80
2.3 場面3の結果と考察	83
2.4 場面4の結果と考察	85
2.5 場面5の結果と考察	87
2.6 場面6の結果と考察	89
2.7 場面7の結果と考察	91
2.8 場面8の結果と考察	93
2.9 場面9の結果と考察	95
2.10 場面10の結果と考察	98
2.11 場面11の結果と考察	100
2.12 場面12の結果と考察	102
2.13 場面13の結果と考察	103
2.14 場面14の結果と考察	104
2.15 場面15の結果と考察	107
第3項 設問ごとの結果と考察	109

3.1	設問 1 の結果と考察	109
3.2	場面 2 の結果と考察	110
3.3	場面 3 の結果と考察	111
3.4	場面 4 の結果と考察	112
第 4 項	日タイの文化差のまとめ	112
第 4 章	総合討議	114
第 1 節	各章の要約と考察	114
第 1 項	第 1 章の要約と考察	114
第 2 項	第 2 章の要約と考察	115
第 3 項	第 3 章の要約と考察	116
第 2 節	タイ人の怒りの感情規則と表示規則と社会文化的要因	117
第 1 項	国王・天皇に対する認識の違い	118
第 2 項	公衆道徳に対する感覚の違い	118
第 3 項	家族への愛情と義務感の違い	120
第 4 項	成績を公表する先生に対する怒りとその対処方法	121
第 5 項	目上・目下に対する接し方と上下関係	121
第 3 節	タイ人が日本人は怒りやすいと感じる理由	123
第 4 節	本研究により得られた知見の意義と位置づけ	124
第 5 節	今後の展望	125
謝辞		127
文献		129
補遺		135

序 章

本研究は、タイ人の怒りに関する感情規則と表示規則を日本人と比較することにより、タイ人の表情と感情の社会文化的特徴を明らかにしようとするものである。本章では、本研究の背景となる問題意識について説明する。また、本論文の目的と構成を述べる。

第1節 本研究の背景となる問題意識

日本とタイは、政治、経済、文化など、あらゆる面で良好な関係を築き、特に経済面においては、特に1980年代から始まる日本製造業企業の海外への生産拠点移転の流れに伴い、多くの日系製造業の生産拠点の移転先として重要視されてきた。外務省「海外在留邦人数統計（平成27）年度速報版）」によれば、平成26年10月1日現在、タイに住む日本人の数は64,000人を超え、タイは世界で5番目に日本人が多い国である。タイに住む日本人の70～80%が、民間企業の駐在員とその家族である。タイにある日本企業は3000社を超え、毎年増加し続けている。日系企業の進出は、製造業を中心としており、特に自動車産業に関しては、アジアのデトロイトといわれ、世界的な自動車生産国であり、日本の自動車メーカーや部品メーカーが多くタイで事業を行っている。したがって、タイ人と日本人の異文化接触は、こうした日系企業で働く日本人とタイ人の間で最も多く発生しているといえる。

Petison(2007) は、タイの現地部品メーカーで自動車メーカーから派遣された日本人と働くタイ人を対象に、日タイの異文化による摩擦が生じるかどうか、その頻度がどれくらいについて7件法(0：全くない～7：常にある)で質問したところ、平均値が3.68となり、摩擦が発生する頻度は高くはなかったものの、100%のタイ人が「日本とタイの異文化による摩擦がある」と回答したと報告し、業務の必然性によってタイ人と日本人が一緒に働くことになったものの、日タイの人間関係における親密度は必ずしも高くないと述べている(Petison, 2009)。

異文化経営においては、タイ人の国民性や価値観を理解した上でなければ、効果的な人材管理を行うことはできないが、これまでのタイ人の国民性や価値観に関する知見は、観

察や個人的な経験談などに基づくものが多く、実証的な研究がほとんどなされていない。また日本人の経営者も、業務におけるコミュニケーションの重要性を認識してはいても、日々の多忙な業務に追われ、コミュニケーションにおける異文化の問題を看過してしまうことが多い。

異文化理解のアプローチとして、言語をはじめ、非言語や価値観など、さまざまな側面から研究が可能であるが、本研究ではタイ人の怒りの感情規則と表示規則について検討する。対人コミュニケーションにおいて、怒りはおそらく最も危険な感情である (Ekman & Friesen, 2003) が、その表出方法は社会化を通じて学習されるものであり、社会環境によって大きく異なると考えられている (Potegal & Stemmler, 2010)。顔の表情は感情の表出と考えられているが、人は感情の表出を抑制したり、偽装したりする (Ekman & Friesen, 2003)。様々な社会的環境や役割などのもとで、どのように感情表出をコントロールするかについての社会文化的な規範や慣習を「表示規則 (Display Rule)」という (Ekman & Friesen, 2003、中村, 1991)。表示規則には文化差がある。

Horimoto(2012) は、在タイ日系企業で働く日本人の観察をもとに、タイ人がなぜ日本人は怒りやすいと感じるのかを検討した。実験で、日本人とタイ人のネガティブ表情（悲しみ、嫌悪、怒り、恐れ）と無表情を刺激として提示して、日本人とタイ人に識別させた。実験の結果、次のことが分かった。

- ①怒りの表情の識別については、日本人とタイ人には違いが認められない。
- ②タイ人が日本人の無表情を識別する際、タイ人の無表情より怒りと誤認しやすい。
- ③嫌悪の表情の識別において、日本人もタイ人も自分と同じ国籍の被写体の表情の方を、自分と違う国籍の被写体の表情より正しく識別する。
- ③は、Elfenbein & Ambady(2002) のいうイングループ・アドバンテージ (Ingroup Advantage) を支持している。

Horimoto(2011) は、実験結果に基づいて、タイ人が日本人は怒りやすいと感じる理由について、表示規則と関連づけて次のように論じている。

「日本人もタイ人も集団主義文化に類別されている (Hofstede, 1991)。表情表出には文化による表示規則が大きく影響する。集団主義文化の表示規則は、表情を表出する相手の

社会的な上下関係、親密度、場面など、社会的コンテクストによって異なる (Matsumoto, 2006)。

例えば、在タイ日系企業で働くタイ人が日本人は怒りやすいと感じるのは、タイ人と日本人の社会的立場が大きく作用しているかもしれない。なぜなら、日本人は相手の地位を重視するため、部下が上司に対して怒りを感じても、それを出さない。それに対し上司は、地位の違いを示すために、部下を叱るときなど、怒り感情を表す行為が認められている (Matsumoto, 1996)。在タイ日系企業における日タイの相互作用に関していえば、日本人が上司でタイ人が部下であるというケースが多い。従って、タイ人が日本人は怒りやすいと感じるのは、部下に対して怒りを示してもよいという日本人の表示規則によって生じた結果であるかもしれない。

集団主義では、内集団のメンバーに対しては、その調和を維持するため、ネガティブ感情を表出しないという表示規則はあっても、それが外集団のメンバーに対しては作用しない。それゆえ、外集団の人に対して、露骨に無関心を装ったり、ささいなことで怒りや嫌悪感をあらわに示すのはそう希なことではない (Matsumoto, 1996)。従って、在タイ日系企業で働く日本人が、もし外国人であるタイ人を内集団のメンバーとみなしていなければ、文化による表示規則が働かず、怒りを表出しやすくなるのかもしれない。」 (Horimoto, 2011, p. 45 を筆者が和訳)

感情の文化差を知ることは、異文化コミュニケーションにとって非常に重要である。しかし、これまでに日本人の怒りに関する研究は多くなされている (木野, 2000、木野, 2004a、木野, 2004b、大淵・小倉, 1984) が、タイ人の怒りに関する研究はほとんどなされていない。タイ人の怒りを日本人と比較検討し、両者の差異がどのような文化社会的要因に基づいているかを明らかにすることは、日タイの異文化コミュニケーションの改善に役立つのではないかと考える。

このような議論を踏まえて、本研究ではタイ人と日本人の感情規則と表示規則の文化差を検討する。また、日本人とタイ人の怒りの感情規則や表示規則の文化差がどのような要因によって引き起こされているのかを明らかにする。Matsumoto は、文化がどのように表示規則を生み出すのかについて、Hofstede (1991) の 6 つの異文化の次元のうち、個人主義

- 集団主義に結びつけた理論化をしている (Matsumoto, 1989、Matsumoto, 1991、Matsumoto, 1996)。しかし、日本人とタイ人はともに集団主義であり (Hofstede, Hofstede & Minkov, 2010)、個人主義 - 集団主義の次元だけで日タイの文化差を説明することはできないため、日タイの感情規則や表示規則の文化差を説明するあらたな理論が必要となると考える。

本研究では、感情や表情への文化の影響を検討するための理論的枠組みとして、感情の社会構築説 (Averil, 1980) を採用し、その立場からタイ人の怒りの感情規則と表示規則を検討する。感情研究においては、感情が生得的で、普遍的なものであるという立場から研究がなれている一方で、感情が社会文化的に形成されたものであるとみなす、感情の社会構築論の立場からも研究がなされている (Cornelius, 1996)。感情の社会構築論を代表する研究者である Averil (1980) は、感情は個人とその文化の両方の構築物であると定義づけ (Cornelius, 1996 より援用)、感情が生得的なものではなく、社会文化的に形成されるものであると考えている。

感情の社会構築説の理論 (Cornelius, 1996) に基づいて、怒り感情の発生、表出 (対処方法)、終結をパラダイム (変化系列) にまとめると次のようになる。

- ①怒りを生じさせる出来事があり、怒り感情が発生する。その際、怒りを生じさせる出来事であるかどうかの判断は、社会文化的要因に影響されている。怒り感情を感じた状況、原因、対人関係などによって、その怒りがどの程度強く感じられるかも異なる可能性がある。
- ②発生した怒り感情に対して対処方法が決定される。怒りをいつ、どこで、どのように、誰に対して表出するか、あるいは表出すべきでないと判断するかは、その文化の社会的規範によって決定される (Porter & Samovar, 1998)。
- ③怒り感情表出の結果、行動変容が起きる。怒り感情を表出することは各文化において容認されている行動規範を伝達し、文化の再生産につながる。特に道徳的行動は、社会構築性の高いものである。社会で容認された道徳的行動に反する行動は、怒りを誘発する原因となり、怒りの表出を受けたものは、その行動がその社会においてふさわしくない行動であることを学習し、自らの行動の社会化に役立てる。また、どのよう

に怒りを表出するかによって、怒りを喚起させた相手との人間関係を調整する機能をもつ。

感情が社会構築されるものであるとすれば、ある文化の怒りの感情規則や表示規則を研究することは、その文化における社会的規範や価値観を研究することであるといえる。本研究は、日タイの社会的規範や価値観における文化差が、感情規則や表示規則の違いを生み出し、その違いが日タイ間の異文化コミュニケーションにおける誤解の原因となるのではないかという問題意識に基づく。

第2節 本研究の目的

上記の問題意識に基づいて、本研究では、タイ人の怒り感情の社会文化的要因について検討し、また日本人の怒り感情との違いを説明する次元を検討する。具体的には、以下の問題を検討する。

（怒りの感情規則について）

- ①タイ人はどのような誘因によって怒りを感じるか。
- ②タイ人の怒りの誘因は、タイ人の価値観とどのように結びついているか。

（怒りの表示規則について）

- ③タイ人は怒りを感じたとき、どのような対処方法をとるか。
- ④タイ人の怒りの対処方法は、状況によってどのように変化するか。
- ⑤タイ人の怒りの対処方法は、タイ人の価値観とどのように結びついているか。

（日タイの文化差）

- ⑥タイ人の怒りの誘因や対処方法は、日本人とどのように異なるか。
- ⑦日タイの怒りの感情規則と表示規則における文化差は、どのような価値観の差と関係しているのか。
- ⑧日タイの怒りの感情規則と表示規則における文化差は、異文化コミュニケーションにおける感情理解にどのような影響を及ぼしているか。

第3節 先行研究

第1項 表情研究

1.1 表情による感情の表示と認知における文化差

表情に関する研究は、文化的普遍性を実証した一連の研究 (Ekman & Friesen, 1971、Ekman et al., 1987、Izard, 1971) がある。表情の普遍性とは、ある感情をあらわす顔の表情は、人々の人種、文化、言語に関係なく、同じであるということである (Ekman & Friesen, 1971)。

人間の表情は生得的なものであり、文化普遍性があるとされる一方、人間は表情の統制が可能であり、その統制方法は文化によって規定されていることを示す研究がある。

Friesen(1972) は、表示規則における文化差を検証した。彼は、アメリカ人と日本人にストレスフルな映像を見せ、表情を観察する実験を行った。実験には、1回目は被験者のみ、2回目は年長者が同席した。1回目はアメリカ人も日本人もネガティブな感情（嫌悪、悲しみ、恐れ、怒り）をそのまま表出した。しかし、2回目では、アメリカ人は1回目と同様の感情表出をしたが、日本人はネガティブな感情を表出する代わりに微笑んだ。これは、日本人とアメリカ人は、同じ状況で同じ感情を感じているにもかかわらず、日本人には人前ではネガティブな感情を表出しないという表示規則があることを示唆している。

顔の表情に基づく感情判断における文化差を検証した研究がある。Matsumoto & Ekman(1989) は、日本人とアメリカ人の被験者を対象に、感情表出の強度を評定させる実験を行った。実験では、日本人と白系アメリカ人（コーカシアン）の男女被写体によって表出された6つの基本表情（怒り、嫌悪、恐れ、幸せ、悲しみ、驚き）のうち、恐れを除く5つの感情を表出した静止画をランダムに提示し、各表情の強度を評定させた。1回目は、それぞれの表情が何の感情を表しているかを被験者に言語で提示し、2回目は感情名を示さなかった。その結果、被写体の文化・性差にかかわらず、日本人がアメリカ人よりも強度を低く判断することが確かめられた。

Matsumoto(1992) は、日本人とアメリカ人を対象に表情の識別実験を行い、6つの基本表情の識別の的中率を比較した。日本人とアメリカ人の男女被写体によって表出された6つ

の基本表情（静止画）をランダムに被験者に提示して、感情を識別させた。その結果、4つのネガティブ表情（怒り、嫌悪、恐れ、悲しみ）の識別において、日本人の的中率がアメリカ人の的中率よりも有意に低いという結果が得られた。

Yuki, Maddux, & Masuda(2007)は、日本人とアメリカ人の表情識別を実験によって比較した。最初の実験では、日本人とアメリカ人に喜びと悲しみを表すアイコンを提示した。喜びを表す目と口のアイコン、無表情の目と口のアイコン、悲しみを表す目と口のアイコンを様々に組み合わせた刺激を提示し、喜びと悲しみの強度を評定させた。次の実験では、日米の被写体10名に喜びと悲しみを表出させて撮影した顔写真をもとに、喜びを表す目と口、悲しみを表す目と口を様々に組み合わせた刺激を作成した。それぞれの刺激を日米の被験者に提示し、喜びと悲しみの強度を評定させた。2つの実験の結果、アメリカ人は喜びや悲しみを口で表現した場合に感情評定が最も強く、日本人は喜びや悲しみを目で表現した場合に最も強いと評定することがわかった。表情から感情を読みとる場合、アメリカ人は口、日本人は目を主に手掛かりにしていることが示唆された。

日本人とアメリカ人を比較して、日本人がネガティブな感情をあまり表出しないため、アメリカ人よりもネガティブ表情の判断力が劣ることを示す研究がなされている

(Shioiri, Someya, Helmeste, & Tang, 1999a, Shioiri, Someya, Helmeste, & Tang, 1999b)。

Biel ら(1997)は、アメリカ人、ポーランド人、ハンガリー人、ベトナム人、スマトラ人、日本人を対象として、7つの基本表情（怒り、軽蔑、嫌悪、恐れ、幸福、悲しみ、驚き）を提示した表情識別実験を行った。しかしながら、アメリカ人の被験者数にくらべて、アメリカ人以外の被験者数が大幅に少なかった。そこで Shioiri, Someya, Helmeste, &

Tang(1999a)は、日本人被験者数を増やし、Bielら(1997)の使用した静止画を刺激として同様の実験を行い、Bielら(1997)のアメリカ人のデータと比較した。その結果、怒り、嫌悪、恐れ、悲しみの表情の識別において、日本人の的中率がアメリカ人の的中率よりも、有意に低いことが確かめられた。また、表情認知において、日本人被験者が悲しみと怒りの表情を嫌悪と間違える傾向がわかった (Shioiri, Someya, Helmeste, & Tang, 1999a)。

Shioiri, Someya, Helmeste, & Tang(1999b)は、日本人の各表情の的中率と評価された強度の相関を検討した。その結果、日本人は驚き・喜び以外の表情についてアメリカ人とは異なることがわかった。すなわち、恐れ、怒り、嫌悪の表情について、日本人は的中率が

低いにもかかわらず、強度を高く評定することがわかった。一方、アメリカ人にはそうした傾向が見られなかった。

1.2 表情における文化差を生み出す要因

表情における文化差については、Horimoto(2012)が論じたように、Matsumoto(1989)やMatsumoto & Ekman(1989)を避けて通ることはできない。彼らは、日本人がアメリカ人に比べて表情識別における的中率が低いのは、日本人が集団主義文化のため、集団の調和を維持するため、人前でネガティブ感情の表出を抑制するという表示規則があるためであると論じている。さらにMatsumoto(1992)が論じているように、表示規則と解読規則は密接な関係があり、日本人のネガティブ感情の識別の的中率の低さは、集団主義文化に根ざした解読規則にも関係がある可能性がある。

こうした表情の表出や識別に関する異文化比較は、主に日本人とアメリカ人の間でなされ、その結果が集団主義－個人主義の次元に結びつけられて解釈や理論化がなされてきた(Matsumoto, 1991、Matsumoto, 1996、Matsumoto, 1989)。しかし最近、日本人と中国人という同じ集団主義文化間でも、表情の表出や認知に文化差があることがわかってきた(米谷・趙, 2002、趙, 2002、趙・米谷, 2002、王・米谷, 2008)。

趙・米谷(2002)は、中国人の演劇学生12名を被写体とし、アドリブ演技のビデオ撮影を行い、どのような場面でどのような表情が表出されるかを検討した。一人の男子学生のアドリブ演技をFACSで表情分析したところ、7種類の明瞭な基本表情が確認された。しかし同時に、日本人の普段の表情と比較して、中国人に特有と思われる表情や身体動作があること、特定の表情が表出される場面について、日本人と中国人に違いのある可能性が示唆された。

米谷・趙(2002)は、中国人の演劇学生にアドリブでさまざまな感情表出場面を演じてもらったビデオを、日本人学生92名に見せ、9つの感情(幸福、驚き、恐れ、怒り、嫌悪、悲しみ、軽蔑、興味、恥じらい)について、表出の強度を評定させた。その結果、日本人が中国人を見るとき、日本人が日本人を見るときとは異なる認知構造を使用していること、また、その構造は、日本人が欧米人を見るときとよく似たものであることが示唆された。

趙(2002)は、表示規則の日中比較をするため、日本人と中国人を対象に質問紙調査を行い、公的状況と私的状況における6つの基本感情(喜び、悲しみ、怒り、恐れ、驚き、嫌

悪)の表出の程度を評定させた。その結果、日本人も中国人も、公的状況において、私的状況よりも感情表出を抑制する方向に表示規則が働くことが示唆されたが、公的状況において、日本人の方が中国人より、喜びと恐れをより強く表出する一方、中国人の方が日本人より怒りを、より強く表出する傾向があることが示唆された。

王・米谷(2008)は、日本人と中国人を対象に、面接調査中の顔の動きをビデオ撮影し、表情分析を行った。その結果、中国人の男性は日本人男性よりも表情の表出回数が多いが、1回あたりの表情表出時間は短く、微笑を含まない表情の表出が多いことが見出された。

1.3 表情識別実験に用いる刺激

Matsumoto(1992)は、普遍的感情の識別に関する文化的相違を検討する実験において、刺激として用いる表情写真をどのように準備するかについて、次のように述べている。「全ての写真は普遍的感情の表出における外的基準を全て満たすべきであり、被験者のほとんどがその表出感情を判断できるものでなければならない」外的基準については、Ekman & Friesen(1978)が開発したFacial Action Coding System (FACS)を用いることを推奨している(Matsumoto, 1992)。FACSは、顔の筋肉の動き(Action Unit: AU)44種からなる表情分析システムであり、基本感情を表出する際の、目、口、眉など、顔の様々な部分の筋肉がどのように動くかを記述するものである。この基準を満たす刺激用写真セットとして、Matsumoto と Ekman は、Japanese and Caucasian Facial Expressions of Emotions(JACFEE)を開発した(Biel et al., 1997)。JACFEEは、日本人と白人の男女2名の7つの基本感情の表情写真56枚のセットである。すべての写真は、FACSを使用したコーディングによって、普遍的感情の外的基準を満たしていることが確認されている。写真の表情は、被写体が顔の各部分を指示された通りに動かす動作教示法によって表出したものを撮影したものである。

こうした動作教示法により作成した表情を刺激に用いた表情識別実験(Matsumoto, 1992、Biel et al., 1997)について、その後問題性が指摘されるようになった(Beaupre & Hess, 2006、Elfenbein et al., 2007、Shioiri et al., 1999a、Shioiri et al., 1999b)。

Elfenbein & Ambady(2002)は、表情識別におけるイングループ・アドバンテージの点から問題性を指摘している。イングループ・アドバンテージとは、被写体が識別者と同じ地域、民族、文化の場合、表情識別の的中率が高くなることである。これは、同じ表情であ

っても、地域、民族、文化により表出方法や識別方法に違いがあることを示唆している。Matsumoto(1992)は、表情識別の文化差を検討する際、FACSによって記述された基本表情を用いるべきであると主張している。Ekman & Friesen (1978) が定めた基本表情は、北米の人が感情を表出する際の顔の筋肉の動きの分析に基づくものである。従って、JACFEEのように基本表情のFACSによって厳密に作成された表情は、北米の文化の影響を受けている可能性がある(Beaupre & Hess, 2006)。

動作教示法によらず、被写体が自然に感情を表出することにより撮影した表情を用いた実験から、自分と同じ文化の被写体の表情を、他の文化の被写体の表情より正確に識別することを示す研究もある(Beaupre & Hess, 2006、Elfenbein & Ambady, 2002、Elfenbein et al, 2007、Tang, Ou, Wu, & Kong, 2011)。

Beaupre & Hess(2006) は、カナダのケベック州に住む移民者と現地在住者間の表情識別におけるイングループ・アドバンテージと社会化を実験によって検討した。この研究では、2つの実験を行った。第1の実験では、外集団である中国系及びアフリカ系カナダ移民一世と内集団であるフランス系カナダ人を対象に、被験者と同じ中国系、アフリカ系、フランス系カナダ人被写体に、6つの基本感情を表出させて撮影した写真を提示し、外集団と内集団の表情識別の的中率と確信度の相関を検討した。その結果、自分と異なる文化の被写体の表情を正しく判断した場合でも、確信度は低いことがわかった。第2の実験では、内集団であるフランス系カナダ人と、外集団である中国系カナダ人(移民1年未満、移民5年以上)を対象に、フランス系及び中国系カナダ人被写体が表出して作成した6つの表情(表出弱、表出中)の写真を提示し、各表情を識別させ、確信度を評価させた。その結果、フランス系カナダ人と移民1年未満の中国系カナダ人は、自分と同じ文化の被写体の表情識別において確信度が高くなったが、移民5年以上の中国系カナダ人はフランス系及び中国系とも、確信度が高いという結果となった。これは移民者の滞在年数が長いほど、異文化である現地在住者の表情識別の確信度が高くなることを示唆している。つまり、異文化の人々との接触初期は表情識別の確信度が低い、接触期間が長くなるにつれて表情の識別の確信度が高まることが示唆された。

Elfenbein ら(2007) は、異文化間の表情識別におけるイングループ・アドバンテージを引き起こす要因として、表情表出に文化差が存在し、その文化差が異文化の表情識別の的中率を低下させているのではないかという仮説を立て、それを実証するために2つの研究

を行った。研究1では、カナダ人とガボン人の大学生各30名に、10の表情（怒り、軽蔑、嫌悪、困惑、恐れ、幸せ、悲しみ、平静、恥、驚き）を感情教示法により撮影した。撮影された各表情をFACSにより分析し、比較した結果、恐れ、嫌悪、困惑以外のすべての表情（AU）に有意な文化差があることが確かめられた。研究2では、カナダ人とガボン人の学生各40名に、研究1に参加したカナダ人とガボン人の被写体が感情教示法により表出した10の表情写真（計600枚）と、カナダ人とサブサハラアフリカ人の被写体が動作教示法によって表出した6つの基本表情セットであるMontreal Set of Facial Displays of Emotion(MSFDE)の写真（計48枚）を提示して、表情識別をさせた。その結果、全ての表情において、自分と同じ文化の被写体の表情が、自分と異なる文化の被写体の表情よりの的中率が高くなり、イングループ・アドバンテージを支持する結果となった。また、研究1で特にAUの差異が大きい表情において、イングループ・アドバンテージがより顕著になるということがわかり、表情表出における文化差がイングループ・アドバンテージを引き起こしていることが示唆された。

Tang, Ou, Wu, & Kong(2011)は、白人、アフリカ系アメリカ人、中国人、スペイン人の被写体によって表出された、高強度と低強度の6つの表情（喜び、怒り、恐れ、悲しみ、嫌悪、中立）の三次元写真96枚(Penn Emotion Recognition Test)をアメリカ人と中国人に提示し、表情識別させた。その結果、アメリカ人は低強度の表情よりも高強度の表情の方が的中率が高かったが、中国人は低強度の表情の的中率がアメリカ人よりも高かった。中国人はアメリカ人に比較して、感情をあまり強く表出しないため、低強度の表情の方が、中国人には見慣れている。一方、アメリカ人には高強度の表情の方が見慣れたものであるので、表情識別の的中率にこうした違いが表れたのではないかと推察している。

Shimoda, Argyle, & Bitti(1978)は、表情識別実験で静止画を用いることを問題視し、動画を刺激として用いた実験を行った。この研究では、日本人、イギリス人、イタリア人の被写体に、感情教示法によって8つの感情（驚き、憂鬱、悲しみ、嫌悪、幸福、怒り、心配、恐れ）と4つの態度（高慢、素直、友好的、敵意）を表出させて、ビデオで撮影し刺激とした。その動画を日本人、イギリス人、イタリア人の被験者に提示し、表情の識別をさせた。その結果、どの表情も比較的正しく識別されたものの、日本人のネガティブ表情の的中率が、他の感情の的中率よりも低いだけでなく、他の文化の被写体のネガティブ表

情よりも低いことがわかった。その要因として、イギリス人とイタリア人よりも日本人がネガティブ表情をあいまいに表出しているからではないかと考察した。

第2項 感情の社会構築性

感情の社会構築説の立場をとる研究者（Averil, 1982、Cornelius, 1996、Sabini & Silver, 1982）は、個人の文化や価値観と怒りとの関連について、次のように論じている。Averil(1982)は、怒りの要因は、自分が何らかの形で「不当な扱い」をされたという認識であり、怒りの誘因をもたらすものにより「容認できる行動規範」が踏みにじられたという認識であると論じている。「容認できる行動規範」とは文化による多様性があり、ある状況において怒り感情を感じるかどうかは、文化によって異なると考えられる。

Cornelius(1996)は、「特定の行動をいかに解釈するか」は、その人と、その動機、人格、生活史、個人間、文化的背景に左右されると論じている。自分の文化の中で自分や他人の行動の特有の解釈方法、つまり「怒りにふさわしい状況」が学習されていると考えられる。

怒りには「道徳的非難」に役立つ働きがある（Sabini & Silver, 1982）。道徳とは人間によって作られたものであり、文化によって異なる。またある文化の価値体系を維持するために怒りが表出されると考えられる。怒りを表出することにより、怒られた者は、それが怒るべきことだと学習し、他人が同じことをしたときに同様に怒りを感じたり、表出したりするようになると考えられる。

このような社会構築主義論の立場から、怒りの社会的機能について先行研究が行われてきた。Averil(1982)は、怒りが特定の社会的、個人的目標を達成するために起こす意味ある行為であると主張し、怒り経験を構成する各水準での反応を測定するエピソード法と呼ばれる調査法を考案し、米国の社会人や学生を対象に、日常生活における怒りの誘因、表出方法、他者の怒り表出に対する反応などについて研究した。その結果、怒りの表出には、直接的攻撃、間接的攻撃、非攻撃的反応など、様々な種類があることを見出した。また、怒りには相手の間違いを正したり、人間関係を調節したりする社会的機能があると論じている。

第3項 日本人の怒り表出

大淵・小倉(1984)は、Averil(1982)が考案した質問紙を邦訳し、日本の社会人や学生を対象に、日常生活における怒りの誘因、表出方法等について同様の研究をした。その結果、日本人の怒りの表出方法として、非攻撃的反応が最も実行率が高かった。非攻撃的反応には、「心を鎮める」「第三者と相談する」「相手との話し合い」「怒りと反対の表現」があるが、実行率が最も高いのは「心を鎮める」、次が「第三者と相談」であった。「相手との話し合い」は、6割の被験者が実行を願望しているにも関わらず、実際には3割しか実行していなかった。このことについて大淵らは、「相手との話し合い」は状況の変化を直接的に目指すかなり積極的な行動だが、被験者にはしばしば実行が困難に感じられたようだと考察している。

木野(2000、2004a、2004b)は、Averil(1980)の感情の社会構築説の立場から、日本人の怒りの表出について検討している。

木野(2000)は、日本人の怒りの表出様式の特徴と、表出方法の違いが怒りの伝達度および印象形成に及ぼす効果を比較検討した。研究1では、日本人大学生247名(男103名、女136名)を対象に質問紙調査を行った。回答者は、4つの仮想場面と3つの人間関係(同性の先輩、同輩、後輩)を組み合わせた12通りの想定場面において感じると思われる怒りの程度と表出方法を回答した。その結果、日本人の怒りの表出方法として、「遠回し」「表情・口調」「いつもどおり」という3種類の抑制的な表出方法がよく用いられることが見出された。研究2では、研究1で得られた結果に基づき、日本人大学生162名(男女各81名)に、被写体に怒りを喚起させる仮想場面の描写文とそれらの場面で、「遠回し」「表情・口調」「いつもどおり」の3種類の怒りの表出を行う人物を録画したVTR刺激を提示し、被写体の怒りの程度と被写体の印象を評定させた。その結果、怒りの伝達度は、「表情・口調」が最も高く、順に「遠回し」「いつもどおり」となった。怒り被写体への対人印象は、「いつもどおり」が最も良く、次に「遠回し」「表情・口調」の順であり、怒りの伝達度が低い方が対人印象が良くなることが見出された。その理由について、木野は、日本の社会では和が強調され、あえて自己主張しなくても相手は真意を理解してくれるであろうという期待を前提とする、察しのよい関係が要求されているからではないかと論じている。

また、Averil(1982)が米国マサチューセッツ州の住民や学生を対象に行った怒りの研究との比較において「いつもどおり」や「遠回し」といった婉曲的な表出方法は見られなかつ

たことから、木野（2004b）は、こうした婉曲的な表出方法が、日本的対人行動の特徴と合致するものであると論じている。

第4項 タイ人の怒り表出

タイ人の怒りの表出に関する実証的な研究はまだ行われていない。しかし、タイ人の行動規範や価値観に関する先行研究は、タイ人の怒りの対処方法を検討する上で、大いに参考になると考える。

タイ人の社会的行動についての研究は西洋の文化人類学者によって始められた。

Embree(1950) は、タイ人の社会構造の特徴として、日本、中国、ベトナムとは対照的に、社会における個人行動の多様性が容認された「ゆるい構造」をもつ社会であると説明した。その後、コーネル大学の Sharp ら(1953) によるバーンチャン村における研究プロジェクトが本格的に行われ、Embreeの提唱したタイ社会の「ゆるい構造」説が裏付けられ、タイ人の社会行動を説明する上での主流的な解釈となった。その後、Philips(1965) は、「ゆるい構造」説を発展させ、タイ人が利己的で自由を求める「個人主義」的な性格をもつと説明した(Komin, 1990 より援用)。

タイ人社会心理学者 Komin(1990) は、こうした西洋人研究者によるタイ人論は個人的な観察に基づくものであり実証性がないと考え、タイ人の価値観に関する大規模な調査研究を行った。その調査では、Rokeach(1973) の価値概説に基づいて、「最終価値」20項目と「手段価値」23項目からなるタイ人の価値尺度を作成し、2469名(15～70歳)を対象に質問紙調査を行った。調査対象者は、タイ全国の農業従事者、商業従事者、学生、公務員など、様々な職業及び階層のタイ人を含んでいた。調査では、「最終価値」20項目と「手段価値」23項目を提示し、重要度が高いと思われる順に並べ替えさせた。

その結果、タイ人の国民性を表すと考えられる9つの価値群が見出された。重要度の高い順に、①エゴ志向、②報恩的關係志向、③円滑な人間関係志向、④融通性と適応志向、⑤宗教・霊志向、⑥教育と能力志向、⑦相互依存志向、⑧楽しさと喜び志向、⑨達成・任務志向であった。Komin は、タイ人のエゴは独立、自尊心、尊厳を意味し、Hofstede(1984) のような西洋的個人主義とは別物であると論じている。

タイ人にとって最も重要な価値観は「エゴ志向」であることが見出されたが、Komin(1990) は、この結果に基づいて次のように論じている。

「タイ人は自我が大きく、自分のエゴに対するいかなる侵害にも耐えられない。冷静で、静かな外見にもかかわらず、自我や両親といった自分の自我に最も近い存在の人が侮辱されれば、強い感情的な反応がすぐに引き起こされる。そのためタイ人の人間関係には、不必要な衝突を避けるための「回避メカニズム」が必然的に生まれる。」(Komin, 1990, p. 150 を筆者が和訳)

彼女は、その「回避メカニズム」となるのが、ネガティブな感情の表出を抑制し、表面的な調和(Surface Harmony)を演出する「円滑な人間関係志向」に特徴づけられるタイ人の行動様式であり、タイ人の円滑で楽しく礼儀正しい相互作用は他人のエゴを傷つけないための配慮によるものであると述べている。

西洋人と異なるタイ人の文化的行動様式を解説した Holmes & Tangtongtavy(1995) は、相互依存にもとづく強固なヨコの人間関係の維持と、社会的身分格差を受け入れ忠誠と見返りを望むタテの関係とが、タイの社会の土台をなすと論じている。また、タイの社会を、家族の世界、気配りの世界、自分本位の世界の3つに区分し、特に気配りの世界では、様々なタイ的価値観が重視されると説明している。彼らはこのタイ的価値観の一つとして「自己抑制(サムルワム)」を挙げており、タイ人は仏教文化に大きく影響された家庭環境の中で、自分を抑えて平静さを保ち、怒りを始めとする様々な感情を露骨に外に表すことを避けるように教えられると述べている。

こうしたタイ人の価値観は、タイ人の幼少時における道德教育とも深い関係があると考えられる。野津(2005)は、タイ東北の小学校を対象としてタイの僻地農村で生まれた子供たちが、学校教育を通じてどのようにタイ国民としてのアイデンティティを形成していくかについて、エスノグラフィによる調査を行った。その結果、タイ国では国民教育政策として国家、仏教、王室に対する忠誠心を育成する「ラックタイ」重視の教育内容があらゆる教科に組み込まれていると報告している。

1929年に初版が刊行された「ラックタイ」はサガー・カンチャナーカパンというタイを代表する知識人によって著された書物で、国民の民族愛、仏教への帰依、国王への忠誠を鼓舞する内容である(赤木, 1989)。小学校の道德教育では、共同体での団結、調和、年功序列、遠慮、寛大、犠牲、謙虚、人間関係における恩義の念が強調されている(野津,

2005)。

第5項 日タイの文化差

本研究で日本人との比較によりタイ人の怒りの感情規則と表示規則を検討するにあたり、日タイの文化差について調査した先行研究の結果について概観する。

Hofstede, Hofstede & Minkov (2010) では、日本とタイを含む70カ国以上を対象とした国民文化の調査を行い、各国の国民文化を権力格差、集団主義対個人主義、女性らしさ対男性らしさ、不確実性の回避、長期（実用的）志向対短期（規範的）志向、人生の楽しみ方（充足的対抑制的）の6つの次元での傾向を指数で示している。各次元における日タイの指数は表1の通りである。

表1 6つの文化の次元における日タイの指数比較

	タイ	日本
権力格差容認	64	54
個人主義度	20	46
男らしさ	34	95
不確実性回避	64	92
長期的志向	32	88
人生の楽しみ方	45	42

権力格差容認の次元では、タイも日本もどちらかと言えば容認度が高く、タイの方が日本よりも高い。個人主義の次元は、タイは集団主義的で、日本は少し集団主義的である。男らしさの次元では、タイは男らしさの指数が低く女らしさの強い文化であるが、日本は男らしさの指数が非常に高い。不確実性回避の次元は、タイも日本も指数が高いが、日本の方がより指数が高く不確実性を嫌うと考えられる。長期的（実用的）志向は日本の方が高く、タイは短期的（規範的）志向が高い。人生の楽しみ方次元は、日本もタイもどちらかといえば抑制的である。

このように、日本とタイは権力格差容認がどちらかと言えば高く、集団主義的で、不確実性を嫌う傾向が強く、多少抑制的であるという点で共通点があるものの、成功や競争を好む（男らしい）日本とは異なり、タイはお互いの思いやりを重視する（女らしい）文化であり、また伝統的な規範よりも実的によいことをすることを好む日本と異なり、タイは伝統的な規範を重視し名目的によいとされていることを好むという文化的差異があるも

のと推察される。

また、世界各国の人々の価値観を比較する世界価値観調査（World Value Survey）は、社会文化、政治、道徳、宗教などにおける価値観を調査している。同調査のWave 6

（2010-2014年実施分）の日タイの結果を見ると、家族が非常に重要であるという回答が、タイ人は88.6%、日本人は90.8%となり、友人、娯楽、政治、仕事、宗教の中で最も重視されている点で共通していることがわかる。しかし、宗教の重要性のみ、日本人の34.3%が「全く重要ではない」という回答が最も多かったのに対し、タイ人は「非常に重要」という回答が56.6%で最も多く、日タイ間の差異が大きかった。また、同調査では、日本が儒教圏文化、タイが南アジア文化に分類されている。

第6項 Horimoto(2012)の再検討

Horimoto(2012)では、タイ人が日本人は怒りやすいと感じるのは、怒り以外の表情を怒りと誤解しやすいからではないかという仮説を設定して、ネガティブ感情と無表情の静止画を刺激として実験を行った。

実験では、19～29歳までの日本人大学生と大学院生40名（男性20名、女性20名）、タイ人大学生46名（男性19名、女性27名）を被験者として、日本人は日本の大学の教室、タイ人はタイの大学の教室で実験を行った。被験者はタイに住む日本人や日本に住むタイ人を含まなかった。実験の指示は、日本語とタイ語で行われた。実験は小グループで行われ、被験者には表情の写真を1度に1枚ずつ、ランダムな順番に40枚の写真が提示された。被験者は写真を見て、その写真の表情が最もよく表していると思われる感情を回答用紙の選択肢の中から一つ選んだ。

提示した写真は、25～40歳の日本人とタイ人の男女2名ずつがカメラの前で作った4つのネガティブ表情（怒り、嫌悪、恐怖、悲しみ）と無表情の5つの表情を写した計40枚の写真である。表情写真の撮影は、各感情用語を被写体に示し「最近その感情を経験した状況」を被写体自身に想起させることで感情を表出させる感情指示法によって行った。

実験結果は、タイ人が日本人の被写体の無表情を見た場合、17.9%が怒りと誤解し、タイ人の被写体の場合の9.8%と比較して誤解する率に約2倍の差を示した。一方、日本人が無表情を識別した際に怒りと誤認する割合は、日本人被写体(6.9%)、タイ人被写体

(5.0%)であった。被写体の国籍別の日本人及びタイ人被験者の回答内訳は図 1-1 の通りである。

しかしながら、Horimoto(2012) は、タイ人と日本人が無表情を識別するときに生じた判断の誤りについて、詳しい統計的検討をしていないので、ここで改めてその実験結果の一部を再分析し、タイ人が日本人の無表情を誤認する際に怒りと誤認しやすい傾向について、日本人が被験者のときのデータやタイ人が被写体のときのデータと比較して統計的に有意な差があるかどうかを確認した。

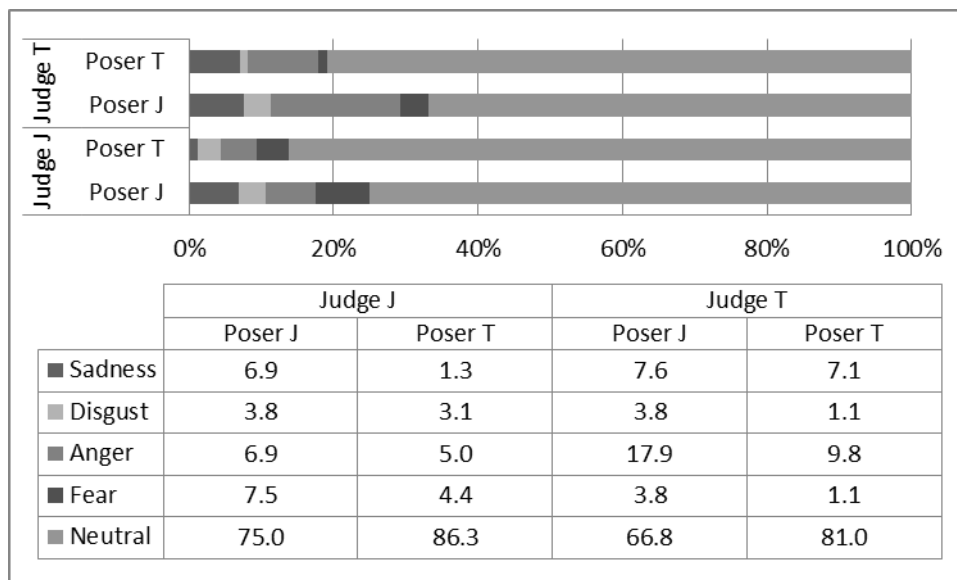


図 1-1 被写体国籍別無表情識別の回答内訳

Horimoto(2012) の実験結果をもとに作成

上記結果の統計的有意性を検証するため、被写体を F(Female) 、 M(Male) 、 J(Japan) 、 T(Thailand) の 4 つの項目に分けて、グループ間 (JF vs JM 、 TF vs TM、 J vs T、 F vs M) の怒りへの誤認の有意差を調べた。また、怒り以外の悲しみ、嫌悪、恐れへの誤解についても国籍の効果について、 χ^2 検定を行った。

再分析の結果、性別 (JF vs JM 、 TF vs TM、 F vs M) での有意差はなかったが、国籍差 (J vs T) においてのみ有意差が認められ ($\chi^2(1, N=51)=4.41, p=.04.$) 、 Horimoto(2012)

の表情識別実験においてタイ人被験者が日本人被写体の無表情をタイ人被写体の無表情より有意に怒りと誤解していたことが確かめられた。

また、タイ人被験者が日本人被写体の無表情をタイ人被写体の無表情よりも、有意に怒り、嫌悪、恐れといったネガティブな表情に誤解していたことも確かめられた ($\chi^2(1, N=69)=9.86, p=.00.$)。これらは、無表情の認知において、タイ人が日本人の無表情をタイ人の無表情よりも怒りを含めたネガティブな感情に誤認しやすいことを示唆していると考ええる。

次に、その誤認の原因のひとつが日本人とタイ人の無表情の差異ではないかという仮説をたて、表情分析により検証を試みた。同じ無表情ではあっても、Elfenbein ら (2007) の研究結果で示唆されたように、表出する際に動かす顔の筋肉の部位に文化差があり、その違いがタイ人が日本人の無表情の判別を誤認しやすくしている可能性がある。そこで、Horimoto (2012) が実験に使用したタイ人と日本人の被写体の無表情写真を分析し、表出上の違いが認められるかどうかを確かめた。

表情分析では、表情分析の専門家に FACS (Ekman & Friesen, 1978) に基づき、刺激とした 8 枚の無表情写真 (日本人及びタイ人の男女 2 名) をコーディングしてもらった。その結果、どの写真にも表情筋の動きが認められなかった。したがって、無表情の表出方法について、日本人被写体とタイ人被写体で明確な差異があるとは言えないことがわかった。つまり、タイ人が日本人の無表情を有意に怒りと誤認する理由は、無表情の表出方法以外にあると考えられる。

第 4 節 博士論文の構成

博士論文は全体で 5 章からなる。序章では、本研究の背景となる問題意識と目的について述べ、関連する先行研究を概観する。

博士論文研究では、3 つの研究を行う。まず、タイ人の無表情認知に関する社会文化的要因を検討する (研究 1、第 1 章)。次に、タイ人の怒りに関する仮説探索的アプローチとしてタイ人の怒りの誘因と対処方法を面接調査に基づいて検討する (研究 2、第 2 章)。

さらに、面接調査によって得られた知見に基づきタイ人の怒りの感情規則と表示規則を質問紙調査によって検討し、日本人との比較を行う（研究 3、第 3 章）。

第 4 章では、3 つの研究の結果を総括し、序章であげた各問題について総合討議を行う。

第1章 研究1 タイ人の無表情認知に関する社会文化的要因の検討

第1節 目的

Horimoto(2012)がタイ人と日本人の表情写真を用いた実験から、タイ人と日本人の文化差に関して、タイ人が日本人の無表情を誤認するとき、怒りと判断しやすいことが示唆された。また、第1章第3節第6項のHorimoto(2012)のデータの再検討結果から、タイ人が日本人よりも、日本人の無表情を怒りを含むネガティブ感情と誤認する確率が有意に高いが、その理由は日本人とタイ人の無表情の差異ではないことが確認された。これは、タイ人が日本人よりも無表情を怒りと誤認しやすい傾向をもつことを示唆していると考察する。

つまり、表情の表出方法といった外見的な違いではなく、他の何らかの文化的要因の無表情認知への影響によって、タイ人が日本人よりも無表情を怒りやその他のネガティブ感情と誤解する傾向が高いのかもしれない。

日本人は日常生活において、感情をはっきりと顔に表出することが少なく、無表情でいる機会が多いと考えられる。しかし、日本人が無表情でいるということが、単に感情を表出しないということだけではなく、タイ人に怒りのようなネガティブな感情に誤解される傾向があるということは、異文化コミュニケーションを行う上で、大きな問題であると考ええる。しかし、タイ人が日本人の無表情を怒りと誤認しやすいことがわかっても、そうした誤認がどういった原因で生じるか、そうした誤認がどのようなメカニズムで生じるのかわからなければ、タイ人と日本人の円滑な異文化コミュニケーションを実現するための正しい方策は考えようがないだろう。

ところで、これまで無表情が他者にどう認知されているのかについて検討した研究はある(関・綾部, 2013、柴田, 2013)が、表情認知における誤解がなぜ生じるか、文化(差)と関連付けてその原因を解明しようとする研究はこれまでほとんどなされていないように思われる。Horimoto(2012)が述べているように、タイ人の感情や表情に関する心理学的研究はほとんどなされていない。

こうした表情認知における誤解の原因を解明することは、効果的な異文化コミュニケーションを行う上で、非常に重要であると考えられる。

本研究では、タイ人が無表情をなぜ怒りと誤認しやすいのかという問題から出発し、その根底にある表情表出の文化的特性、特に社会文化的要因といわれる表示規則、そしてそれと関連する社会文化的要因である感情規則を、タイ人について日本人と対比させながら検討する。具体的にはタイ人を対象とした面接調査を行い、識別実験に使用された無表情の写真がどのように見えるか、また日常生活で他者が無表情をしたときにどのような印象をもつかなどを調べ、無表情が怒りと誤認されやすい社会文化的要因を検討する。

第2節 方法

面接調査では、タイ人17名（男性8名、女性9名）が回答者となった。回答者は、以前に実験には参加したことはなく、実験用の写真を見るのも今回が初めてである。面接調査の所要時間は、1人約10分である。

面接調査では、まず Horimoto (2012) の実験に使用した日本人被写体4名、及びタイ人被写体4名、計8名の刺激用写真の内、無表情の写真(8枚)のみをランダムに1枚ずつ提示し、各表情がどのような感情を表しているかを判定してもらった。Horimoto (2012) の実験の際には、悲しみ、嫌悪、怒り、恐れ、無表情の5つの選択肢からもっとも自分の判断に近いものを選んでもらったが、今回の面接調査においては自由に回答してもらった。選択肢から選ぶ場合、回答者が選択肢にない感情だと判断した場合でも、選択肢の中から回答を選択せざるを得なくなるためである。次に、すべての写真を同時に見せて、タイ人と日本人の無表情の全体的な印象の違いをたずねた。最後に、回答者が日常生活において無表情に対してどういう印象をもつか質問した。

第3節 結果

無表情の判断における的中率は、タイ人が日本人の被写体の無表情を見た場合26.5%、タイ人の被写体の無表情を見た場合39.7%であった。Horimoto(2012)の実験で得られた無表情に対する的中率（タイ人被写体81.0%、日本人66.9%）よりの中率が大きく低下しているが、これは無表情を判断させた際に自由回答させたことが影響していると考えられる。

次に、無表情以外の感情への誤判断を、ネガティブ感情、ポジティブ感情、及びニュートラル感情に分類した。ネガティブ感情には、怒り、悲しみ、恐怖、疲れ、真面目、不安に類する感情が含まれる。ポジティブ感情には、幸福、喜びに類する感情が含まれる。ニュートラル感情には、驚き、疑問、無関心が含まれる。無表情の判断において、日本人被写体の無表情については、ネガティブ感情の表出とする判断は48.5%であり、48.5%のうちで怒りに類する感情の表出と判断は14.7%、ポジティブ感情の表出とする判断は22.1%、ニュートラル感情の表出とする判断は2.9%であった。

一方、タイ人被写体の無表情については、ネガティブ感情の表出とする判断は33.8%であり、33.8%のうちで怒りに類する感情の表出とする判断は7.4%、ポジティブ感情の表出とする判断は14.7%、ニュートラル感情の表出とする判断は11.8%であった。

また、日本人及びタイ人被写体の全ての無表情の判断について、ネガティブ感情の表出とする判断は35.3%であり、35.3%のうちで怒りに類する感情の表出とする判断は11.0%、ポジティブ感情の表出とする判断は18.4%、ニュートラル感情の表出とする判断は7.4%であった。この結果の統計的有意性を検証するため、無表情以外の感情への判断をネガティブ感情VSポジティブ感情+ニュートラル感情の2つに分類し、グループ間の有意差を χ^2 検定によって検証した。その結果、有意差が認められ（ $\chi^2(1, N=83)=22.42, p=.05$ ）、無表情の判断においてポジティブ感情やニュートラル感情よりも有意にネガティブ感情に判断されていたことが確認された。

日本人とタイ人の無表情の写真8枚すべてを同時に見せながら日タイ間の表情の違いについて聞いたところ、半数以上の回答者（17名中9名）が、日本人とタイ人の無表情の表出写真に違いはないと答えた。他方、違いがあると答えた者は、日本人とタイ人の顔つき

やまなごしにわずかな違いがあると答えた。また違いがあると答えた者のなかには、日本人の無表情の方がタイ人よりも真剣で、目つきがきついと答えた者もあった。

日常生活における対人場面での無表情の印象についての質問に対する回答の一部を以下にあげる。なお、面接調査で使用した言語はタイ語であり、ここには筆者がそれを日本語に翻訳したものを掲載する。

「何を考えているのかわからない」

「話しにくい」

「何か問題がある」

「相手が自分に興味がない」

「距離をおかれた」

「怒っているのかなと思う」

「タイ人はあまり無表情にならない」

「目上の人に怒ったときは無表情になる」

「日本人の方がタイ人より無表情でいることが多い」

「タイ人は普段はまず微笑む」

タイ人が対人場面において、無表情に対してどういった印象をもっているのかの質問に対する回答は、次の3つにまとめることができる。

- ①対人場面において相手が無表情の場合、自分の話に興味がない、機嫌が悪い、会話を避けているといったネガティブな印象をもつ。
- ②タイ人はよく微笑み、対人場面において無表情となることはほとんどない。
- ③対人場面において、日本人はタイ人よりも無表情でいる場合が多い。

以上の結果から、タイ人にとって対人場面における無表情とは、単に感情を表出しないというだけではなく、それ以上のネガティブな含意を示すものであるということが示唆された。

第4節 考察

本研究では、無表情がタイ人に怒りと誤認されやすいことについて、その文化的要因を検討する手がかりを探るため、17名のタイ人への面接調査を行い、実験に使用された無表情の判断と日常生活における無表情の印象について質問した。その結果、タイ人が無表情を見た場合、怒りを含むネガティブな感情に誤認する傾向が高いことが確認された。また、タイ人がなぜ日本人の無表情を怒りと誤解しやすいかは、タイ人の無表情の文化的解釈規則が影響していることが示唆され、日常生活における対人場面においてタイ人は微笑むことが多いので無表情をネガティブな表情と誤認しやすいのかもしれないと考察した。

以下、面接調査の結果をもとに、筆者のタイでのタイ人との生活経験をふまえながら、今回の研究で得た知見について議論したい。

タイは「微笑みの王国」と呼ばれる (Cooper & Cooper, 1996) ように、タイ人はよく微笑む。タイ人は、特に何か機嫌が悪いときでもなければ、誰かに会ったらまずは微笑んでおこうと考える。タイ人の微笑みは、相手に対して敵意を持っていない、あるいはネガティブな感情を持っていないという意味をもつ。従って、タイ人が対人場面で微笑んでいないということは、何か問題が起こった、あるいはネガティブな感情をもっているというサインとなる。また、目上の人に対してなど、タイ人は怒りを感じていても、その感情を直接表現することがはばかれる場合は、無表情となることが多い。このようなタイ人独自の文化的表示規則は、相関的に表情の解釈規則に影響を及ぼしているのではないだろうか。つまり、タイ人にとって、無表情というのは、怒りを含むネガティブな感情の表出手段なのであり、そのため、無表情を見た際に、怒りやネガティブな感情だと誤認する可能性が高くなったのかもしれない。

反対に日本人は、特に職場やフォーマルな場などでは、微笑むよりも無表情でいることが、真面目さや真剣さを表し、決してネガティブには解釈されない。また、日本の文化では、ネガティブであれポジティブであれ、思ったままの感情を表出するよりも、感情を抑制することが賞賛される傾向があり、日常生活において日本人は無表情でいる機会が多いといえよう。

無表情の認知について、渡邊ら (2002) の線画を用いた実験では無表情は多様に認知されることが見出されたが、Lee et al. (2008) が表情写真を用いて行った実験からは無表情が

ネガティブ感情の表出として認知されることが示唆された。関・綾部 (2013) は、笑顔を絶やさない人が何か考え事をし、いわゆる真顔＝無表情であると、「怒っているのだろうか？」とを感じるように、前の表情がその後の表情の認知に影響する表情の文脈効果 (after effect) を検討するため、無表情に対して観察者が何らかの感情を認知する場合の要因を検討する実験を行った。その結果、幸せ表情から切り替えられた無表情は怒り表情として、怒り表情から切り替えられた無表情は幸せ表情として認知されることを示した。

従って、タイ人が無表情を、怒りを含むネガティブな表情に誤認する傾向が日本人よりも高いのは、このような表示規則における日タイの文化差が原因であるかもしれない。タイ人は、無表情をネガティブな感情と解釈する一方で、日本人はタイ人よりも無表情でいることが多い。こうした無表情におけるタイ人の解読規則と日本人の表示規則が相乗効果を生み出し、さらには、異民族間の顔つきの違いも相まって、日タイの異文化コミュニケーションにおいて、タイ人が日本人の無表情を見て、怒りを含むネガティブな感情をもっていると誤解する機会は、さらに多くなる可能性があるのではなかろうか。

以上の議論に基づく考察を以下の通りまとめる。

- ①タイ人は無表情を一般的に怒りと誤認しやすい。
- ②タイ人は日常的な対人場面において怒りを無表情で示す（という表示規則がある）。
- ③怒りの表示規則が、無表情識別の誤認の要因の一つになっている。

第2章 研究2 タイ人の怒りに関する社会文化的要因の検討 ～面接調査による質的研究～

第1節 目的

タイ人の怒りに関する研究はまだ行われていないため、タイ人がどのような誘因に対して怒りを感じるのか、怒りを感じた場合にどのように対処するのか、なぜそうした対処方法をとるのかについて、仮説に基づく実証研究を行うことが難しい。そこで本研究では、タイ人の怒りの感情規則と表示規則に関する予備的検討として質的研究を行う。質的研究法は、特定の観察によって得られたデータに存在するパターンを発見し理論化する帰納的推論に適した研究方法である (Baxter & Babbie, 2004)。

本研究では、感情規則に関しては怒りの誘因を、表示規則に関しては怒りの対処方法を調査する。具体的には、次の研究設問について検討する。

(怒りの誘因)

- ①タイ人はどのような誘因によって怒りを感じるか。
- ②タイ人の怒りの誘因は、タイ人の価値観とどのように結びついているか。

(怒りの対処方法)

- ③タイ人は怒りを感じたとき、どのような対処方法をとるか。
- ④タイ人の怒りの対処方法は、状況によってどのように変化するか。
- ⑤タイ人の怒りの対処方法は、タイ人の価値観とどのように結びついているか。

第2節では、本研究の方法として、対象者、面接方法、データの分析方法を述べる。第3節では、タイ人の怒りの誘因に関する面接調査のデータの分析結果を示し、怒りの誘因、怒りの強度、怒りを感じた相手の立場の3つの論点から考察した結果とまとめを述べる。第4節では、タイ人の怒りの対処方法と社会文化的要因に関する面接調査のデータの分析結果を示し、怒りの対処方略、怒りの表出における前提と目的、怒りの対処方法と自己の意思の伝達、怒りの社会的機能の4つの論点から考察した結果を述べ、タイ人の怒りの対処方略モデルを図示する。

第2節 方法

第1項 対象者

バンコク在住のタイ人20名（男性12名、女性8名）を対象とした。バンコクにある2つの大学において、勤務経験が2年以上あるタイ人を条件とし、社会人学生や職員を対象に研究協力者を募集した。応募者の中から、時間の都合が合う者を調査対象者として選んだ。対象者の年齢は26歳から61歳で、平均年齢は36.3歳 ($SD=6.0$) であった。

面接者には、面接の前にあたって目的を記載した同意書を提示し、研究の目的・意義、面接方法、記録内容の取扱いについて説明を行い、同意を得た上で面接を行った。

第2項 面接方法

面接は、2013年6月から7月にかけて実施した。面接場所は、対象者が所属する大学の構内であった。面接は、タイ人の面接者によってタイ語で実施した。面接形式は、1対1の対面式で、所要時間は1人約30分とした。面接者には、あらかじめ研究の目的、面接の方法、面接の手順、質問例と質問の要点について説明を行った。

面接者には、①怒りに対する本人の意識を自由に話してもらう。②インタビューを受ける人がリラックスして話せるような雰囲気ですら質問する。③質問の内容や言い回しは面接者の判断で変更してもよいと説明した。

面接は、半構造化手法によって行った。質問例は、「あなたは怒りやすいタイプですか。」「どういう原因で怒ることがありますか。」「どういう場面で怒ることがありますか。」「最近どういう場面で怒りましたか。（状況、原因、対人関係、怒り方など詳しく）」「なぜそういう対応をしたのですか。」「相手や原因が変わったら同じように怒りますか。」「怒ってないのに怒った顔をしたり、怒っているのに表出しないことがありますか。あるとすれば、どのような場合ですか。」などである。

質問の要点は「怒りを感じた相手との関係による怒りの対処方法の違い。（両親、上司、親友、同僚、店の従業員、知らない人、外国人など）」、「怒りの誘因による怒りの感じ方の違い。（行動の妨害、侮辱、期待や希望の侵害、非道徳的行為、所有物の侵害、相手による暴力など）」、「怒り対処方法の種類。（表情・口調、遠回し、嫌味・皮肉、冷静に注意する、感情的に非難する、無視、無表出など）」とした。怒りの定義については、マ

イポーチャイ(不満)、チュン(むっとする)など、強度の低い怒りから激しい怒りまで、すべて怒りに含めてよいと説明した。

面接に先立ち、2名のタイ人女性を対象に、実際の面接と同様の手順で予備面接を行い、面接手順や質問内容が適切かどうかの確認を行った。その結果、①面接対象者が日常生活であまり怒りを経験したことがなく、面接が予定通り進まない場合には、面接者が怒りを感じるような状況の例を与えて質問する、②相手から怒りを表出された場合について質問するなど、質問内容を改善した。実際の面接では、公共の場で怒りを感じやすい状況として、買い物に行って会計の列に並んでいるとき誰かに割り込まれた、運転中に急に割り込まれた、外国人、あるいはタイ人がお寺で仏像と肩を組んで写真をとっていたというような状況を面接者が口頭で例示して、どう感じるか、どのような行動をとるかを回答させた場合もある。

第3項 データの分析方法

面接はすべてタイ語で行われ、面接中の発話は、ICレコーダーで録音した。面接終了後、タイ人の協力者に依頼し、録音した発話内容をタイ語でテキスト化した。その後、筆者自身がすべてのタイ語テキストを日本語に訳し、発話内容を十分に理解した上で、タイ語のテキストを直接分析した。

データの分析は、冨木(2008)と Charmaz(2006)を参照しながら、グラウンデッド・セオリー・アプローチに準じた方法で質的な分析を行った。

分析手順については、面接では一人の対象者に様々な状況における複数の怒りの場면을質問したため、まずテキストデータの中から怒りを経験した場면을抽出し、コーディングした。

次に、各場面の発話内容を切文化し、切文化した個々のデータにラベルを付した。この時点ではラベルは抽象化せず、データの意味や内容に則したものとした。次に、その場面の類似した複数のラベルをまとめ、カテゴリー化し、カテゴリー名をつけた。その後、怒りを感じた状況のプロセスを示すため、各カテゴリーを状況、行為／相互行為、帰結に分類した。テキスト化された発話データとラベル・カテゴリーの生成過程の一例を図 2-1 に示す。また、面接対象者20名の発話データのラベル一覧を補遺に付した。

上記の分析手順を一人の対象者の複数の場面で同様に行い、各場面のカテゴリーを比較し、類似するものを統合し、上位カテゴリーとして名前をつけた。この作業により、カテゴリーとサブカテゴリーが見出された。

次に、別の対象者のデータについて、同様のプロセスで分析を行い、最終的に20名分のデータを分析した。最後に、すべての対象者の分析結果を統合した。統合したカテゴリーは、次の通りである。怒りの誘因に関するものは、「出来事」、「怒りの理由」、「怒りの強度」。怒りの表出に関するものは、「怒りの対処方法」、「怒りを感じた相手の立場」、「対処方法選択の理由」、「怒りを感じた相手との人間関係」、「対処方法に対する評価」。

発話データ(タイ語)	日本語訳	ラベル	カテゴリー
มีคนไทยคนหนึ่ง เคยประเมินผลงานอะ คนล่าสุด จะไม่มีผลกระทบกับเรื่องโบนัส แต่คนก่อนหน้านี้ เนี่ยะ เป็นผู้ชายจะแบบ เป็นพวก Manager ที่ ถนอมน้ำใจอะ คอยเรื่องโบนัส เรื่องปรับตำแหน่ง ว่าเดี๋ยวจะทำให้ แต่ไม่ทำให้อะคะ ไม่มีอะไร คืบหน้า ปีแรกไม่มีอะไร ปีที่สอง มีเรื่องนี้แหละที่ ทำให้แบบพูดตรงๆอะ เพราะว่ามันหาโอกาสอื่น พุดมันไม่ค่อยมีเพราะว่า co งานก็ไม่ค่อยมี ปัญหาอะไร แต่มาเรื่องโบนัสปีที่สองที่พูดอะ ถามว่าทำไมปีที่แล้วพี่บอกที่จะปรับให้แต่ไม่เห็น มีอะไรคืบหน้าขึ้นมาเลย แล้วปีนี้จะได้ทำอะไร ได้มั้ยคะ	タイ人で一人業績評価をする人がいたんですよ。今の上司はボーナスに影響はないけど、以前の方は、マネージャーのタイ人男性なんですけど、思いやりを大事にする人で、ボーナスや役職のことを話して、じゃあ何とかしてあげるとかっていうんですけど、実際は何もやってくれないんです。何もよくならない。1年目は何もし、2年目だったんですが、直接聞いたんです。だって他に話す機会がないから。一緒に仕事するのは問題なかったんです。でも2年目のボーナスの話になって、去年変えてあげるっていったのにどうして全然変わらないんですかって聞いたんですよ。今年は信じていいんですかって。	เจ้านายลืมนสัญญา (上司がボーナスを何とかしてあげると言った)	相手の立場、出来事
「そしたらなんていったの？」			
ผมลืมครับ	忘れてたって	เจ้านายลืมนสัญญา (上司が約束を忘れた)	怒りの誘因
「忘れてたって言われて、どうだった？」			
เจียบ เจียบเลยนะ อิง อิงด้วย แต่ก่อนที่จะพูดกับ Manager พี่ที่เป็น senior คำก็จะรู้อยู่แล้วว่า เดี่ยวคำตอบมา ไม่ว่าอะไรอะ มันจะทำให้เราเจียบ	黙っていました。黙りこくったまま。マネージャーと話す前に、事情を知っている先輩もそのうち返事してくれるよっていったのに。何もいえません。黙るしかない。	เจียบ (黙った)	怒りの対処方法
เคื่บออก เจียบไว้เหอะ มันไม่มีอะไรดีขึ้นหรอก	黙っといたほうがいい、何もいいことないよって先輩も言っていました。	ความเจียบดีที่สุด (黙っているのが一番いい)	怒りの対処方法に対する評価
「今までの経験で、黙ってるのが一番いいってわかったから？」			
ใช่ เจียบไว้ดีที่สุด ถ้า ณ ปัจจุบัน อายุ 33 ปี 11 ปีกับที่ทำงาน ความเจียบคือสิ่งที่ดีที่สุด	そうです。黙ってるのが一番いい。今33歳で、今の職場には11年いいますが、沈黙が一番いいことです。	ความเจียบดีที่สุด (黙っているのが一番いい)	怒りの対処方法に対する評価
มันอาจจะอดอั้น ไม่พอใจ	気詰まりで気に入らないかもしれません。	การที่เจียบทำให้อดอั้น (沈黙によるうづぶん)	怒りの対処後の気持ち
ขนาดลงใน Facebook ที่มันมีเพื่อนทำงาน เพื่อนร่วมงาน เพื่อนที่เรียนเจียะ ระบายได้ แต่จะไม่มีการเอ่ยถึงบุคคลที่สาม	フェイスブックでは同僚や大学の友達と話ができ気晴らしができます。でも第三者については言及ません。	ระบายกับเพื่อนทาง facebook (フェイスブックで友達にうづぶん晴らし)	怒りの対処後の行動
แต่จะไม่ระบายเต็มที่อะ	でも完全に気が晴れるわけはないですけど。	การที่เจียบทำให้อดอั้น (沈黙によるうづぶん)	怒りの対処後の気持ち
「(フェイスブックには) あんまりはっきり書けないですよ、一言二言だけ」			
ใช่ๆ เพราะว่าคนเค้ารู้กันว่าเราทำงานอยู่แผนกไหน	そうですね。だって私がどの部署にいるか知ってる人もいます。	ระบายกับเพื่อนทาง facebook (フェイスブックで友達にうづぶん晴らし)	怒りの対処後の行動
「その人に影響を与えたくないですね？」			
ใช่ๆ จะเฉยๆ เจียบ เจียบเท่านั้น	そう、だから何もしないで黙ってるしかないんです。	ไม่ยากทำร้ายความรู้สึก (感情を害したくない)	対処方法選択の理由
「お互い気分を害したくないから？」			
ใช่ เพราะว่ามันก็ต้อง Co งานกันอะคะ	そうです。だって一緒に仕事しなくちゃいけないし、	ต้องทำงานด้วยกัน (一緒に働かなければいけない)	相手との人間関係
แล้วไม่ใช่ว่ากลัวเค้าจะไปนิทาหลังหลังแต่แบบว่า เบื่อ	それに陰口を言われるのが怖いっていうより、うんざりなんです。	เบื่อที่ถูกนิทาหลัง (陰口をいわれるのにうんざり)	対処方法選択の理由

図 2-1 発話データとラベル・カテゴリーの生成過程の例

第3節 タイ人の怒りの誘因と社会文化的要因に関する結果と考察

第1項 結果

本項では、面接調査によって得られたタイ人の怒りの誘因に関する結果について記述する。分析によって怒りの誘因に関する4つのカテゴリー（出来事、相手の立場、怒りの理由、怒りの強度）が見いだされた。出来事と怒りの理由のカテゴリーを整理して、怒りの誘因を見いだした。怒りの誘因、怒りの強度、及び怒りを感じた相手の分析結果は1.1から1.3の通りである。

1.1 怒りの誘因

データの分析では面接協力者の発話データの中から、怒りを経験した場面を抽出し、どのような出来事において怒りを感じたかを分析した。20名の面接者の発話データを整理したところ121の怒り経験場面があった。そのうち、出来事が具体的でない12場面、面接者が怒りを感じるような状況の例を与えた18場面と実際には怒っていない3場面を除外し、89場面を分析の対象とした。89の場面について、怒りの誘因となった出来事と怒りの理由を整理したところ、23の怒りの誘因が見いだされた。

23の怒りの誘因について以下に記述する。

(1) 意見の対立

9場面。配偶者、両親、上司、友達などと考え方が違うため、意見が対立する。

相手の考え方が間違っている、あるいは受け入れられないと感じる。

(2) 行動妨害

8場面。自分が予定していた行動が相手の言動によってできなくなる。駐車場で別の車が自分の車の前に駐まっているため出られない、突然上司に会議に呼び出され業務が予定通りできなくなる、遊んでいるときに両親に用を頼まれる、外出しようと思ったら父親が先に車を使っていたなど。

(3) 過干渉

7場面。母親が世話を焼きすぎる、スポーツをすると両親に文句を言われるなど、両親や同僚が自分の行動を制限したり非難するような言動をとる。

(4) 不従順

15場面。子供や生徒が宿題をしない、上司が自分の意見を聞き入れない、部下が指示通りに仕事をしない、恋人にやせてほしいが聞いてくれないなど、相手にある行動をとってほしいと期待しているが、期待通りの行動をしない。部下や子供に対しては、自分が指示する権利や立場にあると感じている。また、家族に対しては期待が高くなる。

(5) 相手の行動を心配

2 場面。父親の体調や安全を心配してある行動をとってほしいと期待するが、期待通りの行動をしない。

(6) 理解が悪い

2 場面。職場で日本人上司に説明しても理解してもらえない。日本人はタイ人のことを理解しようとしていないと感じる。

(7) 列の割り込み

6 場面。タクシー乗り場で列に並ばずにタクシーに乗る、後からきた客に先に料理を出す、運転中の割り込みなど、公共の場での見知らぬ人の列の割り込みに対し、ずるい、自分勝手な行動だと感じる。

(8) 規則違反

5 場面。前を走る車が曲がる時にライトをつけない、子供のころ大人にお酒を買いに行かせられた、規則違反をするよう強制されるなど、法律・ルールに違反する他人の行為が自分に何らかの影響を及ぼす場合。

(9) 仏教冒涇

3 場面。仏像のそばに足を置くなど、仏像に対して敬意を払わない行為に対して、仏教徒ではない外国人に対してでも怒りを感じる。また、タイ人や以前に注意したことがあるなど、仏像に対して敬意を払うべきであることを知っているのに、不敬な行動をやめないことに対してはより強い怒りを感じる。

(10) 遅刻

2 場面。生徒に注意したのにまた遅刻してくるなど。

(11) 王室冒涇

1 場面。王様を尊敬しているため、タクシーの運転手が王様の悪口を言うと強い怒りを感じる。

(12) 親不孝

1 場面。年取った母親を放置するニュースを聞いて怒りを感じる。自分を育てた母親の面倒を見るべきだと考えている。

(13) 非協力

1 場面。職場で同僚が協力しなかった。

(14) つばを吐く

1 場面。バイクタクシーの運転手が、運転中に吐いた唾が自分の乗っているタクシーの窓についた。

(15) 上下関係侵害

5 場面。生徒に注意したら不満げな態度をとる、サッカーの試合中に元後輩から汚い言葉で罵られた、元部下に言いがかりをつけられたなど、目下の者が自分に対して敬意を払わない言動をとった場合に、見下されるなどと感じ強い怒りを感じる。目上の人に対しては敬意を払った言動をとるべきであるという強い信念を持っている。

(16) 不当な非難

4 場面。理由を聞かずに非難される、顧客に罪をなすりつけられるなど、自分には非がないのに非難される場合に怒りを感じる。

(17) 不公平

3 場面。上司の仕事の割り振りが不公平な場合、兄だけが両親から何かしてもらう、新しい社員は自分たちと同じことをしても怒られないなど、不公平な扱いを受けたときに怒りを感じる。また、両親からの不公平な扱いに対しては自分は愛されていないと感じる。

(18) 陰口

2 場面。同僚が自分の生徒に悪口を吹き込む、上司に陰口をいわれたなど、知人が自分の陰口を言っていたことを間接的に知った場合。

(19) 軽視

2 場面。同僚が自分と顧客に同じ業務を指示したことで、顧客にも自分にも敬意を払っていないと感じたり、他人から自分の権利を尊重してくれない場合に怒りを感じる。

(20) 約束反故

2 場面。上司が待遇改善を約束したが忘れていた、友人が口約束を守らないなどによって、相手が不誠実だと感じる。また、タイ人は口約束を守らない場合が多いと感じる。

(21) 非援助

1 場面。何かあったら助けるからと言っていた親しい人が、体調が悪くなっても助けてくれなかったときに強い怒りを感じた。

(22) 配偶者の不義

1 場面。夫が自分に黙って前の恋人に会い強い怒りを感じた。夫の行動は不適當であると考えている。

(23) 金銭的援助

6 場面。高い修理費を払って家の雨漏りの修理を頼んだら、修理が失敗して家が水浸しになった、市場の商人にお金を払ったのにまだ払ってないと言われたなど、金銭的に自分が騙されたり、損をしたと感じたときに怒りを感じる。

次に、見いだされた23の怒りの誘因を Averil(1982) の研究で用いられた 6 つの区分を参考に分類してみた。Averil(1982) は自ら考案したエピソード法と呼ばれる調査法で、被験者が怒り経験においてどのような被害を被ったかを身体的被害、物質的被害、欲求不満、プライド損傷、道義違反、期待に背く、の 6 つの区分から選択させている。6 つの区分の定義は下記の通りである。

(1) 欲求不満

進行中あるいは計画した行動に対する欲求不満、妨害（例：休憩、仕事、睡眠等の妨害、期待していた利益の不履行、ルールや規則による妨害）

(2) 期待に背く

自分にとっては重要だが、他人にとってはそうでないかもしれない期待や希望の侵害（例：自分の好きな・嫌いなペットを軽視、配偶者や子供が自分の期待通りにしない、隣人の生活様式が気に入らない）

(3) 道義違反

社会的に容認された行動様式あるいは広く認められた行動規則からの逸脱

（例：犯罪、社会ルール違反、マナー違反、不公正・不合理・非倫理的行動）

(4) プライドを損傷

個人の誇り、自尊心、個人的価値観を喪失させる出来事、行動態度（例：自分・家族・宗教・政治信条への批判や注意、好きな人・尊敬する人からの拒否、侮辱や軽視）

(5) 物質的損失

所有物の実際の損害あるいはその可能性（例：事故あるいは故意の破損、資産の盗難・紛失、機材の不調、破壊行為）

(6) 身体的被害

身体の実際の障害、苦痛あるいはその可能性（転ぶなどの自傷、子供が学校でけがをする、自動車事故になりそうになる）

分類の結果、身体的被害に該当するすると考えられる怒りの誘因は見いだされなかったため、身体的被害を除く5つの区分に分類することができた。分類の結果は下記の通りである。但し、この分類は怒りを感じた当人による判断ではなく、研究者が全体の傾向を把握するために行った分類であるため、本研究においては仮区分と見なす。

(1) 欲求不満

意見の対立、行動妨害、過干渉

(2) 期待に背く

不従順、相手の行動を心配、理解が悪い

(3) 道義違反

列の割り込み、規則違反、仏教冒涇、遅刻、王室冒涇、親不孝、非協力、つばを吐く

(4) プライドを損傷

上下関係侵害、不当な非難、不公平、陰口、軽視、約束反故、非援助、配偶者の不義

(5) 物質的損失

金銭的被害

(6) 身体的被害

(該当する誘因なし)

1.2 怒りの強度

89の場面において、対象者が怒りをどのように感じたかについて言及している場面が60場面あった。対象者の発話表現をもとに、怒りの強度を弱・中・強の三段階に分類した。発話データはすべてタイ語であるため、強度の分類については、タイ人の協力者との合議によって決定した。その結果、怒りの強度低が25場面、強度中が18場面、強度高が17場面見いだされた。具体的な表現と強度の分類と、強度別場面数は表 2-1 の通りである。

表 2-1 怒りの強度分類基準と強度別場面数

強度		タイ語の発話表現と仮和訳	場面数
1	低	จูน(むつとする) จูนเนียน(むつとする) ไม่พอใจ(不満に思う) หงุดหงิด(いらいらする) อมอยู่เงียบๆ(黙って感情を抑えている) ไม่ชอบ(好きじゃない) เสียดความรู้สึก(気分を害する)	25
2	中	โกรธ(怒る) รู้สึกแย่(ひどいと思う) โมโห(怒る)	18
3	高	โมโหเต็มที(目一杯怒る) รับไม่ได้(受け入れられない) โกรธนาน(怒りが長引く) ไม่ยอม(許せない) ควบคุมอารมณ์ไม่ได้(感情が抑制できない) ทนไม่ไหว(我慢できない) โกรธจัดเต็มที(目一杯激しく怒る) โกรธแรงมาก(すごく強く怒る) ไม่พอใจมากๆ(ものすごく不満である) บ้าขึ้น(狂ったようになる)	17

怒りの誘因の仮区分別に怒り強度高の場面数を見ると、欲求不満は2場面、期待に背くは該当なし、道義違反は4場面、プライドを損傷は9場面、物質的損失は2場面となり、プライドを損傷の場合に強度高の怒りを最も多く感じていた。

怒りの誘因と仮区分結果、出来事の例及び場面数を表 2-2 にまとめた。また、表 2-2 の「強度の怒り」欄に怒りの強度高であった17場面の誘因別数を示している。

表 2-2 怒りの誘因別仮区分、出来事例、場面数、及び強度高の場面数

仮区分	怒りの誘因	具体的な出来事例	場面数	強度の怒り
欲求不満	1 意見の対立	妻と意見が対立	9	
	2 行動妨害	テレビを見ている時に両親に用を頼まれる	8	
	3 過干渉	同僚が個人的なことに文句をつける	7	2
	計		24	2
期待に背く	4 不従順	部下が指示通りに仕事をしない	15	
	5 相手の行動を心配	年取った父親がタクシーに乗ろうとしない	2	
	6 理解が悪い	日本人の上司に説明しても理解しない	2	
	計		19	0
道義違反	7 列の割り込み	年配の女性が急に列に割り込んだ	6	1
	8 規則違反	曲がるときにライトをつけない	5	1
	9 仏教冒涇	外国人の彼が仏像のそばに足を置く	3	1
	10 遅刻	注意したのに生徒が遅刻してくる	2	
	11 王室冒涇	タクシー運転手が王様の悪口を言う	1	1
	12 親不孝	年取った母親を放置するニュースを聞く	1	
	13 非協力	同僚が協力しない	1	
	14 つばを吐く	バイクタクシー運転手が吐いた唾が自分の乗ったタクシーの窓につく	1	
	計		20	4
プライドを損傷	15 上下関係侵害	生徒にやさしく注意しても不満気な態度をとる	5	3
	16 不当な非難	理由を聞かずに非難される	4	1
	17 不公平	上司の仕事の割り振りが不公平	3	1
	18 陰口	同僚が自分の生徒に悪口を吹き込む	2	1
	19 軽視	同僚が自分と顧客に同じ業務を指示	2	1
	20 約束反故	上司が約束を忘れた	2	
	21 非援助	親しい人が体調が悪くなくても助けてくれなかった	1	1
	22 配偶者の不義	夫が自分に黙って前の恋人と会った	1	1
	計		20	9
物質的損失	23 金銭的損失	市場の商人にお金を払ったのにまだ払ってないと言われた	6	2
合計			89	17

表 2-2 の中で強度の怒りを感じる場面が多かったのは、上下関係侵害であった。上下関係侵害によって怒りが喚起された場面の例として面接対象者番号¹ 4（60代男性）の発話データの一部を示す。

¹ 各面接対象者の属性は補遺 1 の表を参照のこと。

(発話データ 1)

ผมมีความรู้สึกกว่าคนที่เข้ามาต่อว่าผมเนี่ยเค้าเป็นถึงผู้ใต้บังคับบัญชาผมเดิม ตอนนี้นี่เนี่ย เค้ามาได้เป็นผู้บังคับบัญชาแล้ว โดยฐานะเนี่ย มันไม่ใช่ผู้บังคับบัญชากับผู้ใต้บังคับบัญชาอย่างเดียว การทำงานคือเรามาดูแลกันด้วยสายวิชาชีพที่เราได้อยู่ อย่างที่บอกว่าสายวิชาชีพเราคือสายวิชาชีพแพทย์ เรายึดโยงมันด้วยระบบพี่น้อง มันก็เลยทำให้รู้สึกว่ามันไม่เป็นพี่เป็นน้องกันเลยหรือยัง

(訳) 私に文句を言ってきたその人は、元々私の部下だった人です。そのときには、彼は局長になっていました。でも、局長と部下という関係だけではありません。業務内容は、私たちの専門分野である医療です。私たちは(医師として)先輩後輩という関係でもあります。だから私は、自分たちは先輩と後輩ではなかったのかと感じました。

また、上下関係に対する考え方を示すと考えられる面接対象者番号39 (40代男性) の発話データを紹介する。

(発話データ 2)

ตอนอายุงานเราน้อยๆ เนี่ย เราทำอย่างนี้ปั๊บ เราโดนด่า โดนตำหนิ ซึ่งเราก็ยอมรับ ไม่ว่าอะไร เพราะเราไม่รู้ เราใหม่ ถือว่าไม่มีประสบการณ์ เค้สอนเรา ก็โอเคแหละ แต่พอกล้งๆ มานี้ เราเริ่มโตขึ้นอายุมากขึ้น มีครอบครัว มีอะไรต่างๆ พอมานี้ปัจจุบันมาปั๊บ อ้าว ใช้อึสิ่งเหล่านี้ มันเกิดขึ้นกับน้องๆ ปัจจุบันแต่ไม่มีการถูกตำหนิ ถูกต่อว่า กลายเป็นว่าเรา เราก็เลยมองว่าเอ๊ะ...ทำไมละ สิ่งเหล่านี้ แต่ก่อนนี้มันไม่ได้เป็นเรื่องของการ....เราคิดในใจเอง เรื่องที่เราถูกแนะนำ ถูกพูดๆ ถูกด่า ถูกกล่าวว่า ว่านั่นเป็น

เรื่องเค้าสอนเรา เค้าแนะนำเรา เราคิดอย่างนี้มาตลอด

(訳) まだ働き始めのころは、何かしたら、とたんに怒られたり、責められたりしました。まあそれはしょうがないことです。どんなことだとしても、まだ知らないし、新人ですから。経験がないから、教えてもらわなければなりません。それは分ります。でも後になってきて、自分も偉くなって年もとってくると、家族やいろいろできて、現在は若い子がいますが、彼らは同じことしても怒られたり、文句言われたりしないんです。だから、え？なんで？前はだめだったじゃないみたいに思います。私は心の中で、自分がアドバイスを受けてたり、怒られたり、文句を言われたり、言われたりしたことは、今までずっと先輩からの指導やアドバイスだと考えてきました。

また、道義違反として仮区分した怒りの誘因のうち、仏教冒涇と国王冒涇については、怒りの誘因におけるタイの文化の影響を示すと考えられるが、いずれも強度の怒りを感じていた。仏教冒涇によって怒りを感じた面接者番号3（40代女性）と国王冒涇によって怒りを感じた面接者番号1（30代女性）の発話データを紹介する。

(発話データ3)

เช่นรถของเราฝั่งข้างๆ คนขับมันจะมีที่เก็บของจะเอาพระไว้ตรงนั้น วัฒนธรรมของเขาเขาไม่ได้นับถือ

วันหนึ่งเรานั่งรถไปแล้วเขาเอาขาขึ้นไป เราเห็นเราก็เอาขาเราทิ้งลงไป แล้วบอกว่าทำอย่างนั้นได้ยังไง

ตอนนั้นโมโหเต็มที่ ชุนเต็มที่ ทั้งสี่หน้าอารมณ์ไปหมดเลย

(訳) 例えば、私の車のサイドには、運転手がものを収納するところがあって、そこに仏像を置いておいたんです。(ドイツ人の)彼の文化は(仏教を)信仰していません。ある日車に乗っていたら、彼が足をダッシュボードに乗せたんです。私はそれを見て、彼の足を下ろしてもらい、「何でそんなことができるの?」と言いました。その時は最高に怒っていました。目一杯腹を立てていました。表情にも完全に感情が表れていました。

(発話データ 4)

ต ไซ่ เพราะรู้ว่า เราเห็นเค้าตั้งแต่เกิดอะ เราเห็นท่านทำงานตลอดอะ อันนี้คิดสิ่งที่แบบรับไม่ได้จริงๆ
แต่ไม่ถึงขนาดกระโดดลงจากรถแท็กซี่ เพราะมันรู้ว่าปลายทางของเราอยู่ที่ไหน เพราะจะให้ไปส่งที่
บ้าน แต่เอามาเล่าให้ที่ทำงานฟังเค้าบอกว่า ถ้าเป็นพี่นะ พี่จะลงแล้วด้ามั่นด้วยซ้ำ

(訳) そうです。だって私たちは生まれてからずっと王様が（国のために）仕事を
していращやるのを見てきていますから、本当に許せないことです。でも怒ってタク
シーから飛び降りるとまではいかないですよ。だって行き先がどこだか言ってありま
すから、家までは送ってもらいます。でも職場でこんなことがあったって話したら、
その話を聞いた人は「私だったら車からおりてその運転手に怒鳴ってるわね。」って
言っていましたよ。

また道義違反に仮区分した親不孝については、親の介護をせずに放置する他人に対する
怒りがあったが、タイ人の親子関係についての考え方を示すもう一つの怒りの場面として
面接者番号 1（30代女性）の発話データを示す。

(発話データ 5)

ไปคนเดียวด้วยเบรียวมมาก คือถ้าไปถึงจะต้องไปเอาบัตร จอคงคิว แล้วพอก็ออกตั้งแต่สี่ครึ่ง สี่ห้า ซึ่ง
แม้ก็ต้องตื่นไปบ้านก่อนแล้วค่อยตื่นออกไปหกลองครึ่ง เจ็ดโมงอะไรแบบนี้ เค้าบอกว่าไม่เป็นไรง่าย ๆ
หรอก แต่จริงๆเดี๋ยวนี้สองแถวขั้บรถก็รู้ไซ้มั้ยะะ ขึ้นรถเมล์ แต่เค้าจะไม่ขึ้นรถเมล์เลย นี่คือนี่ที่ห่วงคือ
มือถือไม่พก ให้ตายยังงี้ ให้พกก็ไม่พก นั่นคือสิ่งที่ห่วงแล้วทำให้เราโกรธมากที่สุด อารมณ์แบบจูน

มาก ๆ

（訳）しかも一人で行くんですよ。恐ろしいです。病院についたら順番待ちのカードをもらわなきゃいけないし、それにお父さんは4時半とか5時とかに起きるんです。お母さんは先に起きて家に行ってみんなを起こして、6時半とか7時とかに家を出ます。お父さんは、大丈夫だよ、難しくないっていうんですが、本当に最近ソソテウの運転もどんなだか知ってますよね。でもバスには乗らないんです。一番心配なのは、携帯をもっていないことです。持たせようとしても受け付けられないし。こういうのが、心配のあまりものすごく怒る時です。すごくむかつきます。

1.3 怒りを感じた相手の立場

怒りを感じた相手の立場は、両親、兄弟、親戚、配偶者、恋人、職場の上司、先輩、同僚、後輩、部下、大学の同級生、顧客、タクシー運転手や店の店員などのサービス提供者、見知らぬ人などがあつた。相手の国籍は、タイ人以外に日本人、ドイツ人、アメリカ人などがあつた。

各場面で怒りを感じた相手の立場を目上（家族）（両親）、目上（家族以外）（上司・兄弟・先輩）、対等（家族）（配偶者）、対等（家族以外）（同僚・同級生）、目下（家族）（弟妹）目下（家族以外）（部下・後輩）、知らない人（顧客・サービス提供者・見知らぬ人）の7つに分類し、相手の立場別の怒りの誘因をまとめた。また、「強度の怒り」欄に、高度強の場面数も示した。（表2-3）

過干渉は、目上（家族）4場面、対等（家族以外）2場面で最も多い怒りの誘因であつた。意見の対立は、目上（家族以外）4場面、対等（家族）3場面で最も多かつた。不従順は、対等（家族）3場面、相手が目下（家族）6場面、目下（家族以外）3場面で多かつた。上下関係の侵害は、目下（家族以外）で4場面あり、目下（家族以外）に対する最も多い怒りの誘因であつた。金銭的損失6場面及び列の割り込み6場面は、いずれも知らない人に対して最も多い怒りの誘因であるが、他の人間関係においては発生していなかつた。

怒り強度高の誘因は、目上（家族）では該当がなく、知らない人に対して5場面で最も多く、次に多かつたのは対等（家族以外）に対して4場面であつた。

表 2-3 相手の立場別怒りの誘因

相手の立場	怒りの誘因	場面数	強度の 怒り
目上(家族)	過干渉	4	
	行動妨害	3	
	心配	2	
	意見の対立	1	
	不公平	1	
	規則違反	1	
	計	12	0
目上(家族以外)	意見の対立	4	
	不公平	2	1
	約束反故	2	1
	行動妨害	2	
	理解が悪い	2	
	過干渉	1	1
	陰口	1	
	不従順	1	
	不当な非難	1	
	計	16	3
対等(家族)	意見の対立	3	
	不従順	3	
	配偶者の不義	1	1
	仏教冒瀆	1	1
	計	8	2
対等(家族以外)	過干渉	2	1
	意見の対立	1	
	陰口	1	1
	軽視	1	1
	遅刻	1	
	非協力	1	
	不当な非難	1	1
	約束反故	1	
	計	9	4
目下(家族)	不従順	6	
	計	6	0
目下(家族以外)	上下関係侵害	4	3
	不従順	3	
	遅刻	1	
	行動妨害	1	
	規則違反	1	
	計	10	3
知らない人	金銭的損失	6	2
	列の割り込み	6	
	規則違反	3	1
	行動妨害	2	
	不当な非難	2	1
	仏教冒瀆	2	
	不従順	2	
	王室冒瀆	1	1
	親不孝	1	
	上下関係侵害	1	
	唾を吐く	1	
	計	28	5

相手の立場によって怒りの強度が変化するかどうかについて言及した発話データの例を紹介する。面接対象者番号 3（40代女性）は、家族に対しては怒りが強くなると話した。

（発話データ 6）

กับที่ทำงานไม่ค่อยโกรธ กับที่บ้านมันก็จะคนละส่วนกันแล้ว ถ้าใกล้ชิดมันก็จะโกรธมากกว่า เพราะ
เหมือนกับว่าถ้าเป็นที่บ้านคือเค้ารู้จักเราดีแล้วเราก็รู้จักเค้าดี แล้วก็เราจะมี ความคาดหวังกับเค้าสูง

ไหม้ย

（訳）職場の人に対しては、あまり怒ることがありません。家は全く別ですよ。親しい人であれば、怒ることが多いです。家族だったらお互いよく知ってるみたいな感じだからです。それに相手に対する期待も大きいですよ。

また面接対象者 34(40 代男性)は、仏像に対する冒瀆的な言動について、外国人とタイ人が同じことをしたら、タイ人に対しての方が強い怒りを感じると話す。

（発話データ 7）

มากกว่า เพราะศาสนาเดียวกันคุณก็รู้อยู่แล้วว่าพื้นฐานของศาสนาพุทธต้องนับถืออยู่แล้ว เพราะ

ต่างชาติเขาไม่รู้ว่เรานับถือ ศาสนาพุทธต้องกราบไหว้บูชา

（訳）（タイ人に対しての方が怒りが）大きくなります。仏教徒なんだから、知ってて当然じゃないですか。仏教の基本として、仏像を信仰しなければいけないことを。外国人の場合は、信仰しているかどうかわかりません。仏教では膝まずいて、崇拝しなければならないのです。

第 2 項 考察

2.1 怒りの誘因における社会文化的要因

怒りの誘因で最も多かったのは、相手が「不従順」であるときだったが、その場合に強度の怒りを感じている場面はなかった。逆に強度の怒りを多く感じていたのは「上下関係の侵害」によって怒りを感じた場合だった。例示した発話データ 1 では、60代の男性が元部下である後輩から文句を言われたときに激しい怒りを感じたと話し、その理由を先輩後輩の関係の侵害であると説明していた。また、他の面接対象者の発話からも、タイの文化では上下関係が重視されており、両親、親、先輩など大人や目上の人に対して尊敬の念をもたなければならないことが伺えた。

Cooper & Cooper(1996) は、タイ人にはステータスと長幼の序列が不可分であり、タイ人がこれに疑問を抱くことはないと説明する。発話データ 2 でも示した通り、目下の者は目上に対して従順であることがタイの社会では当然のことであると考えられており、自分より目下の者からの反抗的な態度に対しては、相手の言動が不適切だと考え、強い怒りを感じているのだと考えられる。

反対に目上の者は子供、生徒、後輩など、自分より目下の者に対して指導的立場にあることが当然であり、目下の者は親や先輩から怒られるのは仕方がないという態度がうかがえる。

また、仏教徒であり、国王を心から崇拝しているタイ人の文化を反映し、仏教や国王の冒涇が怒りの誘因になっている場面も見られた。発話データ 3 では、仏教徒ではない外国人による仏教への不敬な態度に激しく怒っている様子が伺えた。同時に、タイの国民は国王を心から崇拝しているため、特に王室に対する批判に対して激しい怒りを感じる。発話データ 4 でも、タクシートの運転手が王様の悪口を言ったことについて怒りを覚えたこと、またその話を聞いた職場の同僚も同様に怒ることが当然であると考えていることがうかがえた。

また、タイ人の生活において、最も重要な所属集団は家族である。タイ人は幼少期を家族という優しさと親身さと善意に溢れた世界で過ごし、家族は伝統的に病人や老人の面倒を見るのが習わしである (Cooper & Cooper, 1996)。そうしたタイ人の価値観を表す怒りの誘因もいくつか見られた。ニュースで年老いた母親を置き去りにするというニュースを聞いて怒りを感じる場面や年老いた父親の心配するあまり怒りを感じるという場面である。

さらに、発話データ 5 で示したように、年老いた父親が一人で病院に行くのを心配するあまり怒りを感じると話している。

このように怒りの誘因は、自分の行動を妨害される、相手の行動が期待通りでない、道義違反といった文化的普遍性を基礎としながらも、どのような行動が期待通りでないのか、道義違反であると考えられるのかなど、その社会において当然と考えられる言動に文化的差異があり、従って当然と考えられる言動に対する侵害によって誘発される怒りの感情には、各文化の社会文化的要因が影響する場合があることがうかがえる。

2.2 怒りの誘因と価値観

研究者自身が怒りの誘発を Averil (1982) による 6 つの区分を参考に分類した結果、プライドを損傷に分類された誘因グループにおいて、特に強い怒りを感じることが多いという傾向が示唆された。

Averil (1982) は、米国の社会人 84 人と学生 80 名を対象に、過去一週間で最も強く怒りを感じた経験を記述させて、その怒りの経験に関する出来事を怒りの対象、原因に対する評価、被害内容、前後の状況、怒りに伴う反応などを質問する質問紙調査を行った。質問紙の中で、被験者が怒りを感じた出来事において、どのような被害を被ったかを身体的被害、物質的損害、欲求不満、プライド損傷、道義違反、願望に背く、の 6 つから選択させたところ、怒りの経験における被害において、欲求不満の選択率が最高だった。

また、大淵・小倉 (1984) は、Averil が考案した質問紙を邦訳し、日本の社会人や学生を対象に、同様の調査をした結果、日本人は加害者の行為が道義違反であると判断する率が最も高いことが見いだされ、道義違反と判断した状況において最も強い怒りを感じているという結果となった。大淵・小倉 (1984) は、アメリカ人に比べて日本人の方が、欲求不満などの被害の個人的側面よりも道義違反などの社会規範的側面を強調する傾向があるのではないかと論じている。

Boiger et al. (2014) は、日本人大学生 244 名とトルコ人大学生 319 名を対象に、怒りと恥を喚起させる 16 の場面を提示して、各場面で怒りと恥をどれくらい感じるかを回答させた。その結果、トルコ人は怒りも恥も強く感じるのに対して、日本人は恥は強く感じるが、怒りはあまり感じないことが示された。この結果について、Boiger et al. (2014) らは、

トルコ人が名誉を重視し、日本人が面子を重視する文化であるため、自文化にとって重要な価値観を維持するのに役立つ感情をより多く感じるのではないかと論じている。

このように、同じ状況であっても怒り感情の経験には文化差があり、その差異は価値観や社会規範などの社会文化的要因によって生まれるのではないかと考えられる。怒りを感じた場合に、どのような被害を受けたと認識するか、どういった被害によってより強い怒りを感じるかは、その文化にとって重要な価値観に影響されているのではないだろうか。

従って、本調査において強い怒りを感じた誘因がプライドの損傷と仮区分された誘因グループに最も多かったのは、Komin(1990)によるタイ人の価値観に関する研究結果において、エゴ志向（自尊心）であったことに裏付けられるように、タイ人がプライドや自尊心を重視しており、それらへの攻撃や侵害をより強調しやすいからではないかと考える。

2.3 相手の立場による怒りの誘因の変化

怒りを感じた相手の立場別に怒りの誘因を整理した結果、相手の立場の違いによって、怒りの誘因が異なることが見いだされた。例えば、親に対して心配のあまり怒りを感じるといった場面があったが、親以外に心配を理由に相手に怒るという場面は見られない。同様に、金銭的なトラブルによる怒りは、知らない人にしか見られなかった。目上の人に対しては、過干渉、目下については、不従順、上下関係の侵害が主な怒りの誘因となっていた。

相手との立場の違いによって感じる怒りが強いかどうかについて、発話データ6で示したように、親密度の高い家族に対しては、相手に対する期待が大きくなるため、職場の人に対してよりも強くなるという発言があった。

また、発話データ7で示したように、仏像に対する冒瀆的な言動について、外国人とタイ人が同じことをしたら、タイ人に対しての方が強い怒りを感じるという。

上原ら(2012)は日本人大学生156名を対象に、親密度の異なる3つの対人関係において、欲求が充足した場合としなかった場合の怒り感情・欲求責任の違反知覚・欲求充足を測定する質問紙調査を実施した。その結果、恋人条件と友人条件では、怒りの誘因は違反知覚と欲求充足に媒介され、顔見知り条件では、怒りの誘因は欲求充足に媒介されるが、違反知覚には媒介されないという結果となり、親密な対人関係では、相手に対してこうすべきであるという期待があるため、欲求を充足しない行動は違反であると認識されることが実

証された。この結果から、相手の立場によって抱く期待が異なるため、怒りの要因が変化すると考えられる。従って、相手との関係性において、社会文化的に期待される言動というものがあり、その期待が裏切られた場合に怒りを感じると考えられ、怒りの誘因が社会文化的に構築されていることを示すものであると考えられる。

しかしながら、相手との関係性によって期待させる言動は、状況や文化によって異なることが予測される。上原ら(2012)の研究では、日本人は目上の人に対してより強い怒りを感じることも示唆されたが、本研究ではタイ人が目上(家族)に対してのみ、強度の怒りを感じる場面はないという結果が得られており、タイ人が両親に対して尊敬の念を抱いており、両親に対して従順であるであるとするタイ人の価値観による結果である可能性もある。従って、本研究によって得られた結果がタイ人の怒りの誘因における文化的特徴であるかについて、今後量的研究や日タイの比較研究によって実証しなければならないと考える。

第4節 タイ人の怒りの対処方法と社会文化的要因に関する結果と考察

第1項 結果

本項では、面接調査によって得られたタイ人の怒りの対処方法と社会文化的要因に関する質的分析の結果について記述する。分析によって怒りの対処方法に関する5つのカテゴリー(怒りの対処方法、怒りを感じた相手の立場、怒りの対処方法選択の理由、怒りを感じた相手との人間関係、対処方法に対する評価)と各カテゴリーのサブカテゴリーが見いだされた。各カテゴリーの分析結果は1.1から1.5の通りである。

1.1 怒りの対処方法

データの分析では、面接者の発話データの中から、怒りを経験した場面を抽出し、怒りを感じた場合の対処方法を数量的にまとめ、全体的な傾向を分析した。20名の面接者の発話データを整理したところ121の怒り経験場面があった。そのうち、怒りを感じた相手について言及がない4場面と実際には怒っていないが怒ったふりをした2場面を除外し、

115 場面を分析の対象とした。面接者 1 名あたりの怒りの経験場面数は 2 ～10 場面、平均 5.8 場面 ($SD=2.5$) であった。

まず怒りの対処方法を中心に検討した。「怒りの対処方法」は、表出強度の弱い順に、「無表出」、「表情・口調」、「嫌味」、「冷静に話す」、「文句を言う」、「注意する」、「叱る」、「感情的に話す」、「暴力」の 8 つのサブカテゴリーに分類された。各対処方法は、研究者が怒りの表出強度別に「無」～「強」の 4 段階に分類した。

8 つの各対処方法について以下に記述する。

(1) 無表出

怒りを感じていても、人間関係の悪化、相手との対立やもめごと、期待する利益が得られなくなることを恐れ、黙って何も言わない。表情は無表情になる場合が多いが、場合によっては笑顔すら浮かべ、相手に自分の怒りを悟られないようにする。しかし、普段からよく話をし、笑顔を絶やさない人柄であれば、無表情でいることで何かいつもと様子が違うと気づくだろう。相手の前で怒りを表すことがなくても、しばらく相手との距離をおいて話をしない、無視する、第三者に話してうっぶん晴らしをするなどの二次的な行動が伴う。相手に対して怒りを表出しないことで怒りの誘因となった問題が解決されることはないので、自分一人で状況に対応する、あるいは不満を感じながら相手の言う通りにする。怒りの感情そのものを抑制するために物事をプラスに考えるといった回答は少なかった。

(2) 非言語・嫌味

相手に怒っていることを伝えたいが、問題を起こしたくないといった場合に、まなざしで相手を非難する、わざと本人に聞こえるように第三者に話す、ぶっきらぼうな口調で話す、嫌味やあてこすりを言うなどの回答があった。

(3) 冷静に話す

怒りの誘因となった出来事について、相手からの説明を求めたり、理論的に自分の考えを説明したりする。感情は抑制しているが、相手になぜそうしたのか理由を聞くことによって、自分が相手の言動に不満を感じていることが伝わると考えている。冷静に話し合うことで、怒りの感情を適切なレベルで相手に表出し、お互いの正当性を確認し、怒りの誘因となった状況が改善されると考えている。

(4) 注意する

相手がしている行動を制し、正しいと思われる行動をとるように促す。買い物の際に会計の列に横入りされた時は、列があることを示し、やや間接的に列に並ぶように促す。運転中であれば、クラクションを鳴らす。お寺での不適切な行為を見た場合、外国人の場合であれば、仏教の文化について説明をし、不適切だということを理解してもらうが、タイ人の場合であれば、ただやめるように言う。

(5) 文句を言う

「冷静に話す」や「注意する」とは違い、自分が不満であることのみを相手に伝達する場合である。ただ怒っているということを直接相手に伝えたり、独り言を言ったり、第三者に文句を言ってきかせるが、問題を解決したり、相手の行動をやめさせることができない、あるいは行動をやめさせるという意味はない場合が多い。口調は、少し感情的であるが、相手を怒鳴ったり罵ったりするほどではない。

(6) 叱る

相手の行動が期待通りでない場合に、大きな声を出したり、相手の顔を指さしながら、その行動を止めるように言う。大きな声を出すことで、自分の言うことを聞くようにする。相手が子供や学生などで、自分が指導的な立場にある場合に叱るという方法をとる場合が多い。

(7) 感情的に話す

大きな声を出して、感情的に相手を怒鳴ったり罵ったりする。相手も感情的になって言い返し激しい口論となる。また、サッカーの競技中には、普段よりもきつい口調で相手に警告をする場合がある。いずれの場合でも、本来は感情的な表出はすべきでないと考えているが、怒りの感情が高まり抑制できない場合や、外資系企業の職場などタイの社会文化が適用されない状況や、当事者の性格などによって、こうした対処方法をとる場合もある。

(8) 暴力

暴れて物を投げつける、殴る。小さな子どもが何か悪いことをした場合に、まだ話して聞かせても理解できないので、体罰として殴る。また、買い物先で金銭トラブルがあった場合に、自分が店の主人に騙されたことを周囲の買い物客にアピールするために、暴れて物を投げつける。

8つの怒りの対処方法及び各対処方法の怒りの表出強度別の場面数は表1の通りである。最も多いのは「無表出」と「冷静に話す」でありそれぞれ27場面である。次に多いのは

「注意する」で24場面である。これら3つの対処方法は全場面の約3分の2を占めており、タイ人が強度が低めの対処方法を多用していると考えられる。

表 2-1 怒りの表出強度、相手の立場別対処方法と場面数

対処方法	怒りの表出強度	相手の立場				場面数	(%)
		目上	対等	目下	知らない人		
無表出	無	9	9	1	8	27	23.5%
非言語・嫌味	弱	3	0	1	4	8	7.0%
冷静に話す	中	12	3	4	8	27	23.5%
注意する	中	0	1	1	22	24	20.9%
文句を言う	中	3	2	2	3	10	8.7%
叱る	強	0	1	4	0	5	4.3%
感情的に話す	強	2	5	2	3	12	10.4%
暴力	強	0	0	1	1	2	1.7%
計		29	21	16	49	115	100.0%

1.2 怒りを感じた相手の立場

怒りを感じた相手の立場は、両親、兄弟、親戚、配偶者、恋人、職場の上司、先輩、同僚、後輩、部下、大学の同級生、顧客、タクシー運転手や店の店員などのサービス提供者、見知らぬ人などがあつた。相手の国籍は、タイ人以外に日本人、ドイツ人、アメリカ人などがあつた。

各場面で怒りを感じた相手の立場を目上（両親・上司・兄弟・先輩）、対等（配偶者・同僚・同級生）、目下（弟妹・部下・後輩）、知らない人（顧客・サービス提供者・見知らぬ人）の4つに分類し、相手の立場別に使用された対処方法をまとめた（表2-1）。相手が目上の場合、「冷静に話す」が29場面中12場面と最も多く、次に多かったのが「無表出」で9場面であつた。相手が「対等」の場合は、21場面中「無表出」が9場面であり最も多かった。目下については、総場面数が16場面と比較的少なかったが、「冷静に話す」と「叱る」がそれぞれ4場面ずつであり、最も多かった。相手が「知らない人」の場合は、49場面中「注意する」が22場面であり最も多かった。

相手の立場別の怒りの対処方法を χ^2 検定で検証したところ、有意差が認められ（ $\chi^2(21, N=115)=66.36, p<.01$ ）、相手の立場によって対処方法が有意に変化することが確認された。

1.3 怒りの対処方法選択の理由

怒りを経験した 115 場面のうち、怒りの対処方法選択の理由についての言及があった場面は72場面あった。対処方法選択の理由を人間関係（人間関係を維持したい、相手を傷つけない、相手に嫌われたくない、衝突の回避）、表示規則（怒りを表出してもよい、怒りを表出してはいけない）、感情抑制不可（気持ちをすっきりさせたい、一時放棄して気持ちを落ち着ける、感情が抑えられない）、自己主張（相手に怒っていることを知らせたい、自分の権利を主張したい）、行動変化（相手に反省させたい、相手の行動を変化させたい、問題を解決したい）、利害関係、その他の7つのサブカテゴリーに分類した。最も多かったのは行動変化で16場面あった。次に多かったのは人間関係と自己主張で、それぞれ15場面であった。多用されていた対処方法（無表出、冷静に話す、注意する）別の対処方法選択の理由を検討したところ、無表出については人間関係に関する理由が最も多かった（20 場面中11場面）。面接対象者番号37（40代男性）は「無表出」を選択した理由を次のように説明している。

（発話データ 8）

ทำเป็นว่าไม่โกรธ คือหนึ่งให้มันจบ ก็คือไม่อยากจะเข้าชี้ และสองก็รักษาสัมพันธภาพ คือถ้า เราไปต่อ

เถียงกับเค้า เค้าก็จะไม่พอใจเรามากขึ้น ทำให้เค้ามองเราในแง่ลบมากขึ้น แล้วก็จะทำให้เค้าคิดว่า

ยังงี้ละ...คือเค้าเห็นเราก็จะมองในแง่ลบตลอด แต่ถ้าเรานิ่งๆ แล้วก็ไม่ยอมรับ แต่ก็คือเราเฉยๆ ก็

จะทำให้เรื่องจบไป ดีกว่าเราจะไปกระตุ้นเค้าแล้วทำให้เค้าเกิดความจำอะ

（訳）怒ってないふりをしたのは、一つは問題を終わらせたかった。うるさく言いたくなかったんです。二つ目は、人間関係の維持です。もし相手と言い争ったら、ますます相手は私に対して不満に思うでしょう。そしてずっと相手からネガティブに見られるでしょう。でももし黙っていたら、つまり、こっちも相手の言うことを聞き入れてはいないけど、黙って知らん顔してたら、問題も終わるでしょう。相手を刺激するようなことをして、相手の記憶に残るよりもいいです。

冷静に話すについては行動変化と自己主張がともに16場面中 4 場面でも多かった。注意するについても、冷静に話すと同様、行動変化(8場面中 4 場面)と自己主張(8場面中 3 場面)が最も多かった。「冷静に話す」を選択した面接対象者番号24(40代男性)の発話データを示す。

(発話データ 9)

ก็โอเคนะ ดีกว่าเราเงยบแล้วทำตามที่เขาบอกแล้วมันไม่ใช่ ตัวเราเองก็ไม่สบายใจ ไม่มีความสุข บางที

มุมมองความคิดมันอาจจะต่างกันอยู่ เราพูดดีกว่าเงยบ เราพูดในสิ่งที่เราสงสัยให้เขาอธิบายกลับมา

หรือถ้าอธิบายแล้วไม่ใช่เราก็แย้งเหตุผลไป

(訳) 大丈夫ですよ。黙って相手の言う通りにするよりいいです。そういうのは間違いですね。そういうんだと、自分の気分もよくないし、ハッピーじゃないですよ。考え方が違うことだってあるでしょう。黙っているよりも、話し合った方がいいです。自分が疑問に思うことを聞いて、相手に説明してもらうのです。説明してくれても、自分の考えと違うときには、理論的に反論します。

感情抑制不可の場合の具体的理由として、一時放棄して気持ちを落ち着いたという場面が、無表出で 2 場面、冷静に話すで 1 場面あった。面接対象者番号7(40代男性)の発話例である。

(発話データ10)

ถาม เราแสดงออกกับภรรยายังไง เวลาที่มีเรื่องโกรธเล็กๆ น้อยๆ

ตอบ เดินหนีไปเลย ไม่เถียง พอฟังแล้วมันขัดกันแล้วก็ไปดีกว่า พอเย็นทั้งคู่ค่อยมาคุย เพราะว่าถ้า

ร้อนกันอยู่แล้วมาคุยมันจะยิ่งบาน เขาไม่หยุดไม่เป็นไรเราไปเอง

(訳)

Q：奥さんに対して、何か少し怒ったりしたとき、どのように表現しますか？

A：逃げ出してしまいます。何も言い合ったりしません。相手のいうことが自分の考えと食い違うと、一旦その場を去った方がいいと思います。二人とも気持ちが落ち着いたら、話し合います。お互いカッカしているときに話してもますます悪くなるだけです。相手が話すのをやめないなら、自分から放棄すればいいんです。

多用されていた対処方法（無表出、冷静に話す、注意する）別の対処方法選択の理由を χ^2 検定で検証したところ、有意差が認められ（ $\chi^2(12, N=44)=25.67, p=.05$ ）、対処方法によって対処方法選択の理由が有意に変化することが確認された。

怒りの対処方法選択の理由のサブカテゴリー別場面数と多用される対処方法別選択の理由を表 2-2 にまとめた。

表 2-2 怒りの対処方法選択の理由のサブカテゴリー別場面数と多用される対処方法別選択の理由

サブカテゴリー	具体的理由	全体		無表出 (場面数)	冷静に話す (場面数)	注意する (場面数)
		(場面数)	(%)			
人間関係	人間関係を維持したい	6		3	2	0
	相手を傷つけない	1		1	0	0
	相手に嫌われたくない	2		2	0	0
	衝突の回避	6		5	0	0
	計	15	20.8	11	2	0
表示規則	怒りを表出してもよい	6		0	1	0
	怒りを表出してはいけない	4		3	1	0
	計	10	13.9	3	2	0
感情抑制不可	気持ちをすっきりさせたい	3		0	1	0
	一時放棄して気持ちを落ち着ける	3		2	1	0
	感情が抑えられない	5		1	1	0
	計	11	15.3	3	3	0
自己主張	相手に怒っていることを知らせたい	9		1	2	1
	自分の権利を主張したい	6		0	2	2
	計	15	20.8	1	4	3
行動変化	相手に反省させたい	4		0	0	1
	相手の行動を変化させたい	10		0	3	3
	問題を解決したい	2		0	1	0
	計	16	22.2	0	4	4
利害関係		3	4.2	1	1	0
その他		2	2.8	1	0	1
合計		72	100.0	20	16	8
データなし		43		7	11	16

1.4 怒りを感じた相手との人間関係

怒りを経験した 115 場面のうち、怒りの対処方法における相手との人間関係の影響についての言及があった場面は25場面あった。人間関係の影響を親密度（家族には表出しやすい、家族以外の親しい人には表出しやすい）、上下関係（目上の相手への表出抑制の正当性、対等の相手への表出の正当性、目下の相手への表出の正当性）、長期的関係（長期的な関係維持の必要性、一時的関係（関係維持は不必要）、家族 4 場面、家族以外 7 場面）の 3 つのサブカテゴリーに分類した（表 2-3）。

表 2-3 怒りを感じた相手との人間関係のサブカテゴリー別場面数

サブカテゴリー	具体的関係	全体	
		(場面数)	(%)
親密度	家族には表出しやすい	4	
	家族以外の親しい人には表出しやすい	4	
	計	8	33.3
上下関係	目上の相手への表出抑制の正当性	3	
	対等の相手への表出の正当性	1	
	目下の相手への表出の正当性	4	
	計	8	33.3
長期的関係	長期的な関係維持の必要性	6	
	一時的関係(関係維持は不必要)	2	
	計	8	33.3
合計		24	100.0
データなし		91	

注）多用されていた対処方法（無表出、冷静に話す、注意する）別の怒りを感じた相手との人間関係のサブカテゴリーを χ^2 検定で検証したところ、有意差が認められなかったため、表に示していない。

人間関係の維持の必要性について話す面接対象者番号4(40代男性)の発話データを示す。
(発話データ11)

คิดว่าผมก็เป็นคนหนึ่งที่ต้องการรักษาสัมพันธ์ภาพกับคนอื่น ผมไม่ใช่ประเภทแบบว่าไม่แคร์ ฉันจะทำ

ไรก็ได้ ผมมองเป้าหมายเป็นสำคัญ เพราะฉะนั้นเวลาจะแสดงออกอะไร ผมก็จะไม่แสดงออกจนเกินไป

ถึงแม้บางครั้งจะโกรธ แต่เราก็เฉยๆ ค่อยๆ ให้ความมันค่อยๆ ทำให้เราเย็นลง ก็ใช้วิธีการนี้มาตลอด จนรับ

ราชการก็ทำอย่างนี้ สำหรับตัวเองก็คิดว่ามันน่าจะได้ผลเพราะว่าเราใช้กันมาตลอด

（訳）私も他人との人間関係を良くしようと思うタイプです。そういうのを気にしないで、何でも自分がしたいようにするようなタイプではありません。私は目的が重要だと思います。ですから何かを表出するとき、やりすぎることがないようにします。怒っていても、何喰わぬ顔をしているときもあります。時間がたつと自分も落ち着いてきます。そういう方法をずっととってきました。公務についていたときもそうです。自分では、効果があるだろうと思っています。ずっとその方法を使っていますから。

1.5 怒りの対処方法に対する評価

怒りを経験した 115 場面のうち、怒りの対処方法に対する評価への言及があった場面は 41 場面あった。怒りの対処方法に対する評価を上下関係（上下関係を否定、上下関係を肯定）、個人の尊重（個人を尊重すべきである、相手を変えることはできない）、怒りの抑制（怒り表出を抑制すべきである、怒り表出によって悪影響がある）、問題解決（理論的に解決すべきである、ルールを守るべきである、相手に指導すべきである）、その他の 5 つのサブカテゴリーに分類した（表 2-4）。サブカテゴリーの中で、怒りの表出について評価した場面が 19 場面で最も多く、具体的には怒り表出を抑制すべきである、怒り表出によって悪影響があるといった評価であった。いずれも怒りの表出を否定的に評価している。

表 2-4 怒りの対処方法に対する評価のサブカテゴリー別場面数

サブカテゴリー	具体的評価	全体	
		(場面数)	(%)
上下関係	上下関係を肯定	5	
	上下関係を否定	2	
	計	7	17.1
個人の尊重	個人を尊重すべきである	2	
	相手を変えることはできない	5	
	計	7	17.1
怒りの表出	怒り表出を抑制すべきである	9	
	怒り表出によって悪影響がある	10	
	計	19	46.3
問題解決	理論的に解決すべきである	2	
	ルールを守るべきである	3	
	相手に指導すべきである	2	
	計	7	17.1
その他		1	2.4
合計		41	100.0
データなし		74	

注) 多用されていた対処方法(無表出、冷静に話す、注意する)別の怒りの対処方法に対する評価のサブカテゴリーを χ^2 検定で検証したところ、有意差が認められなかったため、表に示していない。

怒りは抑制すべきであると話す面接対象者番号 16(30 代女性)の発話を示す。

(発話データ 12)

「... គឺជាអ្នកដែលត្រូវទៅត្រង់ណាស់ ម៉្លេះអាចជាផ្នែកមួយដែលធ្វើឱ្យយើងក៏បង្ហាញពីអាក្រក់ដោយមិនដឹងថាវាម៉្លេះ

មិច យើងដឹងថាវាម៉្លេះ យើងចាំបាច់ដឹងថាវាម៉្លេះដែលយើងមិនចាំបាច់គឺជាម៉្លេះដែលយើងនៅតែនៅក្នុងស្ថានភាពដែលយើងមិនចង់ទៅទេ បើ

យើងអាក្រក់ណាស់ទៅ យើងនឹងរំខាន យើងមិនស្អាត គឺយើងដឹងថាវាម៉្លេះដែលយើងមិនចង់ទៅទេ បើយើងមិនចង់ទៅទេ

នៅក្នុងស្ថានភាពដែលយើងមិនចង់ទៅទេ... ដែលយើងមិនចង់ទៅទេ

(訳) 私はとてもストレートな性格なんです。だから怒りを表出することが間違っているとは思わないで表出してしまうかもしれません。だってそう感じるんだもの。相手に自分が間違ったことをしたということを知らせるべきです。でも適切なレベルというものがあります。もし怒り過ぎたら、攻撃的に見えてしまいます。礼儀正しく見

えません。怒りは表出してもいいけど、その程度はいわゆる、何というか、受け入れられるレベルのものでなければならないのです。

また、面接対象者番号1（30代女性）のタイと西洋の文化差について話す発話データを示す。

（発話データ 13）

คนไทยยังไม่เปิดใจกว้างนะ ถ้าพูดตรงๆ ไก่คนที่บอกว่า พูดมาได้เลย เปิดใจยอมรับ แต่เอา เข้า

จริงๆอะ ไม่รับเลย รับได้แต่วันรุ่งขึ้นอะ ทำเหมือนคนไม่รู้จักรักกัน แค่อ้าเป็นต่างประเทศเนี่ย มันรู้อยู่

แล้วอะว่ามันพูดตรงได้

（訳）タイ人ははっきり言ってまだそんなにオープンじゃないんですよ。なんでも言っていていいよ、聞くからって言う人たちだって、本当は受け入れてはくれない。翌日になると、まるで知らない人みたいな態度になるんです。でも外国人は、ダイレクトに言っても大丈夫だって分かってるから。

しかし、怒りを表出しない場合には悪影響もある。面接対象者番号1(30代女性)の発話例である。

（発話データ 14）

ใช่ เจ็บไว้ดีที่สุด ถ้า ณ ปัจจุบัน อายุ 33 ปี 11 ปีกับที่ทำงาน ความเจ็บคือสิ่งที่ดีที่สุด มันอาจจะอัด

อั้น ไม่พอใจ ขนาดลงใน Facebook ที่มันมีเพื่อนทำงาน เพื่อนร่วมงาน เพื่อนที่เรียนเจ๊อะ ระบายได้

แต่จะไม่มีการเอ่ยถึงบุคคลที่สาม แต่จะไม่ระบายเต็มที่อะ

（訳）そうです。黙っているのが一番いい。今33歳で、今の職場には11年いますけど、沈黙が一番いいことです。気詰まりだし不満に感じるかもしれませんが。フェイスブ

ックでは同僚や大学の友達と話ができて気晴らしができます。でも第三者については言及しません。でも完全に気が晴れるわけではないですけど。

一方、怒りを抑制しながらも冷静に話すことによって問題解決をすることに対しての評価はよい。面接対象者番号5(40代女性)の発話例である。

(発話データ 15)

ถาม ทำไมเราเลือกใช้วิธีการแบบนี้กับคนที่ทำงาน คืออธิบาย

ตอบ มีความรู้สึกว่ามันเป็นอะไรที่แก้ไขได้ง่ายกว่า มันเป็นวิธีการที่ง่ายที่จะบอกว่าชอบอะไร ไม่ชอบอะไร

และหาจุดร่วมกันที่จะแก้ปัญหานั้น เพื่อหาจุดร่วมกัน

(訳)

Q：なぜ職場の人に対して、（怒りを感じた時に）説明するという方法をとるのですか？

A：その方が問題を解決しやすいと感じるからです。何が好きか、何が好きじゃないかを言って、妥協点を探すのは、簡単な方法です。

ก็พอใจมั้งคะ เพราะเราก็บอกแล้ว มันไม่น่าจะเกิดเหตุการณ์แบบนี้อีกครั้งในอนาคต เพราะ เรา

ก็แสดงให้เห็นแล้วว่าตัวนี้ที่จริงๆ ในความเห็นของเรามันควรจะเป็นยังไง แล้วเขาก็ยอมรับว่าเขา

ต้องระมัดระวังในการทำแบบนี้ครั้งต่อไป

(訳) まあ満足じゃないでしょうか。自分もいうべきことをいったし、これからはこんなことは二度と起こらないと思います。自分は本当はどうすべきだと思っているかをきちんと言いましたから、次回は注意しなければならないということを相手は受け入れたと思います。

しかし怒りを表出することによって自分の主張をしても、相手の権利を尊重し、相手に

変化を強要することはできないという考えも見られた。面接対象者番号2(40代女性)の発話例を示す。

(発話データ 16)

ไม่ชอบทะเลาะ มันไร้สาระ คือโอเคถ้าทำไม่ได้ แล้วอีกอย่างเราต้องเคารพในความเป็นเค้า ด้วย

เค้าเป็นคนนิสัยแบบนี้ เราไปเปลี่ยนเค้าไม่ได้ คือเราแค่บอกเงื่อนไขของเรา แต่ทำหรือไม่ทำ ขึ้นอยู่ที่

เค้า พอเราจะไปบอกเค้าว่าแกต้องทำอย่างนี้นะ เรายังจะไปบังคับเค้ามากไป คือมันเป็นสิทธิของเค้า

(訳) 喧嘩するのが嫌なんです。そんなの意味がないし。できないならできないでいい。それに相手のことも尊重しなければなりません。その人がそういう性格なら、相手を変えることはできません。つまり私はただ自分の条件を示すだけです。やるかやらないかは相手次第です。もしあなたはこうしなくちゃだめだと言ったら、相手に強要しすぎです。それは相手の権利なんです。

第2項 考察

20人の発話データの分析の結果から、タイ人の怒りの対処方法とその価値観について考察した。その結果、タイ人の怒りの対処方略、すなわちタイ人の怒りを感じた際にどのような対処方法を選択するのか、その対処方法は怒りを感じた相手との人間関係によってどのように変化するかが示された。また、タイ人の怒り表出における前提と目的、怒りの対処方法と自己の意思の伝達及び怒り表出の社会的機能が示された。これらの結果にもとづき、タイ人の怒り対処方略をモデル化した。次の2.1から2.4において、考察の結果を記述し、2.5においてタイ人の怒り対処方略モデルを示す。

2.1 怒りの対処方略

怒りを表出した場面を分析した結果、相手がどのような立場であれ、タイ人は「無表出」や「冷静に話す」など、表出強度の低い対処方法を多用する傾向があることが示唆された。最も多用されていた上位3つの対処方法について検討したところ、「無表出」は目下が対象の場合は1場面しかなく、目下以外のすべての立場で多用されていた。「冷静に話す」

はすべての立場の人間関係で使用されていた。「注意する」は特に相手が見知らぬ人の場合に多く用いられていた。相手の立場がどのような場合でも、「冷静に話す」という対処方法が最も使用されやすいことが示唆される。目下の場合、「無表出」が1場面しかなく、「叱る」が多用されていることから、相手が目下の場合には、目上の場面より怒りの表出強度が強くなると考えられる。

本研究で行った面接では、勤務経験が2年以上ある社会人を対象者としたため、上下関係については、両親、兄弟などの家庭内での状況と、上司・同僚・部下などの職場での状況での怒りの経験を話す者が多かったと考えられる。発話内容から、タイの家庭内では、子どもの頃は両親に対して自分の意見を述べたり逆らったりすることは許されていないが、大人になるにつれて両親に対して自分の考えを冷静に述べる事が許されるようになると、考えられていた。

職場においては、特に業務に関することについては、上司と意見が対立し、怒りを感じた場合でも、冷静に話して問題を解決しようとする傾向がみられた。日本人の怒り表示規則について、日本人は上司に怒りを感じたとしても、その怒りをぶつけて対抗する権利は部下にはまったく認められていない(Matsumoto, 1996)が、本研究の結果では、タイ人は職場における上下格差を容認する意識が日本人と同様に強いものの、目上の場合であっても「無表出」よりは「冷静に話す」という対処方法をとる場面が多かったのは、目上の人に対してでも、自分の考え方や権利を相手に伝えようとする態度が、日本人よりも強いからではないかと推察する。

しかし、家庭内の上下関係と職場の上下関係の違いは、家庭内の上下関係は、血縁に裏付けられたものであり、その人間関係はゆるぎない。家庭内の人間関係は破壊されることはないという前提があるのに対し、職場での上下関係は絶対ではないとタイ人が考えている点は注意すべきであると考ええる。職場での上下関係は、むしろ利害関係を基本とするため、上司との人間関係の悪化は、個人的な利益の喪失につながるものとなる可能性があるため、ことさらに人間関係の維持が重視されるとともに、利益の喪失を防ぐための自己の権利の主張が行われるのではないかと考えられる。タイ人の人間関係を論ずる際には、同じ上下関係であっても、家庭内の人間関係か職場など家庭外の人間関係かによって、区別をして検討する必要があるのではないかと考える。

「注意する」という対処方法は、「知らない人」に対して怒りを感じた場合に最も多く使用されていたが、相手が知人である場合には、ほとんど使用されていない。「冷静に話す」は、自分の意思を伝えつつも、相手の意思を聞こうとする対処方法であるのに対し、「注意する」は、相手の意思を聞かず、自分の意思を一方的に伝える対処方法である。知らない人というのは、公共の場で出会ったその場限りの人間関係であり、人間関係の維持について配慮する必要がないため、無意識に相手の意思の尊重は必要でないと判断しているのかもしれない。

Holmes & Tangtongtavy (1995)は、タイ人には「家族の世界」、「気配りの世界」、「自分本位の世界」の3つ社会的世界があるとし、職場などオフィシャルに付き合う人々からなる「気配りの世界」では、相互に適切なマナーに基づく行動様式が期待されるが、公共の場である「自分本位の世界」では、お互いに見知らぬ者通しであり、気配りをもった対応は期待できないと述べている。本研究の結果から、外集団である「知らない人」に対して「注意する」という対処方法が最も多用されていたのに対し、内集団である既知の人に対しては「注意する」がほとんど使用されず「無表出」や「冷静に話す」といった対処方法が多用されることが示唆されたが、ここからタイ人が「自分本位の世界」で怒りを表出する際、相手に対する気配りをしていないことがうかがえる。

2.2 怒りの表出における前提と目的

怒りを表出した場面を分析した結果、相手がどのような立場であれ、タイ人は「無表出」や「冷静に話す」など、表出強度の低い対処方法を多用する傾向があることが示唆された。なぜ表出強度の低い対処方法が多用されるのかについて検討するため、「怒りの対処方法に対する評価」のカテゴリーを中心に分析した。

その結果、「黙っているのが一番よい」、「タイ社会では感情表出を弱くしなければならない」、「怒りを出しすぎることは相手に失礼にあたる」など、怒りの表出を抑制することがタイの社会的規範と考えられていることが見出された。発話データ12で示した30代女性は、自分はストレートな性格であるといいながら、そのことを肯定的にはとらえていない。怒りを表出しすぎることは、礼儀に背くことであり、怒りの表出には適切なレベルがあるという、怒り表出に対する暗黙の前提が示されている。

また、発話データ13で示した西洋人がいる職場で働いた経験がある30代女性は、西洋人

とタイ人の怒り表出の異文化について、西洋人はダイレクトに意見を主張したり、怒りを表出することができるが、タイ人には西洋的な態度は受け入れられないと話している。

なぜ怒りを抑制しなければならないかについて、対処方法の選択理由と対処方法に対する評価をさらに分析すると、「無表出」を選択した回答者は、相手との衝突を避けたい、目上の人に対しては何もできない、問題を起こしたくない、怒りを出してはいけない、相手から悪い印象をもたれたくないなどの理由により、相手に対して怒りを出さないという選択をしていたことがわかる。「冷静に話す」を選択した回答者は、相手に自分の権利を主張しなければならない、自分が不満であることを知らせたい、黙っていても気分がよくない、問題の理由を知り解決したいという理由から、感情を抑制しながらも、自分の不満を相手に伝え、理論的に話しあうことを選択していた。

「無表出」「冷静に話す」のどちらを選択した場合も、その理由について、親しい人や家族とは人間関係を維持しなければならない、今後も一緒に働かなければならない、感情的に怒りを表示すると人間関係が悪化するなど、多くの対象者が「人間関係を維持したいから」と回答している。

発話データ8で示した40代男性は、問題を解決するために一時的に相手と対立することが、その後の人間関係に長期的な悪影響を与えていると考えている。また、良好な人間関係の維持は、対立の原因となった問題を解決するよりも、優先順位が高いと考えていることがうかがえる。

発話データ11で示した60代男性は、目的を達成するためには、感情を出しすぎないことが必要だと話している。人間関係を維持するために、怒っていても何食わぬ顔をしているのである。

いくら怒りの表出は抑制すべきであると考えていても、実際に怒りを感じた場合にどのような対処方法を選択するかについては、怒りの程度、本人の性格、状況などに加え、上下関係や親密度など、怒りを感じた相手との人間関係によって、様々に変化する。怒りが抑制できず、「叱る」「感情的に話す」「暴力」など、怒りの表出強度の高い対処方法を選択する場合もある。怒りの表出強度の高い対処方法をとった場合の発話を分析すると、部下や子供など、相手が自分より目下の場合には、相手が言うことをききやすい、問題解決につながったというポジティブな帰結になる場合もあるが、多くの場合、ケンカによってお互いに傷つき、その後人間関係が疎遠になった、生徒を叱ったことによって生徒から

受け入れられなくなったなど、人間関係の悪化というネガティブな帰結になる。

もう一つの対処方法として、強い怒りを感じ抑制できないと感じた場合に、発話データ10の40代男性のように、一旦その場をはなれ、気持ちを落ち着けるために「一時放棄」する場合も多くみられた。「一時放棄」した場合には、気持ちが落ちついた後、怒りを感じた相手と「冷静に話す」ことが多い。一時放棄した方がよいと考える理由は、感情を抑制できず、感情をそのまま表出した場合には、不用意な発言をするなど、相手を傷つけてしまうだけで、問題を解決することができないと考えているからである。

一時放棄する場面がよくあるということは、タイ人が表面的な冷静さとは裏腹に、抑制できないと感じるほどの強い怒りを感じる機会も多いということを意味するのかもしれない。しかし、タイの社会文化では、その強い怒りを表出することは許されない。抑制できずに表出した場合には、人間関係の悪化という社会的制裁が待ち受けているからである。

タイの社会においては、人間関係の維持という最優先の目的を達成するために、怒りの表出は可能な限り抑制されるべきとされ、表出強度の低い怒りの対処方法が多用されるのではないかと考えられる。こうしたタイ人の信念や態度は、Komin(1990)の提唱するタイ人の9つの価値群のうち、円滑な人間関係志向(Smooth Interpersonal Relationship Orientation)の価値群を反映していると考えられる。彼女は、円滑な社会相互作用に高い価値観をおく社会にとって、ネガティブ感情の表出抑制は、きわめて重大な課題であると述べている(Komin, 1990 : 176)。また、相互作用を円滑に進め、公然とした対立を避けるため、「物静かで、慎重=チャイイェン」つまり、自分自身の気持ちを静めるのと同時に、ゆっくりと静かで慎重なステップをとることによって、静かに状況をコントロールする能力は、非常に重要である(Komin, 1990 : 175)。チャイイェン(冷静、穏やか、すぐに興奮しない)は、マイペンライ(満足する、何でもよい)、アーロムディー(微笑みをたやさない、ものに動じない、激しい感情表出をしない)とともに、タイ人の特性を形成する性質としてよく引用される(Komin, 1990 : 172)が、タイ人の怒りの対処方略においても重視されていることを物語る。

2.3 怒りの対処方法と自己の意思の伝達

人間関係を維持するために、怒りを抑制すべきであると考えのなら、「無表出」や「非言語・嫌味」が最も多用される対処方法であってもいいはずだが、本研究の面接調査

の結果からは、「冷静に話す」が「無表出」と同じくらい多用されることがわかった。

「冷静に話す」がなぜ多用されるのかについて、その理由を検討した。両者は怒りを感じた当人の意思伝達の可否という点で、異なる属性をもつため、怒りを抑制できた場合の自己の意思伝達の有無によって、怒りの対処方法を2つに分類した。怒りを抑制し、かつ意志の伝達がない対処方法は、「無表出」、「嫌味」、「非言語」とした。怒りを抑制し、かつ意志の伝達がある対処方法は、「冷静に話す」、「文句を言う」、「注意する」とした。

「冷静に話す」という対処方法をとった場合には、自己の意思の伝達が可能となる。発話データ9で示した40代男性の発話から、怒りを抑制するべきであるとしながらも、自分の意見は主張すべきであるという考え方がうかがえる。

また、怒りが抑制できなかった場合には感情をそのまま表出することになる。その場合に自分の不満を相手に伝えることはできるが、建設的な問題解決にはならず、その後の人間関係も悪化する。こうした対処方法は、タイの社会では適切な態度とはみなされていない。ただし、怒りを抑制できなかった場合でも、一時放棄という方法をとることにより、感情をそのまま出すことにより受けるダメージを軽減することができる。怒りが収まるまでその場を放棄することで、人間関係維持への悪影響を軽減すると同時に、気持ちが収まってから再度話し合うことで、自己の主張と建設的な問題解決が可能となる。激しい怒りを抑えるためにその場から一時逃げ出すという態度は、タイ人の特徴的な怒りへの対処方法ではないかと思われる。そのような対処方法をとってでも、人間関係の維持と自己の主張の二つの目的を達成できる方略をとろうとするタイ人の巧妙さ、したたかさがうかがえるからである。

それでは、自分の意思を伝達しなかった場合はどのようなになるだろうか。人間関係の維持という最優先の目標は達成できるが、本人はうっぷんがたまり、第三者に愚痴を言ったりすることになる。本人が怒っていることが相手に伝わらないことから、相手の態度を変化させることも状況を改善ことも期待できない。そのため、この対処方法をとる場合が多いものの、最も良いとは考えられていないようである。

「表出しない」という対処方法を選択した場合、発話データ14で示したように、怒りを感じさせた相手に対する不満や怒りを伝達できないことから、本人が第三者に愚痴を言って、うっぷんをはらす場面が多くみられた。一方で、自分のいないところで、第三者が自

分の陰口や悪口を言うことに対する不満の声も聞かれた。直接相手に怒りを表出せず、陰口をいうことにより、怒りが長期的にくすぶり、お互いにすっきりしないまま、相手の顔を窺いながら、今後の人間関係を表面的にかろうじて維持しているようである。「無表出」は、人間関係の維持という目的は達成することができても、お互いの理解や主張の機会はなく、精神的にも悪影響があることから、多用される対処方法ではありながら、望ましい対処方法であるとは考えられていない。

2.4 怒りの社会的機能

タイ人が怒りを表出するのは、自分が不満であることを相手に知らせたい、自己の主張をしたいからだけでなく、相手に行動の変化を期待しているからである。自分たちの文化や社会のルールを守ってほしい、相手がその行動をやめることで、罰則を受けないようにしたい、自分が間違っていることを自覚させたいなど、相手の言動に対する不満を伝えることで、その言動をやめることを期待している。変化させなければならない行動とは、自分が不満であると感じる行動だけでなく、特にタイの社会で正しいと容認されている社会文化的規範や職場などの組織内でのルールがある。あるいは、子供や学生や部下など、自分より目下で、指導的立場にある場合は、大きな声を出さないということをきかない、大人は子供を教育しなければならないと考え、実際に感じている以上に怒りを強く表現し、相手に自分の望むような行動を強制しようとする場面も見られた。

しかし、相手が目下でない場合は、自己の権利の主張や相手の行動の変化という目的が最も効果的に果たされるのは、怒りを抑制しつつ、自分の意思を理論的に伝えることができた場合に限定されると考えられる。なぜなら、強い感情表出をした場合には、自己の感情や不満を主張することはできても、その後人間関係が悪化する恐れがある。逆に「無表出」の場合には、人間関係を維持することはできても、相手は自分が怒っていることに気付かず、相手の行動の変化が期待できない。従って、「冷静に話す」、「注意する」といった方法が最も多用されるのは、自己の権利の主張と人間関係の維持の二つの目的を同時に達成できる可能性が最も高いからだと考えられる。発話データ15の40代女性も、このような考え方にに基づき「冷静に話す」という対処方法をとったと話した。

もっとも、自己の主張をし、相手の行動の変化を期待することはあっても、相手に行動の変化を強要しているわけではない。食事制限をしている父親が医師に禁止されている食

品を食べようとするのをやめさせようとした場面では、「いずれ人間は死ぬ運命ですから、食べるか食べないかを決めるのは父です。」という。目上の人に意見を言っても考えを変えない、自分が言った通りに相手がするかどうかは相手の問題、相手のやり方を変えることはできない、お互いを尊重しなければならないなど、自分の主張をしつつも相手の意思を尊重しようとする気持ちが非常に明白である。特に相手が目上の場合や親密度の低い人の場合は、相手の行動の変化への期待のレベルが低下するようである。

このように、相手に自分の主張をし過ぎてはいけないと考えるタイ人の態度は、Komin(1990)の「エゴ志向」を反映していると考えられる。彼女が述べるように、タイ人のエゴは独立、誇り、尊厳に対する深い意識を意味する。タイ人は自分のエゴを守るため、相手が間違っていると感じた場合には、感情を抑制しつつも、敢えて自己の主張をすることを選択しようとする傾向が強いのかもしれない。それでも、お互いのエゴを傷つけないために遠慮する気持ち（クレンチャイ）を持ち、相手の権利に必要以上に踏み込まないようにしているのではないか。タイ人は自己主張はしても、自分の主張が聞き入れられなくてもよいと考える。相互の寛容や割り切りによって、お互いのエゴを守り合い、注意深く相手との良好で平穏な人間関係を維持しようとしているのだろう。

2.5 タイ人の怒り対処方略のモデル化

タイ人の怒りの対処方法が、状況や人間関係によって様々に変化することが示唆された。それぞれの怒りの対処方法をとった場合の社会的機能、帰結の展開を、上述の結果と考察に基づきながら整理し、タイ人の怒り対処方略を図 2-2 のようにモデル化してみた。

図 2-2 に示すように、モデル化にあたっては、怒り感情が発生した状況において、タイ人の怒り対処方略における前提である「表出を抑制すべきである」を出発点とした。次に、怒りを感じた場合に抑制できる場合と抑制できない場合とに分けた。また、怒りを抑制できた場合の対処方法は、自分の意思を相手に伝達するかしないかによって分類した。怒りを抑制するが、自分の意思を伝達しない対処方法は、「無表出」、「表情・口調」、「嫌味」である。怒りを抑制するが、自分の意思を伝達する対処方法は、「冷静に話す」、「文句を言う」、「注意する」である。

怒りを抑制できない場合では、「叱る」、「感情的に話す」、「暴力」といった対処方法がとられる。「叱る」は相手の行動を指導的に変えたいという意思がある場合の対処方

法であり、単に怒りを抑制できずに表出する、「感情的に話す」や「暴力」とは区別される。また、感情の抑制ができなかった場合に、「一旦放棄して気持ちを落ち着け、気持ちが落ち着いてから話し合う」という対処方法もとられる。これは、その後の展開として感情が抑制できたため「冷静に話し合う」に移行することがある。

怒り感情の社会的機能については、それぞれの対処方法によって達成される社会的機能を、自分の権利が主張できるかどうか、相手の行動の変化を期待できるかに着目しながら分類した。さらに、それぞれの対処方法は、結果として、相手との「円滑な人間関係の維持」という目的にとって役立ったかどうかという帰結を示した。

また、円滑な人間関係志向（人間関係の維持、チャイイェン（冷静さ））、エゴ志向（自己の権利の主張、相手のエゴの尊重、クレンチャイ（遠慮））といった Komin(1990) が提唱したタイ人の価値感を、タイ人の怒り方略モデルにおける、前提と目的、怒りの対処方法、怒りの社会的機能に結びつけた形で示している。

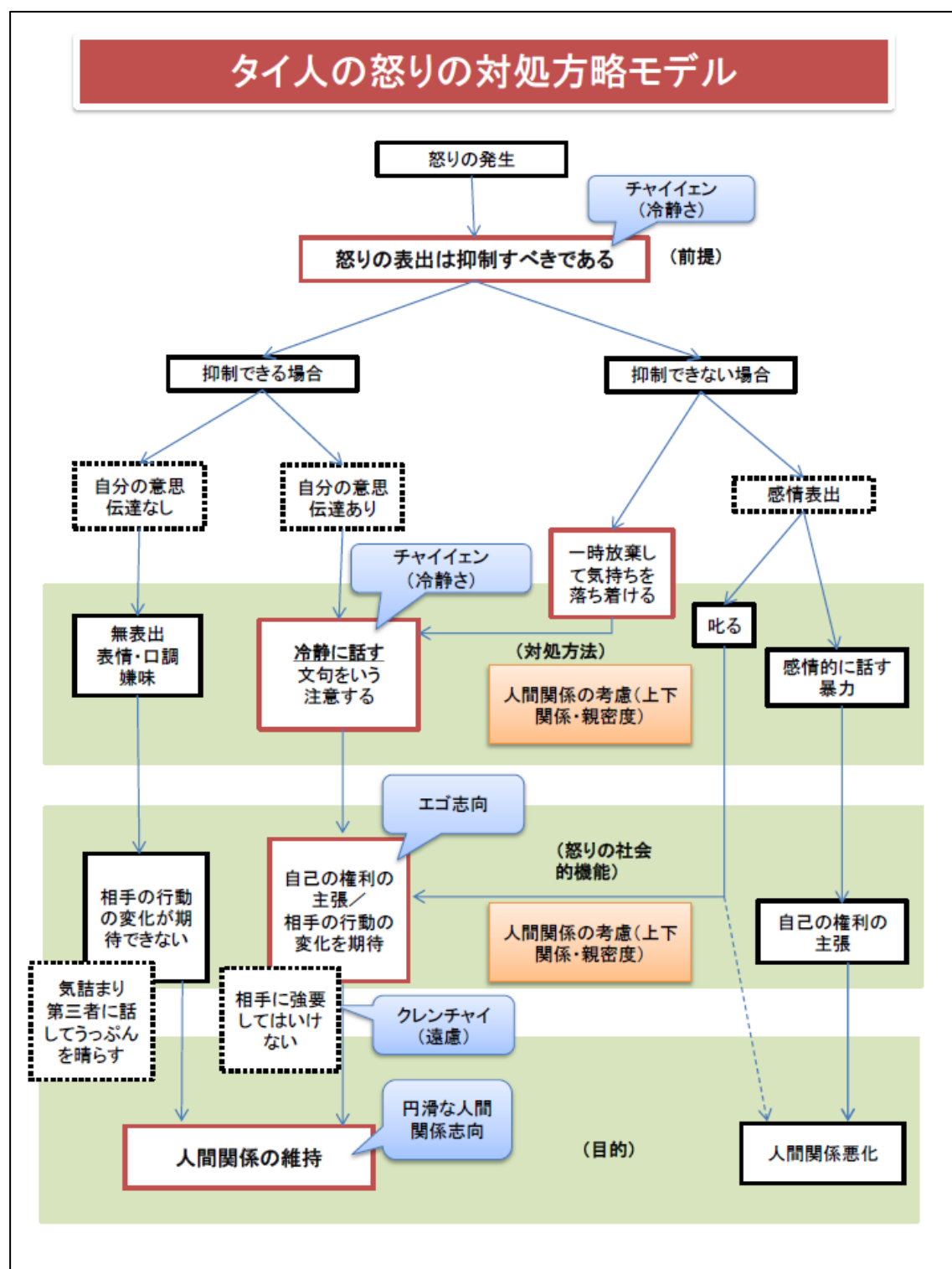


図 2-2 タイ人の怒りの対処方略モデル

第3章 研究3 タイ人の怒りの感情規則と表示規則の検討 ～状況的質問票を用いた日タイ比較～

第1節 目的

タイ人の怒りの感情規則と表示規則を検討するにあたり、タイ人の怒り感情についての実証的な先行研究がこれまでにほとんどなされていないことから、面接調査による質的研究（研究2）を行い、タイ人の怒りの誘因と対処方法について予備的検討を行った。その結果、怒りの経験がタイ人の価値観や社会規範を反映して、状況や相手との人間関係によって変化ことが示唆された。

研究3では、研究2で得られた知見に基づき、価値観や人間関係の違いによる怒りの誘因や対処方法の変化に着目しながら、タイ人と日本人を対象に質問紙調査を行い、タイ人の怒りの感情規則と表示規則の社会文化的要因を検討する。具体的には、状況的質問票を提案した山内(2008)を参考に、怒りを喚起する15の場面（本章第2節第2項を参照）を質問票によって提示し、各場面を回答者に想像させて喚起される怒りの強度や対処方法や理由などを回答させ、タイ人と日本人を比較することにより、タイ人の怒りの感情規則の特徴とタイ人の価値観や規範との関係について、さらに検討を進める。

研究3について、本章の第2節では本研究の方法を説明する。第3節で結果と考察を述べ、第4節で得られた知見をまとめる。

第2節 方法

第1項 状況的質問票

研究3で使用する質問票は、山内(2008)が考案した感情喚起と感情喚起に先行する認知的評価の個人差を測定するツールを参考に、怒りを喚起するであろう15の場면을提示し、各場面を想像させて回答させる「状況的質問票形式」とする。山内(2008)は、状況的質問

票形式の利点として、①感情喚起および認知的評価を、より日常場面に近い形で測定できること、②集団実施が可能であることを挙げている。

質問票の構成

質問票は日本語とタイ語で準備した。日本語で作成した質問票を研究者自身がタイ語に翻訳し、バイリンガルのタイ人によるバックトランスレーションにより翻訳の正確さを確認した。

最初に性別、年齢、国籍を回答させた後、短い文章によって15場面を提示し、場面ごとにその状況になったと想像させて、4つの設問に回答を求めた。

設問1では喚起される怒りの程度を「全く感じない」から「強く感じる」の4段階で評定させた。

設問2では認知的評価をさせた。すなわち、怒りを感じさせた相手の言動をどのように解釈するか、4つの選択肢から選ばせた。それらは、「相手の言動によって自分の行動を妨害された（欲求不満）」、「相手が自分の思った通りに行動しない（願望に背く）」、「相手の言動はあなたに対する個人的配慮に欠ける（プライドを損傷）」、「相手の言動は社会的に非常識である（道義違反）」の4つである。Averil(1982)と大淵・小倉(1984)は、怒りを感じた出来事における被害の認識を、身体的被害、物質的損害、欲求不満、願望に背く、プライドを損傷、道義違反の6つに区分しているが、研究3ではこの中から、身体的被害、物質的損害を除いた4つの分類に対応させた選択肢を設定した。

設問3では怒りの対処方法を尋ねた。相手に対してどのように怒りを表現するかについて、択一で選ばせた。選択肢は、「表出しない」、「無視する／話さない」、「表情・口調」、「嫌味を言う」、「冷静に話し合う」、「注意する」、「文句をいう」、「その場から立ち去る」、「感情的に罵る」、「その他」の10種類であった。

設問4では設問3の選択の理由を尋ねた。回答は、「人間関係を維持したい」、「怒りを表出するのはかっこわるい」、「問題を起こしたくない」、「気持ちをすっきりさせたい」、「相手に怒っていることを知らせたい」、「自分の権利を主張したい」、「相手に

反省させたい」、「相手の行動を変化させたい」、「問題を解決したい」、「その他」の10の選択肢から1つ選択させた。

設問3及び設問4の選択肢は研究2の面接調査結果をもとに決定した。また、設問1で「全く感じない」を選択した場合は、設問2から設問4には回答させないことにした。日本人に対する調査では、Google Formを使用してインターネット経由で回答させた。その際、いずれかの選択肢を選択しなければ次の設問に進めないようにし、「設問1で「全く感じない」を選択」という選択肢を設問2から設問4に追加した。一方、タイ人に対する調査では印刷した紙の質問票に回答を記入させ、質問票に設問1で「全く感じない」を選択した場合は、設問2から設問4には回答せず次の場面に進むよう、場面ごとに明記した。

第2項 質問票に用いる15の怒り喚起場面

本研究で提示した15の怒り喚起場面は、以下の手続きにより作成した。

まず、面接調査（研究2）で見いだされた89の怒りの経験場面の中から、強度の強い怒りを感じた誘因、あるいはタイの文化的価値観を反映していると考えられる誘因を含む35場面を抽出した。その35の場面を使用して、タイ人4名（男女2名）と日本人4名（男女2名）を対象に、研究3の本調査のための予備調査を行った。予備調査では35の場面すべてについて、喚起される怒りの強度、怒りを喚起した相手の言動への評価、怒りの対処方法、怒りの対処方法選択の理由を回答させた。設問は後述の質問紙と同様である。

予備調査の結果、①日タイで文化差の大きかった場面、②日タイ双方、あるいはどちらかの怒りの強度が高かった場面を抽出し、最終的に15の怒りの場面を選択した（表3-1）。場面抽出の基となった面接調査（研究2）は社会人が対象であったため、本研究の対象者である大学生が回答しやすいよう、職場をアルバイト先にするなどの変更を行った。その際、相手の所属集団（家族、家族以外の内集団、外集団）と立場（目上、対等、目下）が全ての組み合わせになるよう設定した。全場面における相手（所属集団・立場）の内訳は表3-2の通りである。また、本研究は社会文化的要因を検討する目的であることから、物質

的損害、身体的危険に該当すると考えられる誘因は除外し、研究 2 で欲求不満、プライドを傷つけられた、道義違反、期待に背くと仮区分した誘因が含まれるようにした。

表 3-1 提示した場面と相手の所属集団と立場

場面		所属集団	立場
①	同級生からあなたの親友との関係を必要以上に詮索され、そんな人とはつきあわない方がいいと言われた。	家族以外 の内集団	対等
②	先生が全員の試験の成績を名前つきで公表するので、自分の成績が悪いと他の人にばれてしまう。先生に名前を公表しないでほしいと言ったが変えてくれない。	家族以外 の内集団	目上
③	タクシーに乗っていたら、タクシーの運転手が天皇陛下(王様)の悪口を言った。	外集団	目上
④	友達が自分の悪口を別の友達に吹き込んでいることを知った。	家族以外 の内集団	対等
⑤	あなたが毎日部活でスポーツをしていると、父親に勉強の方が大切だから部活はやめろと言われた。	家族	目上
⑥	友達と待ち合わせたら30分遅刻してきて謝らない。	家族以外 の内集団	対等
⑦	授業で、友達とグループでレポートを作成することになったので、みんなで分担を決めたが、グループの一人が自分ではできないからと言って、全く協力しようとしなない。	家族以外 の内集団	対等
⑧	教室で同級生に自分の両親の悪口を言われた。	家族以外 の内集団	対等
⑨	明日までに提出しなければいけない宿題を一生懸命していたら、母親が話しかけてきた。無視して宿題を続けていたが、ずっと話をやめようとしなない。	家族	目上
⑩	父親が足を痛めたので、病院に行くのに車で送ってあげようと言っても、自分でバスに乗って行くからいいと言ってきかない。	家族	目上
⑪	バイト先で、上司は仲のいい人には仕事を頼まない。他のアルバイトの人は同じ給料をもらって暇そうにしているのに、自分は上司からたくさん仕事を頼まれる。	家族以外 の内集団	目上
⑫	アルバイト先で新しく入った後輩に、仕事中は携帯電話の電源を切るように言ったが、何度言っても電源を切らない。	家族以外 の内集団	目下
⑬	スーパーにシャンプーを買いに行ったら、ちょうど値引き中の札がついていた。キャッシャーでお金を払おうとしたら、いつもと同じ値段だった。店員に文句を言ったら、値札が間違っているとされた。	外集団	目上
⑭	後輩にやさしく注意したら不満気な態度だった。	家族以外 の内集団	目下
⑮	買い物に行って会計の列に並んでいたら、年配の女性が割り込んできた。	外集団	目上

表 3-2 15場面における相手の所属集団と立場

		目上	対等	目下	計
内集団	家族	3			3
	所属先	2	5	2	9
外集団		3			3
計		8	5	2	15

第3項 方法

対象者

日本人大学生 105 名（男性81名、女性24名）及びタイ人大学生98名（男性49名、女性49名）を対象とした。平均年齢は、日本人が19.5歳（ $SD = 0.91$ ）、タイ人が21.3歳（ $SD = 2.19$ ）であった。

実施時期

2015年1月

手続き

日本人大学生には大学の心理学関係の授業で調査への協力を依頼し、授業時間外に回答してもらった。回答方法は、授業でリンク先を配布し、Google Form で作成した調査票にインターネット上で回答してもらった。タイ人大学生は協力先の大学の複数の授業で協力を依頼し、印刷された質問票を配布し、授業時間外に回答してもらった。

第3節 結果と考察

本節では、質問紙調査によって得られたタイ人の怒りの感情規則と表示規則及び日本人との文化差に関する結果と考察について述べる。具体的には、質問紙の設問1の喚起され

る怒りの程度、設問 2 の相手の言動に対する認知的評価の結果、設問 3 の怒りの対処方法、設問 4 の怒りの対処方法選択の理由について、15 場面の日タイの対象者の回答内容进行分析する。

分析においては、まず各場面ごとに 4 つの設問の日タイの回答結果（度数分布）に違いがないか、 χ^2 検定により確かめた。設問 1 の怒りの強度は、選択肢を間隔尺度と仮定して数値化し（回答を怒りを全く感じない＝0、わずかに感じる＝1、感じる＝2、強く感じる＝3）、怒りの平均強度の差が有意か t 検定により確かめた。また、性差の影響を検討するため、設問別に日タイの対象者の回答結果を男女別に集計し、 χ^2 検定による検証を行った。分析には Excel 2010 及び SPSS Ver. 22 を用いた。また、15 場面の回答データを補遺に付けた。

第 1 項 性別の効果

15 場面の回答全体を設問別・国籍別に男性と女性の差が有意かどうかを確かめるために χ^2 検定を行ったところ、タイ人は設問 1 の怒りの強さ（ $\chi^2(3, N=1463)=38.46$, $p<.01$ ）（図 3-1-1）、設問 3 の怒りの対処方法（ $\chi^2(9, N=1047)=31.68$, $p<.01$ ）（図 3-1-2）は度数分布に有意差が認められたが、設問 1 の回答を数値化したものには、有意差は認められなかった（ $df=1461$, $t=-5.81$, ns）。設問 2 の怒りを感じさせた相手の言動の評価及び設問 4 の怒りの対処方法選択の理由は度数分布に有意差が認められなかった。

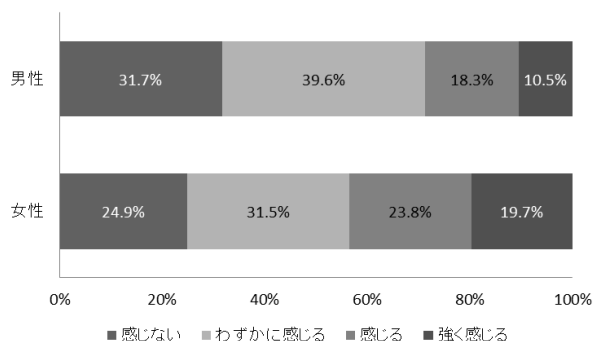


図 3-1-1 タイ人の設問 1 の回答結果

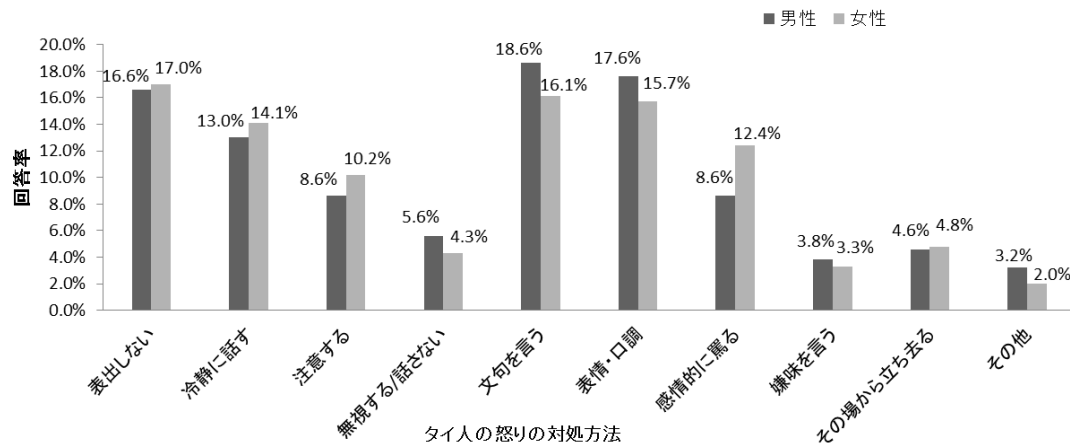


図 3-1-2 タイ人の設問 3 の回答結果

日本人は設問 1 については度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=1575)=18.72$, $p<.01$) が、怒りの強度を数値化したところ有意差は認められなかった ($df=1573$, $t=-4.21$, ns) (図 3-1-3)。設問 2 の怒りを感じさせた相手の言動の変化、設問 3 の怒りの対処方法、設問 4 の怒りの対処方法選択の理由では度数分布に有意差は認められなかった。

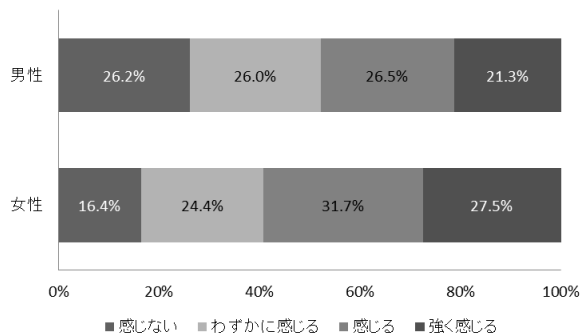


図 3-1-3 日本人の設問 1 の回答結果

第2項 場面別の結果と考察

2.1 場面1の結果と考察

場面1「同級生からあなたの親友との関係を必要以上に詮索され、そんな人とはつきあわない方がいいと言われた。」の設問1では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた（ $\chi^2(3, N=203)=31.54, p<.01$ ）。タイ人は怒りを「わずかに感じる」の回答率が最も高く（45.9%）、日本人は「感じる」が最も高い（44.8%）（図3-2-1）。また、日本人（1.55）がタイ人（0.89）より怒りの平均強度が高い（ $df=201, t=5.68, p<.05$ ）。

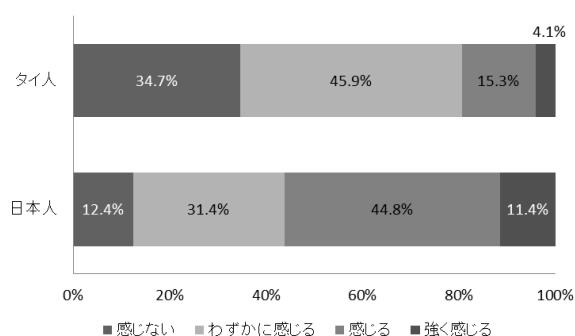


図 3-2-1 場面1の設問1の回答結果

設問2の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた（ $\chi^2(3, N=155)=19.04, p<.01$ ）。タイ人（67.0%）も日本人（53.1%）も相手の言動を「個人的配慮の欠如」と評価する率が高い（図3-2-2）。

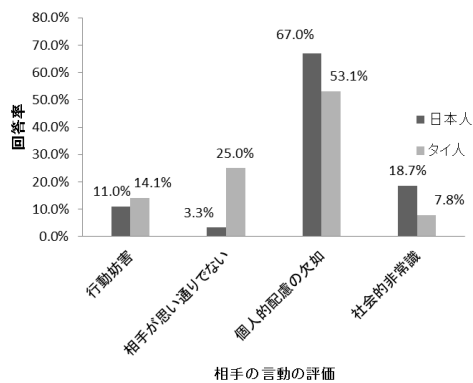


図 3-2-2 場面 1 の設問 2 の回答結果

設問 3 の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差は認められなかった ($\chi^2(9, N=146)=14.59, ns$)。タイ人 (36.5 %) も日本人 (31.3 %) も「表出しない」の回答率が最も高い。

設問 4 の対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差は認められなかった ($\chi^2(9, N=155)=11.39, ns$)。タイ人 (38.1 %) も日本人 (29.3 %) も「問題を起こしたくない」の回答率が最も高い。

場面 1 の設問 3 で、タイ人は怒りの対処方法として「表出しない」の回答率が最も高く (36.5 %)、その理由は「問題を起こしたくない」が最も高い (50.0 %)。日本人も「表出しない」が最も高く (31.3 %)、その理由は「人間関係を維持したい」が最も高い (38.5 %)。

場面 1 では、怒りの誘因として「親友」という自分にとって親密度の高い人間に対する中傷と自分の交友関係に対する第三者の干渉との二面が考えられるが、日本人、タイ人とも、相手の言動を「個人的配慮の欠如」と回答する率が最も高かったことから、他者からの干渉というよりも、親友に対する中傷が主に怒りの誘因となっていると考えられる。

またタイ人も日本人も、同級生と「問題を起こしたくない」ため「怒りを表出しない」という回答が最多となり、自己の感情を抑制してでも同級生という自分の所属集団のメンバーとの人間関係の維持を優先させようという傾向が共通していると考察する。

2.2 場面2の結果と考察

場面2「先生が全員の試験の成績を名前つきで公表するので、自分の成績が悪いと他の人にばれてしまう。先生に名前を公表しないでほしいと言ったが変えてくれない。」の設問1では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=203)=52.27, p<.01$) (図3-3-1)。タイ人は怒りを「感じない」の回答率が最も高く(68.4%)、日本人は「わずかに感じる」が最も高い(33.3%)。また、日本人(1.36)がタイ人(0.38)よりも怒りの平均強度が高い($df=201, t=7.97, p<.05$)。

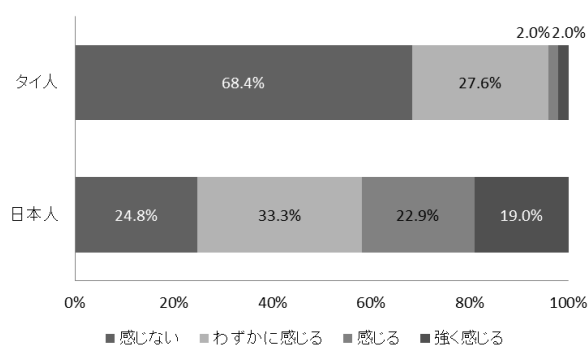


図 3-3-1 場面2の設問1の回答結果

設問2の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=109)=48.06, p<.01$)。タイ人は相手の言動を「相手が思い通りでない」と評価する率が最も高く(73.3%)、日本人は「個人的配慮の欠如」が最も高い(55.7%) (図3-3-2)。

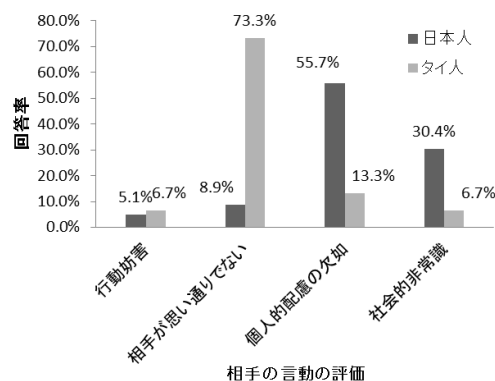


図 3-3-2 場面 2 の設問 2 の回答結果

設問 3 の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた (χ^2 (9, $N=106$)=34.31, $p<.01$) (図 3-3-3)。タイ人は「表出しない」の回答率が最も高く (54.8 %)、日本人は「冷静に話す」が最も高い (28.0 %)。

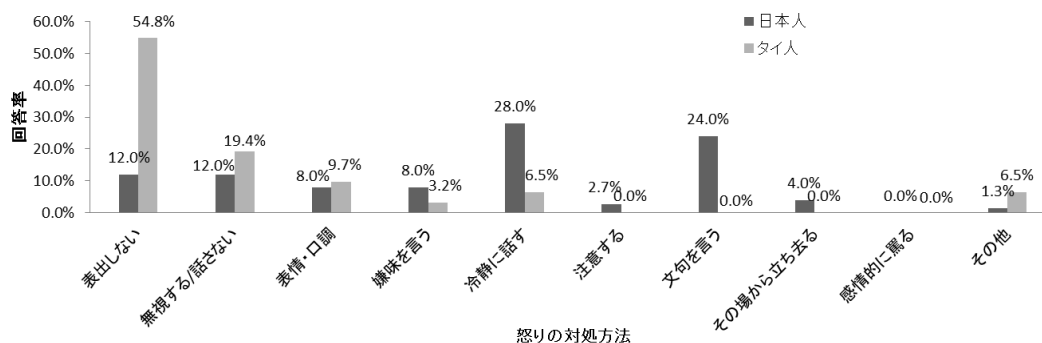


図 3-3-3 場面 2 の設問 3 の回答結果

設問 4 の怒りの対処方法の選択理由については、日タイで度数分布に有意差が認められた (χ^2 (9, $N=110$)=30.6, $p<.01$)。タイ人 (38.7 %) も日本人 (26.6 %) も「問題を起こしたくない」と回答する率が最も高かった (図 3-3-4)。

場面 2 の設問 3 で、タイ人は怒りの対処方法として「表出しない」の回答率が最も高く (54.8 %)、その理由は「問題を起こしたくない」が最も高い (41.2 %)。日本人は「冷

静に話す」が最も高く（28.0 %）、その理由は「自分の権利を主張したい」が最も高い（42.9 %）。

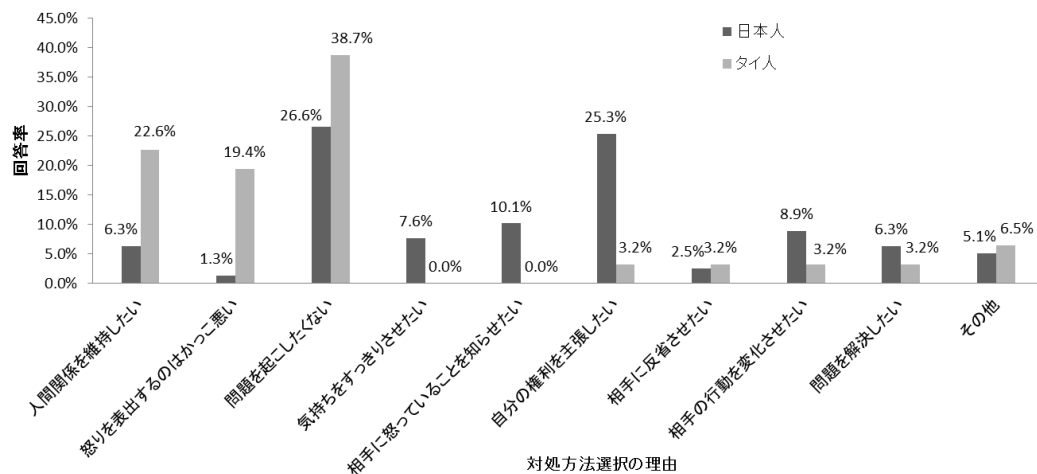


図 3-3-4 場面 2 の設問 4 の回答結果

場面 2 の分析の結果、すべての設問の回答の度数分布に日タイの有意差があり、怒りの誘因及び怒りの対処方法とも文化差があることが示唆された。

怒りの誘因については、先生が自分の成績を名前つきで公表するという行為への不満と、自分がやめてほしいと言ったことが聞き入れられなかったことへの不満の二面が考えられる。この場面での先生に言動に対する評価は、日本人が「個人的配慮の欠如」という回答が最も多いため、自分の成績を名前つきで公表することに対し怒りを感じていると考えられる。一方、タイ人は「相手が思い通りでない」が最も多いため、自分がやめてほしいと言ったことが聞き入れられなかったことに対する怒りであると考えられる。

怒りの対処方法についても、日本人は「自分の権利を主張する」ために先生と「冷静に話す」という対処方法をとるという回答が最も多かったのに対し、タイ人は「問題を起こしたくない」ために怒りを「表出しない」が最も多く、明白な日タイの文化差が認められた。

2.3 場面3の結果と考察

場面3「タクシーに乗っていたら、タクシーの運転手が天皇陛下（王様）の悪口を言った。」の設問1では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた（ $\chi^2(3, N=203)=110.21, p<.01$ ）。タイ人は怒りを「強く感じる」の回答率が最も高く（47.4%）、日本人は「感じない」が最も高い（61.0%）（図3-4-1）。また、タイ人（2.29）が日本人（0.58）よりも怒りの平均強度が高い（ $df=200, t=-14.63, p<.05$ ）。

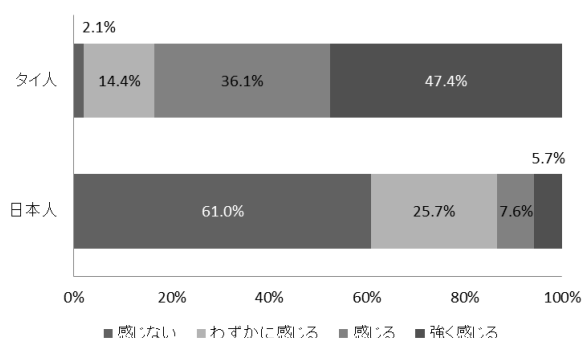


図 3-4-1 場面3の設問1の回答結果

設問2の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差は認められなかった（ $\chi^2(3, N=135)=8.97, ns$ ）。タイ人（80.5%）も日本人（71.3%）も相手の言動を「社会的非常識」と評価する率が最も高かった。

設問3の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差は認められなかった（ $\chi^2(9, N=129)=20.43, ns$ ）。タイ人（33.0%）は「無視する／話さない」の回答率が最も高く、日本人（40.0%）は「表出しない」が最も高い。

設問4の怒り対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた（ $\chi^2(9, N=135)=34.55, p<.01$ ）。タイ人（50.5%）も日本人（40.0%）も「問題を起こしたくない」の回答率が最も高かった（図3-4-2）。

場面3の設問3で、タイ人は怒りの対処方法として「無視する／話さない」の回答率が最も高く（33.0%）、その理由は「問題を起こしたくない」が最も高かった（80.6%）。

日本人は「表出しない」が最も高く（40.0 %）、その理由は「問題を起こしたくない」が最も高かった（64.3 %）。

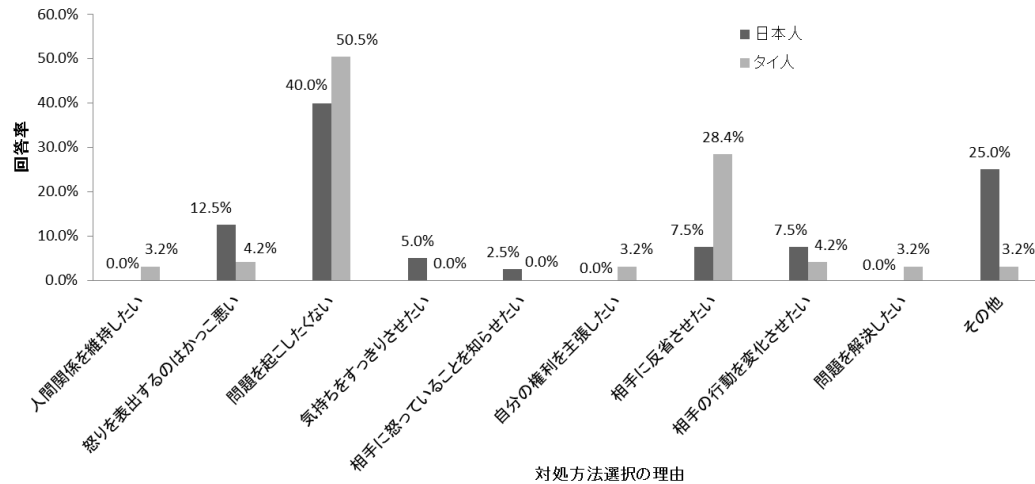


図 3-4-2 場面 3 の設問 4 の回答結果

場面 3 については、怒りの強度と怒りの対処方法選択の理由において日タイの文化差が認められた。特に怒りの強度については、タイ人が怒りを「最も強く感じる」が最多回答であり、15場面中タイ人の平均強度が最も高かったのに対し、日本人は怒りを「感じない」が最も多く、日タイの怒りの誘因における文化差が最も顕著に示された。

怒りの対処方法については、日タイとも「問題を起こしたくない」ため、日本人は「表出しない」、タイ人は「無視する／話さない」が最も多く、いずれも怒りの表出を抑制することが伺えたが、タイ人は「相手に反省させたい」ため「冷静に話す」という回答が 2 番目に多かった。

これは、日本とタイはともに立憲君主国でありながら、君主に対する日タイの認識が異なるため生じた差であると考えられる。

2.4 場面4の結果と考察

場面4「友達が自分の悪口を別の友達に吹き込んでいることを知った。」の設問1では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた（ $\chi^2(3, N=203)=14.87, p<.01$ ）。タイ人は怒りを「感じる」の回答率が最も高く（32.7%）、日本人は「強く感じる」が最も高い（40.0%）（図3-5-1）。また、日本人（2.04）がタイ人（1.50）よりも怒りの平均強度が高い（ $df=201, t=3.76, p<.05$ ）。

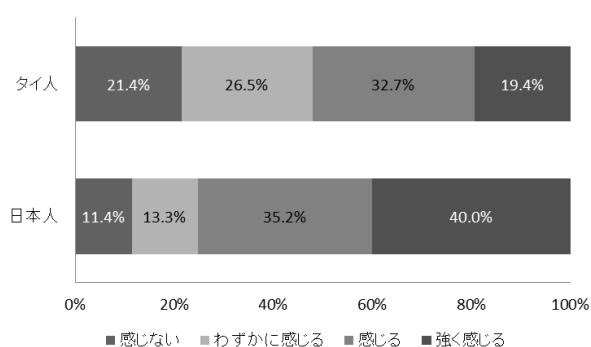


図 3-5-1 場面4の設問1の回答結果

設問2の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差は認められなかった（ $\chi^2(3, N=165)=12.75, ns$ ）。タイ人（67.5%）も日本人（59.1%）も相手の言動を「個人的配慮の欠如」と評価する率が最も高い。

設問3の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差が認められなかった（ $\chi^2(9, N=166)=11.89, ns$ ）。タイ人（31.2%）も日本人（30.3%）も「無視する／話さない」の回答率が最も高い。

設問4の怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた（ $\chi^2(9, N=169)=16.54, p<.01$ ）。タイ人（22.1%）も日本人（17.4%）も「問題を起こしたくない」の回答率が最も高い（図3-5-2）。

場面4の設問3で、タイ人は怒りの対処方法として「無視する／話さない」の回答率が最も高く（31.2％）、その理由は「問題を起こしたくない」が最も高い（37.5％）。日本人も「無視する／話さない」が最も高く（30.3％）、その理由は「相手に怒っていることを知らせたい」が最も高い（37.0％）。

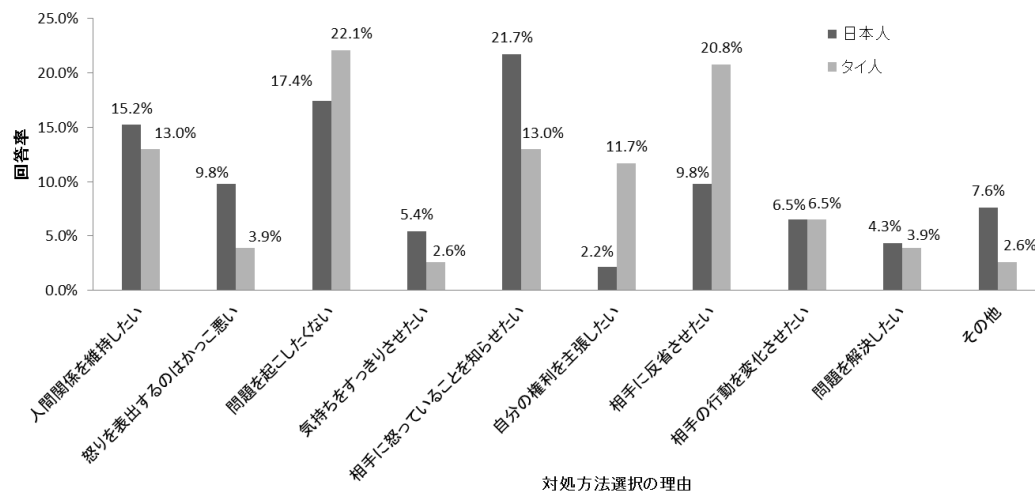


図 3-5-2 場面4の設問4の回答結果

場面4の分析の結果、日タイとも15場面中3番目に平均強度が高く、ともに強い怒りを喚起する誘因であることが示唆されたが、日本人の方がタイ人よりも怒りの平均強度が高かった。怒りの対処方法については、日タイとも「無視する／話さない」の回答率が最も高かったが、その対処方法選択の理由については、日本人は「相手に怒っていることを知らせたい」が最も多く、タイ人は「問題を起こしたくない」が最も多く（22.1％）、タイ人の方が問題回避の傾向が強いことが示すものと考えられる。

自分自身の悪口に対して強い怒りを感じるのは、日タイとも相手の言動を「個人的配慮の欠如」として評価していることから、いずれの文化も個人の尊厳を重視しており、その侵害によって強い怒りが喚起されることが伺われる。

2.5 場面5の結果と考察

場面5「あなたが毎日部活でスポーツをしていると、父親に勉強の方が大切だから部活はやめろと言われた。」の設問1では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた（ $\chi^2(3, N=203)=51.25, p<.01$ ）。タイ人は怒りを「わずかに感じる」の回答率が最も高く（51.0 %）、日本人は「感じる」が最も高い（41.9 %）（図3-6-1）。また、日本人（1.91）がタイ人（1.03）よりも怒りの平均強度が高い（ $df=201, t=7.07, p<.05$ ）。

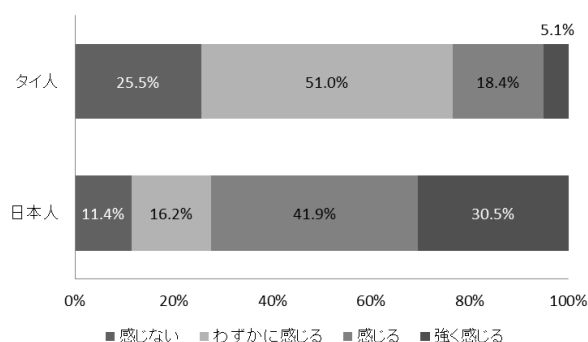


図 3-6-1 場面5の設問1の回答結果

設問2の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差は認められなかった（ $\chi^2(3, N=160)=14.01, ns$ ）。タイ人（57.5 %）も日本人（45.2 %）も相手の言動を「行動妨害」と評価する率が最も高い。

設問3の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた（ $\chi^2(9, N=164)=33.16, p<.01$ ）。タイ人（38.4 %）も日本人（45.1 %）も「冷静に話す」が最も高い（図3-6-2）。

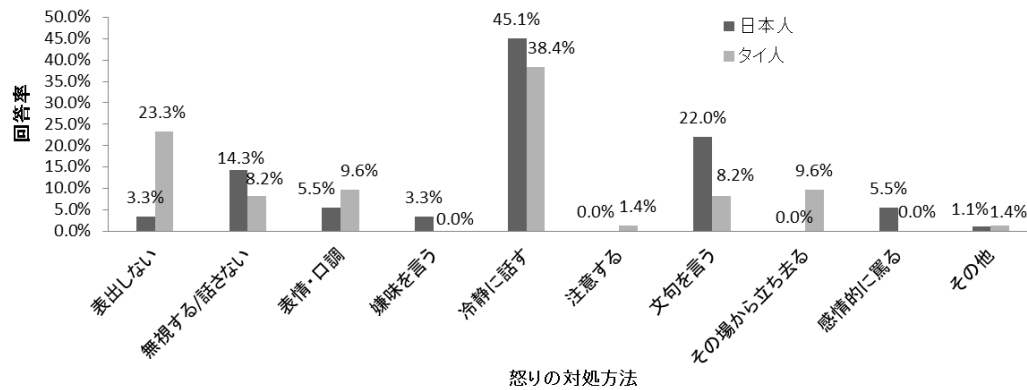


図 3-6-2 場面 5 の設問 3 の回答結果

設問 4 の対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(9, N=164)=37.71, p<.01$)。タイ人は「人間関係を維持したい」の回答率が最も高く (24.7%)、日本人は「自分の権利を主張したい」が最も高い (31.9%) (図 3-6-3)。

場面 5 の設問 3 で、タイ人は怒りの対処方法で「冷静に話す」の回答率が最も高く (38.4%)、その理由は「問題を解決したい」が最も高い (46.4%)。日本人も「冷静に話す」が最も高く (45.1%)、その理由は「自分の権利を主張したい」が最も高い (31.7%)。

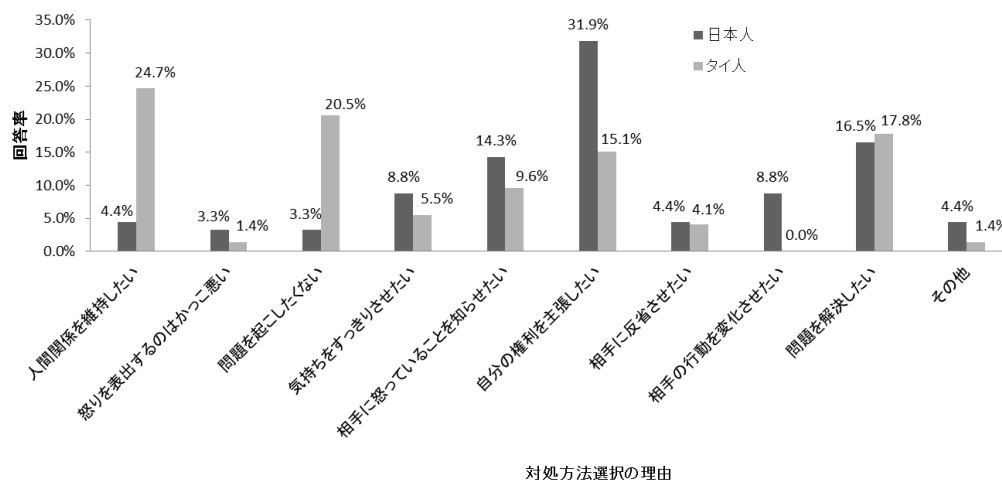


図 3-6-3 場面 5 の設問 4 の回答結果

場面 5 については、日本人の方がタイ人よりも怒りの平均強度が高かったが、父親の言動に対する評価は、日タイとも「行動妨害」が最も多く、日タイ間の有意差はなかった。

対処方法は、タイ人も日本人も「冷静に話す」が最も多かったが、2 番目に多い対処方法は、タイ人は「表出しない」だったのに対し、日本人は「文句を言う」であり、日本人の方がタイ人よりも怒りの表出が強いと考えられる。

また怒りの対処方法選択の理由が、日本人が「自分の権利を主張したい」が最も多かったのに対し、タイ人は「人間関係を維持したい」が最も多かった。これは、タイ人は怒りを父親に対して怒りを表出することが人間関係の維持に影響があるという認識を持っていることが伺える。タイ人は場面 2 の先生と同様、目上の者との関係に対する認識に日タイの文化差があるからではないかと考える。

2.6 場面 6 の結果と考察

場面 6 「友達と待ち合わせたら 30 分遅刻してきて謝らない。」の設問 1 では、怒りの強度の度数分布に日タイ間に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=203)=13.12, p<.01$)。タイ人は怒りを「わずかに感じる」の回答率が最も高く (44.9 %)、日本人も「わずかに感じる」が最も高い (34.3 %) (図 3-7-1)。また、日本人 (1.51) がタイ人 (1.02) よりも怒りの平均強度が高い ($df=201, t=3.63, p<.05$)。

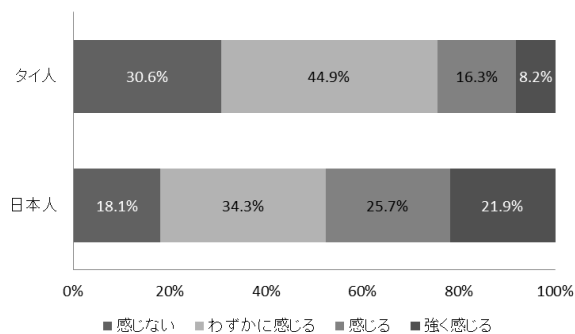


図 3-7-1 場面 6 の設問 1 の回答結果

設問 2 の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=154)=32.75, p<.01$)。タイ人は相手の言動を「相手が思い通りでない」と評価する率が最も高く (44.1%)、日本人は「社会的非常識」が最も高い (59.3%) (図 3-7-2)。

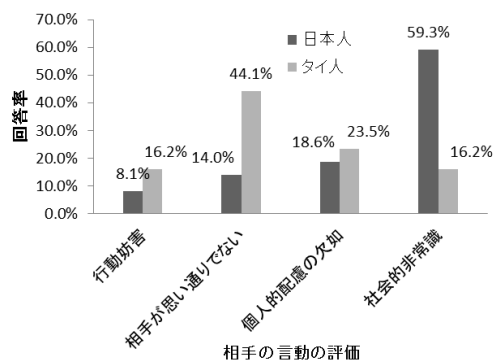


図 3-7-2 場面 6 の設問 2 の回答結果

設問 3 の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差は認められなかった ($\chi^2(9, N=148)=15.27, ns$)。タイ人は「文句を言う」の回答率が最も高く (33.8%)、日本人は「注意する」が最も高い (31.3%)。

設問 4 の怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差が認められなかった ($\chi^2(9, N=153)=16.65, ns$)。タイ人 (25.0 %) も日本人 (23.5 %) も「相手に反省させたい」の回答率が最も高い。

場面 6 の設問 3 で、タイ人は怒りの対処方法として「文句を言う」の回答率が最も高く (33.8 %)、その理由は「相手に反省させたい」が最も高い (47.8 %)。日本人は「注意する」が最も高く、その理由は「相手に反省させたい」が最も高い (50.0 %)。

場面 6 については、怒りの平均強度が日本人の方が高かった。また、相手の言動に対する評価について、日本人は「社会的非常識」が最も多かったのに対し、タイ人は「相手がいまいちでない」が最も多く、日タイで評価が異なった。怒りの対処方法及び怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間で有意差が認められなかった。

最も興味深いのは、相手の言動に対する評価における文化差である。日本人が、遅刻してきて謝らないという行為を、社会的非常識ととらえるのに対し、タイ人が相手にこうであってほしいという単なる個人的な期待の裏切りと評価している点である。この結果は、時間に対する日タイの感覚の違いを示すものであると考える。

2.7 場面 7 の結果と考察

場面 7 「授業で、友達とグループでレポートを作成することになったので、みんなで分担を決めたが、グループの一人が自分はできないからと言って、全く協力しようとしな

い。」の設問 1 では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=202)=12.14, p<.01$)。タイ人は怒りを「わずかに感じる」の回答率が最も高く (35.1 %)、日本人は「感じる」が最も高い (35.2 %) (図 3-8-1)。また、日本人 (1.97) がタイ人 (1.49) よりも怒りの平均強度が高い ($df=200, t=3.58, p<.05$)。

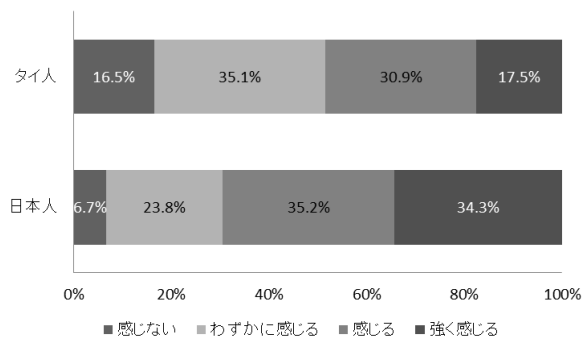


図 3-8-1 場面 7 の設問 1 の回答結果

設問 2 の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差は認められなかった ($\chi^2(3, N=177)=4.75, ns$)。タイ人 (69.6 %) も日本人 (61.2 %) も相手の言動を「社会的非常識」と評価する率が最も高い。

設問 3 の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差は認められなかった ($\chi^2(9, N=177)=16.67, ns$)。タイ人 (23.5 %) も日本人 (26.0 %) も「注意する」の回答率が最も高い。

設問 4 の怒り対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差が認められなかった ($\chi^2(9, N=177)=28.86, ns$)。タイ人は「相手の行動を変化させたい」の回答率が最も高く (39.2 %)、日本人は「相手に反省させたい」が最も高い (32.5 %)。

場面 7 の設問 3 で、タイ人は怒りの対処方法として「注意する」の回答率が最も高く (23.5 %)、その理由は「相手の行動を変化させたい」が最も高い (52.6 %)。日本人も「注意する」が最も高く (26.0 %)、その理由は「相手の行動を変化させたい」が最も高い (76.0 %)。

場面 7 については、怒りの平均強度については日本人の方がタイ人よりも高く、日タイ間の文化差が認められたが、相手の言動の評価、対処方法及び対処方法選択の理由について

ては有意差が認められなかった。この結果により、グループ内の協調性を重視するという集団意識については日タイで共通していると考えられる。

2.8 場面 8 の結果と考察

場面 8 「教室で同級生に自分の両親の悪口を言われた。」の設問 1 では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差は認められなかった ($\chi^2(3, N=203)=6.16, ns$)。タイ人 (62.9 %) も日本人 (47.6 %) も「強く感じる」が最も高い。怒りの平均強度は、タイ人は 2.36 で、日本人は 2.10 だった ($df=200, t=-1.79, ns$)。

設問 2 の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=180)=11.68, p<.01$)。タイ人 (79.3 %) も日本人 (55.9 %) も相手の言動を「個人的配慮の欠如」と評価する率が最も高い (図 3-9-1)。

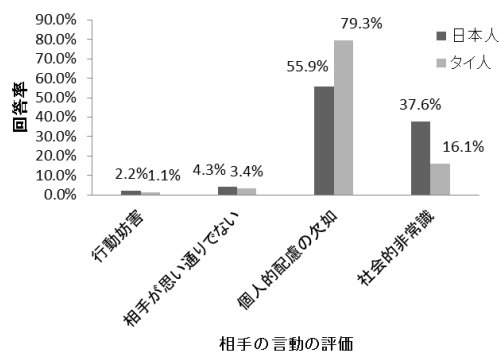


図 3-9-1 場面 8 の設問 2 の回答結果

設問 3 の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた

($\chi^2(9, N=180)=39.19, p>0.01$)。タイ人は「感情的に罵る」が最も高く(35.6%)、日本人は「表出しない」が最も高い(19.4%) (図3-9-2)。

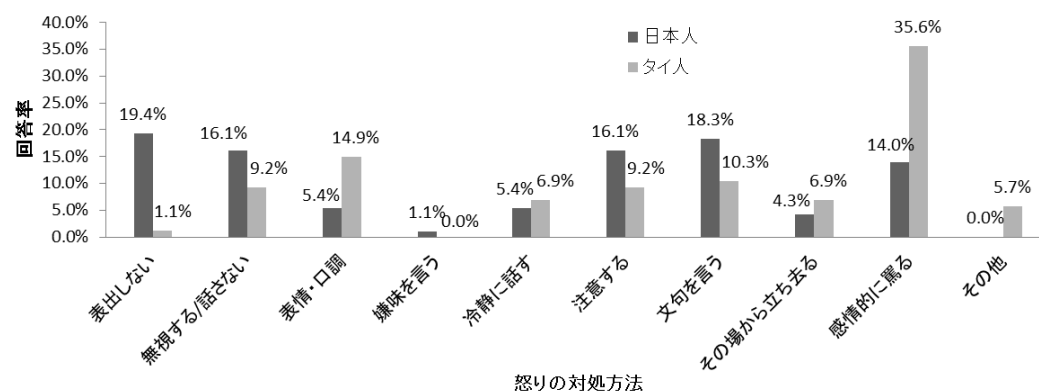


図 3-9-2 場面 8 の設問 3 の回答結果

設問 4 の怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた($\chi^2(9, N=180)=25.78, p<.01$)。タイ人は「相手に反省させたい」(27.6%)と「相手に怒っていることを知らせたい」(27.6%)の回答率が最も高く、日本人は「相手に反省させたい」が最も高い(28.0%) (図3-9-3)。

場面 8 の設問 3 で、タイ人は怒りの対処方法として「感情的に罵る」の回答率が最も高く(35.6%)、その理由は「相手に反省させたい」が最も高い(48.4%)。日本人は「表出しない」が最も高く(19.4%)、その理由は「人間関係を維持したい」が最も高い(50.0%)。

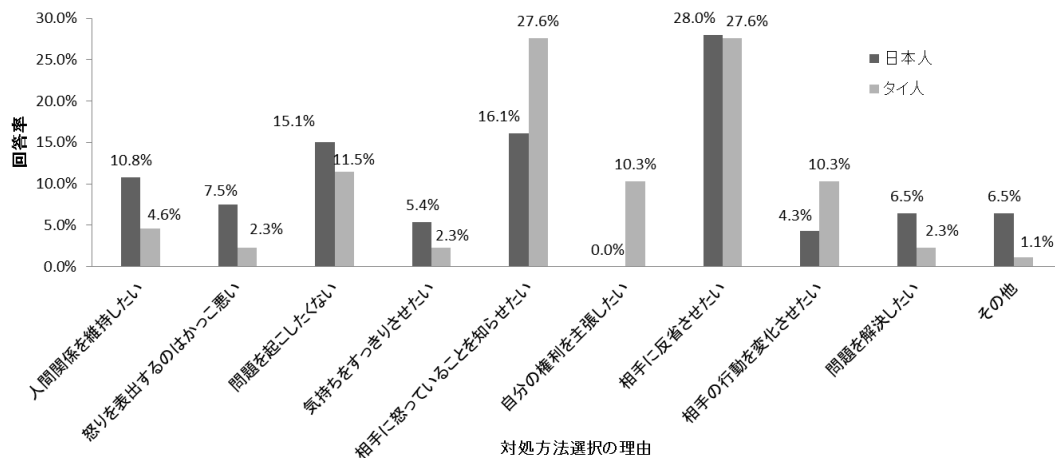


図 3-9-3 場面 8 の設問 4 の回答結果

場面 8 は、15場面中怒りの平均強度がタイ人にとっては 1 番目、日本人にとっては 2 番目に高いという結果となり、日タイ間で有意差は認められなかった。相手の言動に対する評価についても、日タイとも最多回答は「個人的配慮の欠如」となった。

しかし対処方法については、日タイで大きく異なる結果となった。日本人が「人間関係を維持したい」ため「表出しない」が最も多かった（タイ人 1.1 %、日本人 19.4 %）のに対し、タイ人は「相手に反省させたい」ため「感情的に罵る」が最も多いという結果になった（タイ人 35.6 %、日本人 14.0 %）。

日タイとも両親の悪口を言われたことに対する怒りは非常に強いにも関わらず、日本人は表出を抑制する傾向が強いのに対し、タイ人は強く怒りを表出する傾向があることが示された。日タイとも両親を大切にしているという点では共通しているが、タイ人は両親への侮辱に対しては怒りを強く表出すべきであると考えているのではないかと考える。

2.9 場面 9 の結果と考察

場面 9 「明日までに提出しなければいけない宿題を一生懸命していたら、母親が話しかけてきた。無視して宿題を続けていたが、ずっと話をやめようとしないう。」の設問 1 では、

日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=203)=36.84, p<.01$)。タイ人は怒りを「感じない」の回答率が最も高く (64.3%)、日本人は「わずかに感じる」が最も高い (39.0%) (図 3-10-1)。また、日本人 1.18 がタイ人 0.43 よりも怒りの平均強度が高い ($df=201, t=6.62, p<.05$)。

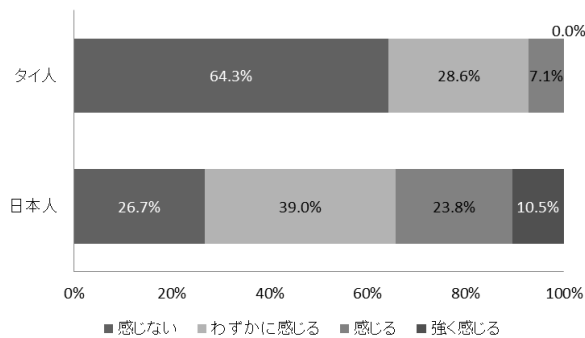


図3-10-1 場面9の設問1の回答結果

設問2の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=110)=11.88, p<.01$) (図 3-10-2)。タイ人 (60.0%) も日本人 (57.1%) も相手の言動を「行動妨害」と評価する率が最も高い。

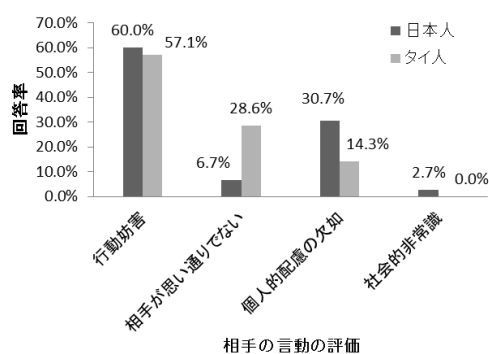


図3-10-2 場面9の設問2の回答結果

設問3の怒りの対処方法については、日タイ間で有意差は認められなかった（ $\chi^2(9, N=112)=14.48$, ns）。タイ人は「表出しない」の回答率が最も高く（25.7%）、日本人は「文句を言う」が最も高い（26.0%）。

設問4の怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間で有意差が認められた（ $\chi^2(9, N=112)=15.03$, $p<.01$ ）。タイ人は「問題を起こしたくない」の回答率が最も高く（31.4%）、日本人は「相手に怒っていることを知らせたい」（23.4%）と「相手の行動を変化させたい」（23.4%）が最も高い（図3-10-3）。

場面9の設問3で、タイ人は怒りの対処方法として「表出しない」の回答率が最も高く（25.7%）、その理由は「問題を起こしたくない」が最も高い（44.4%）。日本人は「文句を言う」が最も高く（26.0%）が、その理由は「相手の行動を変化させたい」が最も高い（50.0%）。

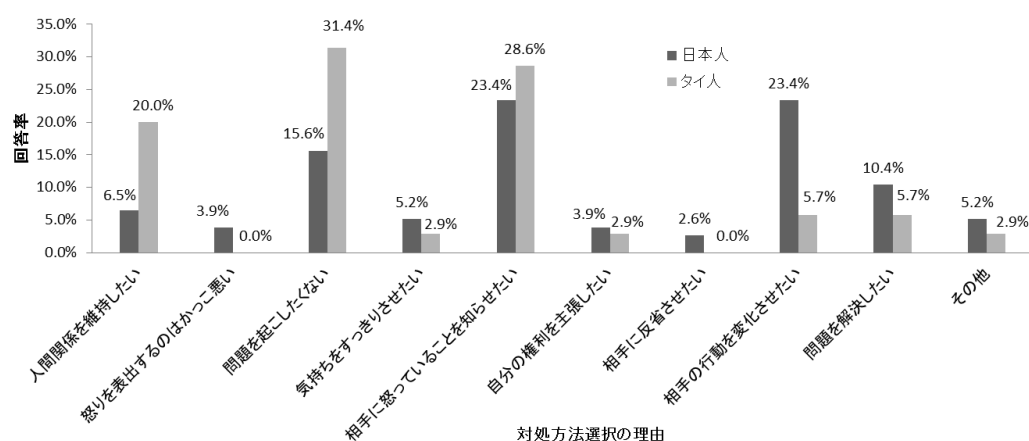


図3-10-3 場面9の設問4の回答結果

場面9では、タイ人は怒りをほとんど感じなかったため、日本人の方がタイ人よりも平均強度が高くなった。日タイとも相手の言動を「行動妨害」と評価することがわかった。怒りの対処方法については、タイ人は「人間関係を維持したい」ため「表出しない」が最も多かったが、日本人は「相手の行動を変化させたい」ため「文句を言う」が最も多かった。

タイ人が母親に対して怒りを感じず、自分の不満や怒りを表出しないのは、タイ人の母親に対する従順さを示しているとも考えられる。一方、日本人の方が母親に対する自己主張が強いといえる。場面5の父親に部活を禁止された状況と同様、日タイの親子関係に対する認識の違いを示しているのではないかと考察する。

2.10 場面10の結果と考察

場面10「父親が足を痛めたので、病院に行くのに車で送ってあげようと言っても、自分でバスに乗って行くからいいと言ってきかない。」の設問1では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=203)=48.56, p<.01$)。タイ人は怒りを「わずかに感じる」の回答率が最も高く (39.8%)、日本人は「感じない」が最も高い (69.5%) (図 3-11-1)。また、タイ人 (1.27) が日本人 (0.39) よりも怒りの平均強度が高い ($df=201, t=-7.51, p<.05$)。

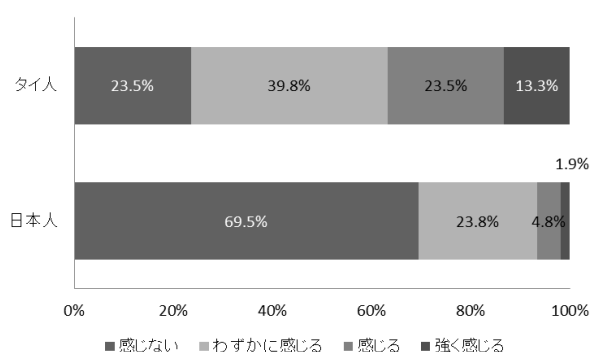


図3-11-1 場面10の設問1の回答結果

設問2の相手の言動に対する評価については、日タイ間で有意差が認められた ($\chi^2(3, N=107)=11.85, p<.01$)。タイ人 (66.7%) も日本人 (65.6%) も相手の言動を「相手が思い通りでない」と評価する率が最も高い (図 3-11-2)。

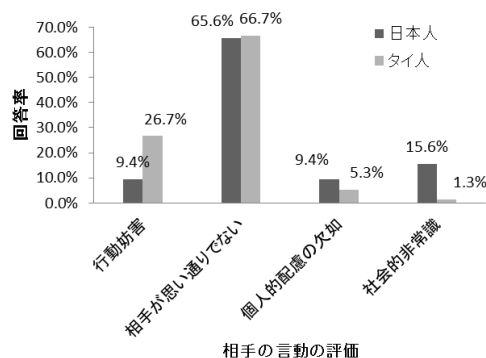


図3-11-2 場面10の設問2の回答結果

設問3の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差が認められなかった ($\chi^2(9, N=107)=15.79, ns$)。タイ人は「冷静に話す」が最も高く (42.7%)、日本人は「表出しない」が最も高い (34.4%)。

設問4の怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差が認められなかった ($\chi^2(9, N=107)=21.67, ns$)。タイ人 (28.0%) も日本人 (28.1%) も「相手の行動を変化させたい」の回答率が最も高い。

場面10の設問3で、タイ人は怒りの対処方法として「冷静に話す」の回答率が最も高く (42.7%)、その理由は「相手の行動を変化させたい」 (31.3%) と「問題を解決したい」 (31.3%) が最も高い。日本人は「表出しない」が最も高く (34.4%)、その理由は「問題を起こしたくない」が最も高い (45.5%)。

場面10は、場面3、場面14とならんで、タイ人の方が日本人よりも怒りの平均強度が高い場面の1つであった。対処方法についても、タイ人は「相手の行動を変化させたい」あるいは「問題を解決したい」ため「冷静に話す」が最も多く、日本人は「問題を起こしたくない」ため「表出しない」となり、日本人よりもタイ人の方が父親の言動に対してより強く怒りを感じるだけでなく、何とか自分が病院へ送ってあげることができるよう、父親に対して能動的に働きかけようとする傾向があることが伺える。これは、タイ人の報恩的

関係志向の価値観（Komin, 1990）と関連し、自分を育ててくれた両親の世話をするのは子供の義務であるという考え（Cooper & Cooper, 1996）によるものではないかと考える。

2.11 場面11の結果と考察

場面11「バイト先で、上司は仲のいい人には仕事を頼まない。他のアルバイトの人は同じ給料をもらって暇そうにしているのに、自分は上司からたくさん仕事を頼まれる。」の設問1では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた（ $\chi^2(3, N=203)=22.24, p<.01$ ）。タイ人は怒りを「感じる」の回答率が最も高く（38.1%）、日本人は「強く感じる」が最も高い（41.0%）（図3-12-1）。また、タイ人（1.27）が日本人（0.39）よりも怒りの平均強度が高い（ $df=200, t=4.58, p<.05$ ）。

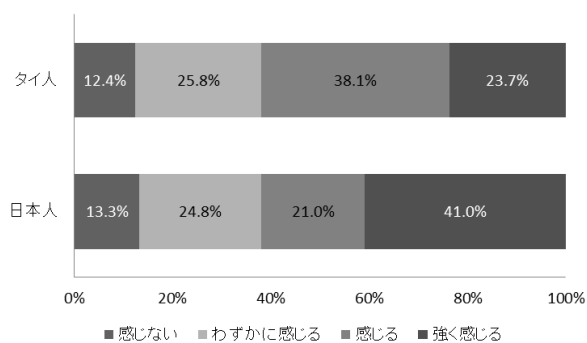


図3-12-1 場面11の設問1の回答結果

設問2の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた（ $\chi^2(3, N=161)=29.95, p<.01$ ）。タイ人は相手の言動を「相手が思い通りでない」と評価する率が最も高く（39.4%）、日本人は「社会的非常識」が最も高い（57.8%）。（図3-12-2）。

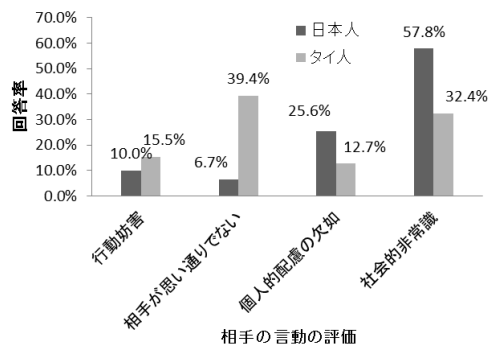


図3-12-2 場面11の設問2の回答結果

設問3の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差が認められなかった ($\chi^2(9, N=156)=18.73, ns$)。タイ人 (47.2%) も日本人 (35.7%) も「表出しない」が最も高い。

設問4の怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差が認められなかった ($\chi^2(9, N=162)=19.04, ns$)。タイ人 (25.0%) も日本人 (31.1%) も「問題を起こしたくない」の回答率が最も高い。

場面11の設問3で、タイ人は怒りの対処方法として「表出しない」の回答率が最も高く (47.2%)、その理由は「怒りを表出するのはかっこ悪い」が最も高い (35.3%)。日本人も「表出しない」が最も高く (35.7%) が、その理由は「人間関係を維持したい」が最も高い (50.0%)。

場面11については、日本人の方が怒りの強度が高いにも関わらず怒りを表出しないことから、場面8と同様、日本人の方がタイ人よりも感情を抑制する傾向があることと、場面6と同様、上司が部下を差別するという行為について、日本人が社会的非常識ととらえるのに対し、タイ人は相手に対する個人的な期待への裏切りと評価していることに日タイの認識の差異が見いだされた。

2.12 場面12の結果と考察

場面12「アルバイト先で新しく入った後輩に、仕事中は携帯電話の電源を切るように言ったが、何度言っても電源を切らない。」の設問1では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=203)=25.15, p<.01$)。タイ人は怒りを「わずかに感じる」の回答率が最も高く (36.7%)、日本人は「感じる」が最も高い (46.7%) (図 3-13-1)。また、日本人 (1.76) がタイ人 (1.12) よりも怒りの平均強度が高い ($df=201, t=5.08, p<.05$)。

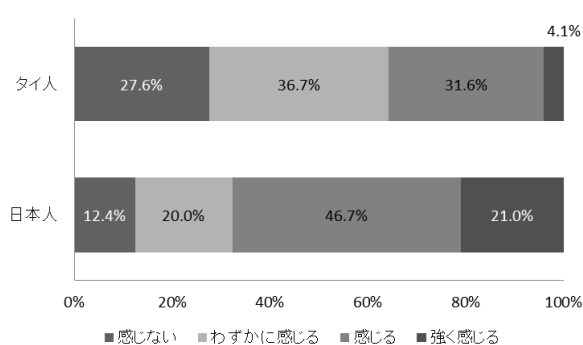


図3-13-1 場面12の設問1の回答結果

設問2の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=163)=25.34, p<.01$)。タイ人 (43.7%) も日本人 (67.4%) も相手の言動を「社会的非常識」と評価する率が最も高い (図 3-13-2)。

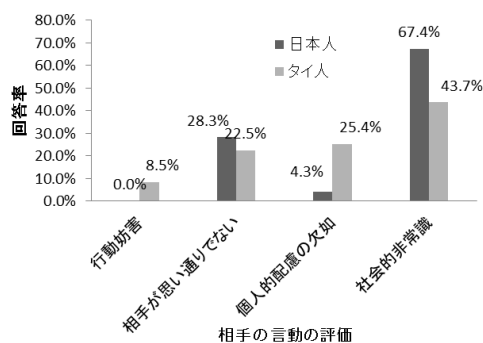


図3-13-2 場面12の設問2の回答結果

設問3の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差が認められなかった ($\chi^2(9, N=163)=10.80, ns$)。タイ人 (52.1%) も日本人 (58.7%) も「注意する」の回答率が最も高い。

設問4の怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差が認められなかった ($\chi^2(9, N=163)=6.56, ns$)。タイ人 (36.6%) も日本人 (40.2%) も「相手の行動を変化させたい」の回答率が最も高い。

場面12の設問3で、タイ人は怒りの対処方法として「注意する」の回答率が最も高く (52.1%)、その理由は「相手の行動を変化させたい」が最も高い (56.8%)。日本人も「注意する」が最も高く (58.7%)、その理由は「相手の行動を変化させたい」が最も高い (63.0%)。

場面12については、日本人の方が怒りの平均強度が高かったが、相手の言動に対する評価、怒り対処方法、及び対処方法選択の理由について差異はなく、業務中に職場のルールを守るべきである、後輩に対して注意すべきであるといった意識は日タイ共通であることがうかがえる。

2.13 場面13の結果と考察

場面13「スーパーにシャンプーを買いに行ったら、ちょうど値引き中の札がついていた。キャッシャーでお金を払おうとしたら、いつもと同じ値段だった。店員に文句を言ったら、値札が間違っていると言われた。」の設問1では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差は認められなかった ($\chi^2(3, N=202)=8.39, ns$)。タイ人は「わずかに感じる」が最も高く (39.2%)、日本人は「感じない」が最も高い (42.9%)。怒りの平均強度は、タイ人は0.93で、日本人は1.02だった ($df=200, t=5.68, ns$)。

設問2の相手の言動に対する評価については、日タイ間で有意差が認められた ($\chi^2(3, N=121)=30.54, p<.01$)。タイ人は相手の言動を「相手が思い通りでない」と評価する率が最も高く (71.0%)、日本人は「社会的非常識」が最も高い (42.4%) (図 3-14-1)。

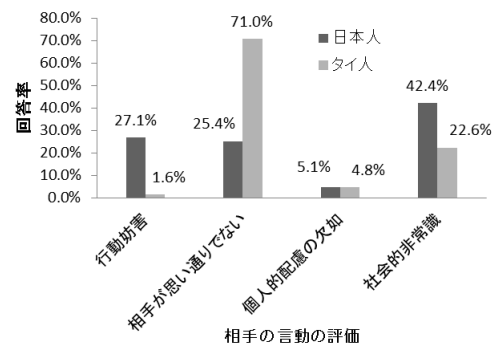


図3-14-1 場面13の設問2の回答結果

設問3の怒りの対処方法については、日タイ間で有意差が認められなかった ($\chi^2(9, N=117)=17.69, ns$)。タイ人 (37.1%) も日本人 (27.3%) も「文句を言う」の回答率が最も高い。

設問4の怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間で有意差が認められなかった ($\chi^2(9, N=121)=30.94, ns$)。タイ人は「自分の権利を主張したい」の回答率が最も高く (41.9%)、日本人は「怒りを表出するのはかっこ悪い」が最も高い (23.7%)。

場面13の設問3で、タイ人は怒りの対処方法として「文句を言う」の回答率が最も高く (37.1%)、その理由は「自分の権利を主張したい」が最も高い (69.6%)。日本人も「文句を言う」が最も高かった (27.3%) が、その理由は「相手に反省させたい」が最も高い (33.3%)。

場面13では、相手の言動に対する評価では日タイ間で有意差があったが、怒りの強度、対処方法、対処方法選択の理由では有意差がなかった。場面6、場面11と同様、相手の言動に対する評価が日本人は「社会的非常識」が最も多かったのに対し、タイ人は「相手が思い通りでない」が最も多く、社会的常識に対する認識の違いがここでも伺えた。

2.14 場面14の結果と考察

場面14「後輩にやさしく注意したら不満気な態度だった。」の設問1では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=203)=20.74, p<.01$)。タイ人は怒りを「わずかに感じる」の回答率が最も高く (50.0%)、日本人も「わずかに感じる」

が最も高い（41.9 %）（図 3-15-1）。また、タイ人（1.42）が日本人（0.97）よりも怒りの平均強度が高い（ $df=201$, $t=-3.52$, $p<.05$ ）。

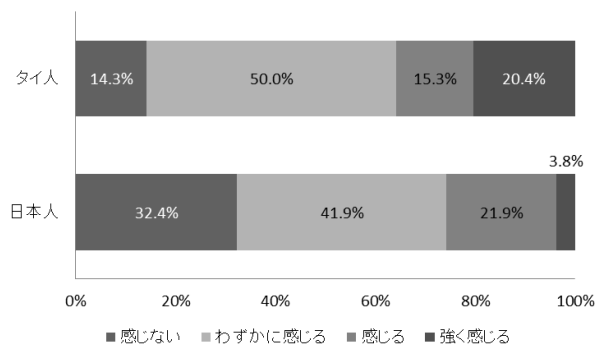


図3-15-1 場面14の設問1の回答結果

設問2の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた（ $\chi^2(3, N=154)=51.47$, $p<.01$ ）。タイ人は相手の言動を「個人的配慮の欠如」と評価する率が最も高く（76.2 %）、日本人は「相手が思い通りでない」が最も高い（52.9 %）（図 3-15-2）。

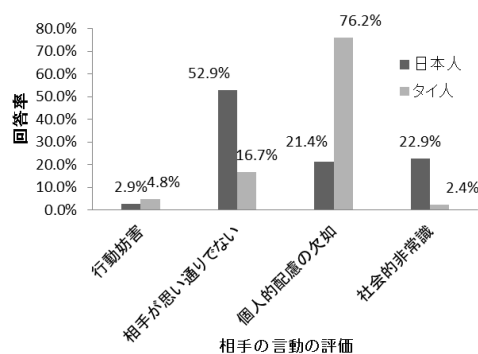


図3-15-2 場面14の設問2の回答結果

設問3の怒りの対処方法については、日タイ間で有意差が認められた（ $\chi^2(9, N=150)=51.64$, $p<.01$ ）。タイ人は「注意する」の回答率が最も高く（48.8 %）、日本人は「表出しない」が最も高い（40.9 %）（図 3-15-3）。

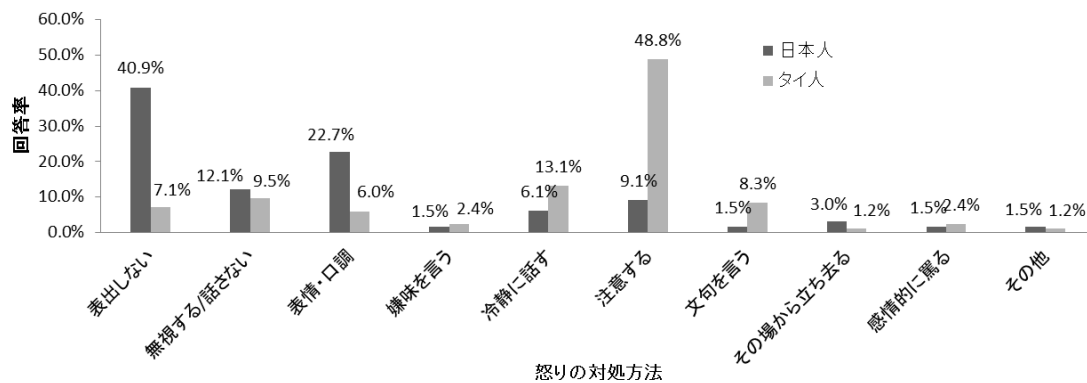


図 3-15-3 場面14の設問 3 の回答結果

設問 4 の怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(9, N=154)=37.31, p<.01$)。タイ人は「相手に反省させたい」の回答率が最も高く (28.4%)、日本人は「人間関係を維持したい」が最も高い (34.3%) (図 3-15-4)。

場面14の設問 3 で、タイ人は怒りの対処方法として「注意する」の回答率が最も高く (48.8%)、その理由は「相手に反省させたい」 (41.5%) と「相手の行動を変化させたい」 (41.5%) が最も高い。日本人は「表出しない」が最も高く (40.9%)、その理由は「人間関係を維持したい」が最も高い (59.3%)。

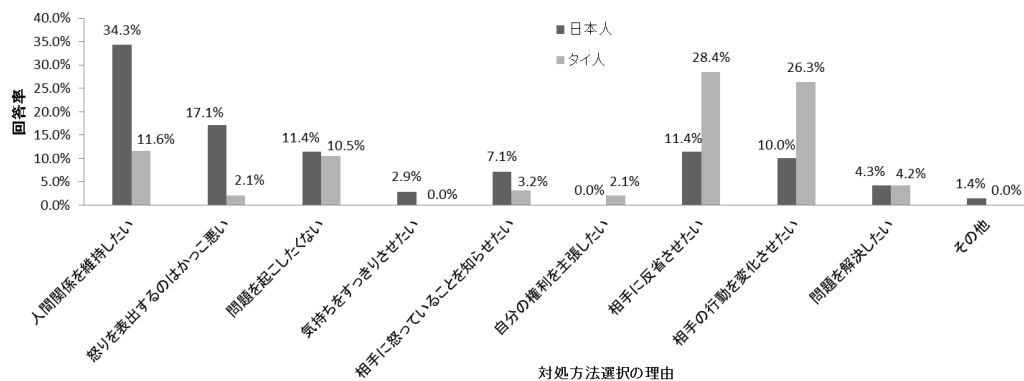


図 13-15-4 場面14の設問 4 の回答結果

場面14については、すべての設問に有意差が見られた。怒りの強度については、場面 3、場面10と並んで、タイ人の怒りの平均強度が日本人よりも高かった。また、相手の言動に対する評価については、タイ人は「個人的配慮の欠如」が最も多かったが、日本人は「相

手が思い通りでない」が最も多かった。また、対処方法についても、タイ人は「相手に反省させたい」あるいは「相手の行動を変化させたい」ために「注意する」が最も多かったが、日本人は「人間関係を維持したい」ために「表出しない」が多かった。

これは、上下関係に対する日タイの認識の違いを示すのではないかと考える。タイ人は研究2の面接調査の結果にもあったように、目下の者からの上下関係の侵害について、強度の怒りを感じる事が多く報告されていた。相手よりも自分の方が目上であるということは、タイ人にとっては重要な個人的尊厳の意識につながっているのではないだろうか。日本の社会も上下社会だといわれているが、タイにおいては日本以上に上下関係や権力格差が重視されているのではないかと推察する。そのため、上下関係の侵害と思われる行動に対する評価に、日タイの文化差が表れたのではないかと考える。

2.15 場面15の結果と考察

場面15「買い物に行って会計の列に並んでいたら、年配の女性が割り込んできた。」の設問1では、日タイ間で怒りの強度の度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(3, N=203)=55.87, p<.01$)。タイ人は怒りを「わずかに感じる」の回答率が最も高く (49.0%)、日本人は「感じる」 (39.0%) と「強く感じる」 (39.0%) が最も高い (図 3-16-1)。また、日本人 (2.12) がタイ人 (1.11) よりも怒りの平均強度が高かった ($df=199, t=8.43, p<.05$)。

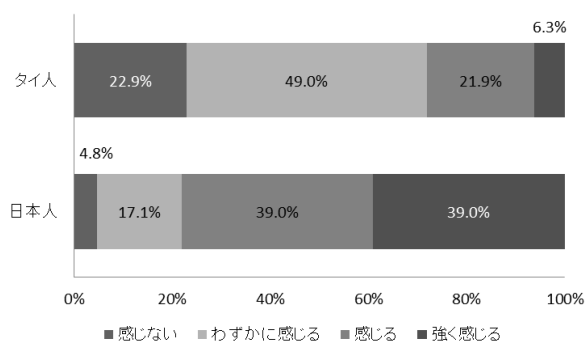


図3-16-1 場面15の設問1の回答結果

設問 2 の相手の言動に対する評価については、日タイ間で度数分布に有意差は認められなかった ($\chi^2(3, N=172)=6.42, ns$)。タイ人 (79.7 %) も日本人 (78.6 %) も相手の言動を「社会的非常識」と評価する率が最も高い。

設問 3 の怒りの対処方法については、日タイ間で度数分布に有意差が認められなかった ($\chi^2(9, N=168)=21.67, ns$)。タイ人 (23.0 %) も日本人 (33.0 %) も怒りを「表出しない」の回答率が最も高い。

設問 4 の怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間で度数分布に有意差が認められた ($\chi^2(9, N=173)=26.32, p<.01$)。タイ人は「問題を起こしたくない」(24.3 %)と「相手に反省させたい」(24.3 %)の回答率が最も高く、日本人は「問題を起こしたくない」が最も高い (35.4 %) (図 3-16-2)。

場面15の設問 3 で、タイ人は怒りの対処方法として「表出しない」の回答率が最も高く (23.0 %)、その理由は「問題を起こしたくない」が最も高い (64.7 %)。日本人も「表出しない」が最も高く (33.0 %)、その理由は「問題を起こしたくない」が最も高い (61.5 %)。

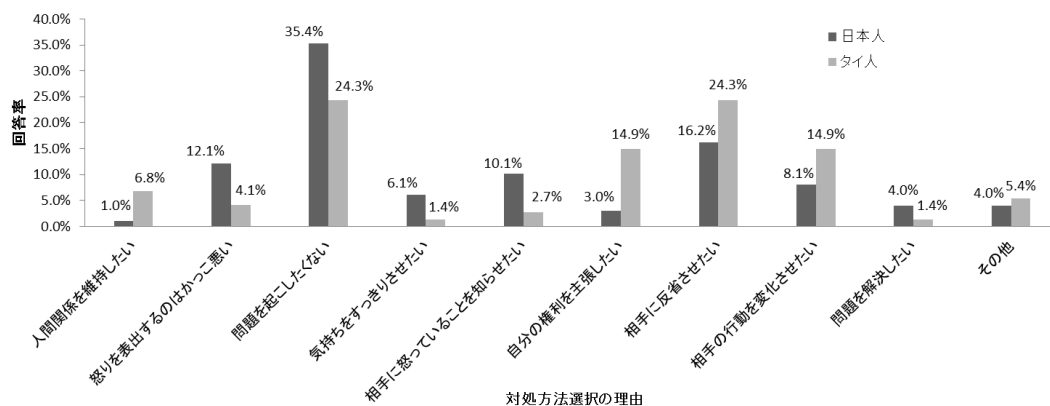


図 3-16-2 場面15の設問 4 の回答結果

場面15については、日本人の怒りの平均強度が15場面中最も高く、タイ人の平均強度との差が大きかった (日本人 2.12、タイ人 1.11)。しかしながら、相手の言動に対する評価、怒りの対処方法、及び怒りの対処方法選択の理由については、日タイ間の差異はほとんど見られなかった。

列の割込みに対して、日本人の怒りが最も高いということは、日本人が社会マナーを守
ることをいかに重視しているのかを示すものであり、社会マナーに対する認識のタイ人との
差を示すものであると考える。

第3項 設問ごとの結果と考察

3.1 設問1の結果まとめ

検証の結果、日タイ間の有意差がなかったのは場面8と場面13であり、その他の13場面
で有意差が見られた。平均強度は場面3、場面8、場面10、場面14はタイ人の方が高かつ
たが、その他の11場面は日本人の方が高かった。表3-3は怒りの平均強度の高い順を国籍
別にまとめたものである。

表3-3 怒りの平均強度が高い順

タイ人				日本人			
場面	相手の言動	相手の立場	平均強度	場面	相手の言動	相手	平均強度
8	両親の悪口	同級生	2.36	15	列の割り込み	年配女性	2.12
3	天皇陛下の悪口	運転手	2.29	8	両親の悪口	同級生	2.10
4	自分の悪口	友達	1.50	4	自分の悪口	友達	2.04
7	グループワーク非協力	友達	1.49	7	グループワーク非協力	友達	1.97
14	注意したら不満げな態度	後輩	1.42	5	部活の禁止	父親	1.91
10	病院に送らせない	父親	1.27	11	自分だけ仕事を頼まれる	上司	1.90
11	自分だけ仕事を頼まれる	上司	1.23	12	何度注意してもきかない	後輩	1.76
12	何度注意してもきかない	後輩	1.12	1	親友との関係を詮索	同級生	1.55
15	列の割り込み	年配女性	1.11	6	遅刻しても謝らない	友達	1.51
5	部活の禁止	父親	1.03	2	成績の公表をやめない	先生	1.36
6	遅刻しても謝らない	友達	1.02	9	宿題中に話しかける	母親	1.18
13	値札が間違っている	店員	0.93	13	値札が間違っている	店員	1.02
1	親友との関係を詮索	同級生	0.89	14	注意したら不満げな態度	後輩	0.97
9	宿題中に話しかける	母親	0.43	3	天皇陛下の悪口	運転手	0.58
2	成績の公表をやめない	先生	0.38	10	病院に送らせない	父親	0.39

全体を通して、怒りの平均強度が日本人の方がよりも高く、15場面中10場面で日本人の
方が有意にタイ人よりも平均強度が高かった。しかし、場面3、場面10、場面14の3場面
では、タイ人が日本人よりも強く怒りを感じており、この3場面がタイ人の怒りの誘因に
おける文化的特徴を示す場面であると考えられる。

タイ人が最も強く怒りを感じた場面は、上位から順に、場面8「教室で同級生に自分の
両親の悪口を言われた。」、場面3「タクシーに乗っていたら、タクシーの運転手が天皇

陛下（王様）の悪口を言った。」、場面4「友達が自分の悪口を別の友達に吹き込んでいることを知った。」であった。日本人は上位3場面が順に、場面15「買い物に行って会計の列に並んでいたら、年配の女性が割り込んできた。」、場面8「教室で同級生に自分の両親の悪口を言われた。」、場面4「友達が自分の悪口を別の友達に吹き込んでいることを知った。」であった。日本人もタイ人も場面8と場面4で強く怒りを感じており、その点では共通していた。しかし、場面3はタイ人では2位であるのに対して日本人は14位であり、日タイ間で大きな違いがあった。また、場面15は日本人では1位であったのに対し、タイ人では9位という結果となった。この2場面の結果の違いは怒りの誘因における日タイの文化差を明白に示していると考えられる。

また、場面10「父親が足を痛めたので、病院に行くのに車で送ってあげようと言っても、自分でバスに乗って行くからいいと言ってきかない。」では、日本人の69.5%が怒りを「感じない」と回答したが、タイ人は「わずかに感じる」の回答率が39.8%で最も高く、「強く感じる」の回答率も13.3%あった（日本人は1.9%）。場面14「後輩にやさしく注意したら不満気な態度だった。」は、日本人の41.9%が怒りを「わずかに感じる」と回答し、怒りの平均強度が0.97だったのに対し、タイ人は50.0%が「わずかに感じる」と回答し、平均強度は1.42だった。

3.2 設問2の結果まとめ

検証の結果、15場面中5場面で日タイ間の有意差がなく、その他の10場面で有意差が見られ、特に場面2、場面6、場面11、場面13、場面14の5場面で最も回答率の高い評価が日タイで一致しなかった。日タイの評価が一致しなかった5場面のうち、場面2、場面6、場面11、場面13の4場面で、タイ人は「相手が期待通りでない」と判断する率が最も高かったが、日本人は「社会的非常識」と判断する率が最も高かったが、場面14「後輩にやさしく注意したら不満気な態度だった」のみ、日本人は後輩の言動を「期待通りでない」と評価する率が最も高い（52.9%）のに対し、タイ人は「個人的配慮の欠如」と評価する率が最も高い（76.2%）という結果になった。

同じ場面で同じ誘因に対して怒りを感じた場合に、怒りを感じさせた相手の言動を日本人が「社会的常識」と評価し、タイ人が「相手が期待通りでない」と評価する場面では、

これは日本人が社会的常識や社会ルールを重視し、その言動は修正されるべきものであると考えるのに対し、タイ人は相手の言動があくまで個人意思によるものであり強制されるものではないと考えているのではないかと考える。つまり、日本では社会的行動に対する強制力が強く、常識的と考える行為の違反に対する怒りも強いのではないだろうか。

一方、タイでは個人の意思を主体に相手の言動を評価するのは、研究2でも考察した通りタイ人がエゴ志向が強く (Komin, 1990)、相手のエゴを尊重するクレンチャイの気持ちが強いからではないかと考える。

3.3 設問3の結果まとめ

検証の結果、日タイ間の有意差があったのは場面2と場面5と場面8と場面14であり、その他の11場面では有意差がなかった。この結果は、日タイの怒りの対処方法に共通点が多いことを示すと考える。一方、有意差があった4場面は、日本とタイの怒りの対処方法示す例であると考えられる。有意差のあった場面を以下にまとめる。カッコ内にタイ人、日本人のそれぞれで最も比率の高い対処方法を記す。対処方法が同じ場合は比率も示す。

場面2：先生が全員の試験の成績を名前つきで公表するので、自分の成績が悪いと他の人にばれてしまう。先生に名前を公表しないでほしいと言ったが変えてくれない。（表出しない：冷静に話す）

場面5：あなたが毎日部活でスポーツをしていると、父親に勉強の方が大切だから部活はやめろと言われた。（冷静に話す38.4%：冷静に話す45.1%）

場面8：教室で同級生に自分の両親の悪口を言われた。（感情的に罵る：表出しない）

場面14：後輩にやさしく注意したら不満気な態度だった。（注意する：表出しない）

このように、相手の言動に対して怒りを感じた場合の対処方法は、日タイ間で共通点もあれば相違点もある。各場面の結果を見てもわかる通り、怒りの誘因や相手との関係性によって変化するものであり、日タイの価値観や社会規範を反映していると考えられる。

4.4 設問4の結果まとめ

検証の結果、日タイ間の有意差があったのは場面2、場面3、場面5、場面7、場面8、場面14及び場面15の7場面であり、その他の8場面では有意差がなかった。また、場面1、場面4、場面5、場面7、場面11、場面12、場面13及び場面15の8場面で、最も回答率の高い対処方法がタイ人と日本人で一致したが、その選択理由については、場面7、場面12及び場面15の3場面でのみ日タイで一致し、他の5場面で異なるという結果となった。

この結果から、日タイの対処方法の選択理由には共通点が多いが、同じ対処方法を選択する場合であっても、その理由に差異がある場合もあるということが示唆された。

第4項 日タイの文化差のまとめ

15場面の結果を、怒りの誘因及び対処方法における日タイの文化差の有無を基準として、以下の4区分に分類した（表3-4）。

- ①怒りの誘因（設問1、設問2）及び対処方法（設問3、設問4）とも文化差がある。
- ②怒りの誘因のみ文化差がある。
- ③怒りの対処方法のみ文化差がある。
- ④怒りの誘因及び対処方法とも文化差がない。

15場面中すべての場面で怒りの誘因に関する文化差が認められた。また、8場面で怒りの誘因と対処方法とも文化差が認められ、7場面で怒りの誘因のみ文化差が認められた。怒りの対処方法のみ文化差が認められた場面、及び怒りの誘因及び対処方法とも文化差がない場面はなかった。

表 3-4 場面別の日タイの文化差の有無

区分	場面	相手の言動	相手の立場	有意差のある設問
①誘因+対処方法	2	成績の公表をやめない	先生	1、2、3、4
	3	天皇陛下(王様)の悪口	運転手	1、4
	4	自分の悪口	友達	1、4
	5	部活の禁止	父親	1、3、4
	8	両親の悪口	同級生	2、3、4
	9	宿題中に話しかける	母親	1、2、4
	14	注意したら不満げな態度	後輩	1、2、3、4
	15	列の割り込み	中年女性	1、4
②誘因のみ	1	親友との関係を詮索	同級生	1、2
	6	遅刻しても謝らない	友達	1、2
	7	グループワーク非協力	友達	1
	10	病院に送らせない	父親	1、2
	11	自分だけ仕事を頼まれる	上司	1、2
	12	何度注意してもきかない	後輩	1、2
	13	値札が間違っている	店員	2
③対処方法のみ	なし			
④文化差なし	なし			

本研究の結果、怒りの誘因及び対処方法に関する日タイ間の共通点及び差異が見いだされた。日タイの文化差は、本研究で示した15場面全ての怒りの誘因において、怒りの強度あるいは相手の言動に対する評価の違いとして示された。また、怒りの対処方法においては、日タイで共通する場合もあれば異なる場合もあった。

日本人とタイ人は、所属集団内での協調性やルールの重視においては共通性があるものの、親子関係に対する認識、上下関係に対する認識、社会常識に対する認識などに文化差があり、日タイの怒りの経験を異なるものに行っているのではないかと考察した。

次章の総合討議では、研究1～3の結果を踏まえ、タイ人の怒りの感情規則と表示規則における社会文化的要因についてさらなる考察を行う。

第4章 総合討議

第1節 各章の要約と考察

第1項 第1章の要約と考察

第1章では、Horimoto (2012)のタイ人と日本人の表情写真を用いた実験的研究により見いだされた、タイ人が日本人より無表情を怒りと誤認しやすい傾向について、タイ人を対象とした面接調査を行ってその傾向を改めて検証するとともに、無表情が怒りと誤認されやすい原因、とくに社会文化的要因を検討した。

面接調査では、タイ人17名（男性8名、女性9名）を対象に、Horimoto (2012)の識別実験に使用された無表情の写真がどのように見えるか、また日常生活で他者が無表情をしたときにどのような印象をもつかなどを質問した。

面接調査の結果、無表情の判断において、回答者が無表情以外に誤判断する場合、ポジティブ感情やニュートラル感情よりも、怒り、悲しみ、恐怖など、ネガティブ感情の表出と誤判断しやすい傾向があることが確認された。また、日常生活における対人場面における無表情が、タイ人にとって単に感情を表出しないというだけではなく、それ以上の相手に対するネガティブな含意を示すものであるということが示唆された。

面接調査の結果をもとに、タイ人が無表情を怒りを含むネガティブな表情に誤認する傾向があるのは、タイ人が日常生活において人前で微笑む、すなわち幸福の表情をみせることが多いため、無表情をネガティブな表情と誤認しやすいことに加え、タイ人が怒りを感じた場合に無表情によって示すという表示規則があるためではないかと考察した。また、タイ人の無表情の解釈に影響を及ぼす表情の解釈規則が怒りの表出を含めた表情の表示規則と同様の社会文化的要因に基づいているのではないかと考察した。

第2項 第2章の要約と考察

第2章では、これまで実証的研究がほとんどなされていないタイ人の感情規則と表示規則について研究の足がかりを得るため、仮説単索的アプローチとして質的研究を行った。面接調査により、感情規則に関しては怒りの誘因を、表示規則に関しては怒りの対処方法を調べた。

勤務経験が2年以上あるタイ人であることを条件とし、バンコクの大学関係者20名（男性12名、女性8名）を面接調査の対象者に選んだ。面接調査はタイ人の面接者が半構造化手法を用いて行った。面接時間は1人約30分で、面接対象者の日常生活における怒りの体験について、どのような場面で怒りを感じたか、どのように怒りを表出したかなどについて質問した。面接中の発話を録音し、グラウンデッド・セオリー・アプローチに準じた方法で質的分析を行った。データを怒りの誘因に関するものと怒りの対処方法に関するものに分類して分析した。

怒りの誘因については、面接者の発話データから怒りを感じた89の出来事が見いだされ、23の怒りの誘因に分類された。Averil (1982) の研究で用いられた怒り経験における被害認識を参考に、怒りの誘因をさらに6つのカテゴリー（「欲求不満」「期待に背く」「同義違反」「プライドを損傷」「物質的損失」「身体的被害」）に分類した。

分析の結果、タイ人の怒りの誘因には、目上の相手に対する尊敬、両親への愛情などに加え、仏教や国王への崇拝といった、長い間仏教国であり王国であるタイに特有と考えられるものも見いだされた。また、「プライドを尊重」と仮区分された怒りの誘因において、特に強い怒りを感じる傾向があることが示唆され、エゴを重視するタイ人の価値観

(Komin, 1990) を反映しているのではないかと考察した。また、相手の立場や関係性によって、怒りの誘因が異なることが示唆された。

タイ人の怒りの対処方法については、面接者の発話データを分析し、怒りの対処方法、怒りを感じた相手の立場、怒りの対処方法選択の理由、怒りを感じた相手との人間関係、怒りの対処方法に対する評価の5つのカテゴリーに分類し、各カテゴリーのデータを分析

し、怒りの対処方略を Komin(1990) のタイ人の価値観と関連付けて考察した。さらに、得られた結果をもとにタイ人の怒り対処方略モデルへを構築してみた。

その結果、タイ人は怒りを感じた相手との人間関係を維持するためには怒りを抑制すべきだと考えていること、また、怒りを感じたことを相手に伝えて相手の行動を変化させるために自己主張しようと努力するが、自分の考えを必ずしも相手に強要しているわけではないことが示唆された。また、タイ人は家族や職場などの所属集団のメンバーや見知らぬ人など、怒りを感じた相手の立場により異なる怒りの対処方法をとることが示唆された。

これらは、タイ人の怒りの誘因や対処方法が家族や職場での様々な関係性に応じて分化し、ヒエラルヒカルなタイ社会に適合するよう社会文化的に構築されたものであることを物語っていると考察される。

第3項 第3章の要約と考察

第3章（研究3）では、研究2で得られた知見に基づき、価値観や人間関係の違いによる怒りの誘因や対処方法の変化に注目しながら、タイ人の怒りの感情規則と表示規則の社会文化的特徴を検討するため、タイ人と日本人を対象に質問紙調査を行い結果を比較した。

日本人大学生105名（81名、女性24名）及びタイ人大学生98名（男性49名、女性49名）を対象に、状況的質問票で怒りを喚起するであろう15の場面を提示し、喚起される怒りの程度、怒りを感じさせた相手の言動への評価、怒りの対処方法、怒りの対処方法の選択理由を調べた。提示した15の場面は研究2の面接調査で得られた怒りの経験場面から選択した。各場面について、回答者は提示した場面で喚起される怒りの程度、怒りを感じさせた相手の言動への評価を推測して評定し、怒りの対処方法、及び対処方法の選択理由について質問に回答した。

本研究の結果、怒りの誘因及び対処方法に関する日タイ間の共通点及び差異点が見いだされた。日タイの文化差は、研究3で扱った15場面全ての怒りの誘因において、怒りの強

度あるいは相手の言動に対する評価の違いとして確認された。また、怒りの対処方法においては日タイで共通する場合もあれば異なる場合もあった。

タイ人の怒りの感情規則については、国王陛下への尊敬、両親への愛情、上下格差の尊重など、研究 2 で言及したタイに特徴的な社会文化的規範と強く結びついており、そうした重要な規範の侵害とみられる場面においてより強く怒りを感じる事が確認された。特に、国王陛下（天皇陛下）への冒涇の場面での怒り喚起（タイ人 2.29、日本人 0.58）、公共の場で列に並ばないといった社会ルール違反の場面での怒りの喚起（タイ人 1.11、日本人 2.12）に日タイの文化差の存在が顕著に示された。

タイ人の怒りの表示規則については、状況や相手によって怒りの対処方法が異なる事が確認された。日タイでの対処方法には共通点も多いが、相手が目上の場合には怒りを「表出しない」傾向がタイ人の方が強く、特に両親に対して怒りを表出しない傾向が見られた。同級生から両親の悪口を言われた場合には、日タイとも怒りを強く感じるという回答が多かったにもかかわらず、タイ人は「感情的に罵る」が最も多かったが、日本人は「表出しない」が最も多く、日タイで全く対処方法が異なる場面もあった。

こうした結果から、怒りの表示規則も対処方法も状況や相手との関係によって変化し、その変化が各文化の価値観や社会規範の違いに規定されていることが示唆された。

第 2 節 タイ人の怒りの感情規則と表示規則と社会文化的要因

本研究の結果、様々な怒りの誘因によって喚起される怒りの強度や対処方法に日タイの文化差がある事が確かめられた。タイ人は目上に対する尊敬、仏教や国王への崇拝、両親への愛情など、タイ社会において重要と考えられている規範の侵害により比較的強い怒りが喚起されることが示唆された。これらの社会規範の有無が日本人と異なっており、こうした社会規範の根底にある価値観の相違により日本人とタイ人の怒りにおける文化差が

生み出されているのではないかと推察される。以下に、怒りの誘因と怒りの対処方法において日タイ間に文化差が見られた点について、さらに考察を進める。

第1項 国王・天皇に対する認識の違い

「タクシーに乗っていたら、タクシーの運転手が天皇陛下（王様）の悪口を言った。」という場面では、日本人は「全く感じない」と回答した数が最も多いのに対し、タイ人は「強く感じる」という回答が最多となり、日タイの文化差が認められた。

日本もタイも同じ立憲君主国であるにもかかわらず、それに対する認知的評価に文化差がある点は重視すべきであると考ええる。こうした文化差は、歴史的背景及び教育的背景により生まれたとされる（赤木，1989；中西，2006；野津，2005）。タイでは、タイの国家的価値を説明する「ラックタイ」という書物の中で、タイ国民として重視すべきものが、民族、宗教（仏教）、国王であると謳われ、小学校から国王を敬愛するよう教育を受けている（赤木，1989）。また、現プーミポン国王は国民の生活改善や慈善事業に尽力し、その個人的資質によって、国民の求心力であり、「国民の父」として慕われている（中島，2012）。一方日本では、千数百年もの間続いてきた天皇皇族に対する崇拝の感情が、第二次世界大戦敗戦後のGHQによる改革や新日本国憲法によって、天皇が日本国の「象徴」となり、その後の天皇制存続や「開かれた皇室」などをめぐる様々な議論によって、次第に変化していったといえる（中西，2006）。

本研究の結果は、こうした社会的変化に伴う人々の価値観の変化が、怒りの喚起に大きく影響を与えていることを示唆し、感情が社会文化的に構築されていることを裏付けるものと言えるだろう。

第2項 公衆道徳に対する感覚の違い

「買い物に行って会計の列に並んでいたら、年配の女性が割り込んできた。」の場面では、日本人は「怒りを感じる」、あるいは「強く感じる」と回答した数が同数で最も多かったのに対し、タイ人は「わずかに感じる」が最も多く、日本人の方がタイ人よりも強く

怒りを喚起されることがうかがえる。これはいわゆる公衆道徳（公共心）の問題と言える。日本人は特に公共のマナーを尊重する文化をもち、公共の場で列に並んで順番を守る場面がよく見られる。2011年3月の東日本大震災では、被災者の方たちが苦境の中にあっても配給の食事をもらうために長い列を作って並んでいる映像がタイを含めた海外でも報道され、世界中から多くの称賛の声があがったのは記憶に新しい。

一方、タイに在住する筆者の経験から、タイでは逆に同じ状況では、列があったとしても必ず横入りをするタイ人がきつと出てくると予測できる。もっとも、タイ人が列に並ばなくてもいいという認識をもっているわけではなく、マナーを守らない人に対して怒り（不満）を感じるのは日本人と同じではあるが、その程度は日本人に比べてそれほど強くは感じないのではないかと推察する。タイ人よりも日本人の方が社会化の過程において、公共のマナーを守ることが非常に重要であると学習するため、それらの違反に対して強度の怒りが喚起されるのではないかと考える。

また、「友達と待ち合わせたら30分遅刻してきて謝らない。」の場面では、日本人の方がタイ人よりも怒りの平均強度が高かったが、最も興味深いのは、日本人が遅刻してきて謝らないという行為を社会的非常識ととらえるのに対し、タイ人が相手にこうであってほしいという単なる個人的な期待の裏切りと評価している点である。この結果は、時間のマナーに対する日タイの感覚の違いを示すものであると考える。

一般的にタイ人は日本人に比較して時間を守ることにそれほど厳格ではないといえる。中島(2012)は、日本人とタイ人の時間の感覚の違いについて次のように記述している。

- ・タイ人は日本人のように時間を細かく指定するのは苦手である（中島，2012，p.41）。
- ・5分か10分遅れただけなのに、日本人がなぜそんなに怒るのか、タイ人は理解できない。（中島，2012，p.43）。
- ・遅刻が戒律に反していると仏教の経典には記されていない（中島，2012，p.43）。

このように、日タイの時間に対する認識の違いが怒り感情の喚起へも影響を与えていることが示唆される。ある文化において「時」の本質に関して抱かれている暗黙の了解事項が、別の文化ではいちじるしい多様性が見られることを北米と南米の文化差を例に主張し

た Hall(1959)と同様、文化による時間感覚の違いの存在とその怒りの感情への影響、すなわち時間を守らないことへの怒りの違いが日タイ比較を行った本研究の結果からも裏付けられたといえるだろう。

第3項 家族への愛情と義務感の違い

タイ人の方が日本人よりも怒りを強く感じた場面に「父親が足を痛めたので、病院に行くのに車で送ってあげようと言っても、自分でバスに乗って行くからいいと言ってきかない。」がある。この場面では、日本人がほとんど怒りを感じないが、タイ人は怒りを感じることが示唆された。研究2で考察したとおり、タイ人にとって家族は最も重要な所属集団であり、家族が病人や老人の面倒を見るのが伝統である (Cooper & Cooper, 1996)。また Komin(1990) が説明するように、タイ人は報恩的關係志向が強く、自分に善行（親切、手助け、情けなど）を施してくれた両親、親戚、教師、友人に対して恩義を感じ、恩に報いるべきであるという義務感が非常に強いため、足を痛めた父親を助けることができないことにより怒りすら喚起されるのだと推察される。

一方、多くの状況においてタイ人は怒りを抑制すべきだと考えてはいても、「教室で同級生に自分の両親の悪口をいわれた。」場合には、強い怒りが喚起されるだけでなく、過半数が「感情的に罵る」と回答している。両親に対する深い愛情への裏付けとして、両親への侮辱に対する怒りについては、その表出は当然であり、社会的に容認されるという表示規則があるのかもしれない。一方、日本人は強い怒りを感じていながらも、同級生との人間関係を優先し怒り感情を表出しないことを選ぶ。それは、その状況において怒りを露わにすることが社会的に相応しくないという表示規則があるからではないかと考える。このような表示規則の違いがタイ人あるいは日本人のどのような価値観と結びついているかについては、さらなる研究が必要であろう。

両親をめぐる怒り感情における日タイの文化差を理解するためには、タイ人の道徳教育を理解することがヒントになるかもしれない。タイの小学校5年生用道徳副読本では恩義・報恩関係を主題として、家族の中の父母と子供の関係が指摘され、父と母が誰よりも

自分を愛して育ててくれた大変恩のある人であり、父と母に忠実に従い、恩を返さねばならないと教えられる（野津，2005）。こうした学校における道徳教育によって、タイ人の親子に対する国民的な価値観や両親に対する深い感情が醸成され、日本人とは異なる怒り感情を経験することになるのだと考えられる。

第4項 成績を公表する先生に対する怒りとその対処方法

場面2「先生が全員の試験の成績を名前つきで公表するので、自分の成績が悪いと他の人にばれてしまう。先生に名前を公表しないでほしいと言ったが変えてくれない。」では、すべての設問の回答の度数分布に日タイの有意差があり、怒りの誘因及び怒りの対処方法とも文化差があることが示唆された。

タイ人はほとんど怒りを感じておらず、怒りを感じたとしても「表出しない」という回答が多かったのに対し、日本人の方が怒りを強く感じ、先生に対して「冷静に話す」という回答が多かった。

筆者のタイへの留学経験からすれば、タイでは大学で試験の成績などを公表することは特にめずらしいことではない。またタイの大学生は上下関係を重視し、目上の立場にある先生の指示を従順に受け入れる傾向がある。一方、日本ではプライバシー保護に対する意識が高く、また序列化や競争を避けたがるといった社会的風潮があり、成績の公表そのものが日本人にとって受け入れがたい行為であると捉えられたのではないかと考える。

また、タイでは先生は知識を与え人生を正しい方向に導いてくれる偉大な存在として尊敬することを幼少時から教育されており（中島，2012）、目上の者に対する批判は好まれない（Cooper & Cooper, 1996）ため、このような結果が得られたと考える。日本でも先生に対する尊敬や遠慮の気持ちはあるものの、先生に対して冷静に自分の意見を伝えることはタイとの比較においては社会的に容認されているのだろう。こうした日タイの社会的背景の差異が怒りの誘因と対処方法の文化差として現れたのではないかと考える。

第5項 目上・目下に対する接し方と上下関係

タイ人は怒りを感じた相手が両親、先生、上司など、自分より目上であった場合に、日本人よりも怒りの平均強度が低く、怒りの対処方法も「表出しない」あるいは「冷静に話

す」など、相手と問題を起こさないように配慮した対処方法が選択されていた。これはタイ社会が日本社会より上下格差の意識が強く、目上の人に対して特別な態度をとることを要求していることを示唆しているのではないか。

逆に「後輩にやさしく注意したら不満気な態度だった。」という場面では、タイ人の方が日本人よりも強く怒りを感じている。また、この場面については、後輩の言動に対する評価が、日本人は「期待通りでない」が最も多かったが、タイ人は「個人的配慮の欠如」と評価する者が最も多く、日タイで評価が異なる結果となった。また、対処方法についても同様、タイは「注意する」が多く、日本人は「表出しない」が多いという異なる対処方法が選択される傾向があることがわかった。

こうした結果は、いずれも上下関係のあり方に対する日タイの認識の違いを示していると考えられる。タイの小学校の道徳の授業では、両親、先生などが尊敬すべき人物であるとし、人間関係すべてを被尊敬－尊敬の上下構造として捉え、目上の人に対して忠誠や服従するように教育されている（野津，2005）。こうした教育的背景から、タイ人はそもそも目上の人々の言動に対して怒ったり反抗したりすることが、日本人と比較して少ないのかもしれない。そして、タイ人の方が目下の者からの従順な態度への期待が高く、目上の者を尊重するのが当然であると考えられる傾向が強いことが伺える。相手よりも自分の方が目上であるということは、タイ人にとっては重要な個人的尊厳の意識につながっているのではないか。日本の社会も上下格差を尊重する社会（いわゆる「タテ社会」）だといわれる（例えば、中根（1967））が、タイにおいては日本以上に上下関係が重視されているのではないかと考察する。

このように、様々な場面における日タイの怒りの強度や相手の言動への評価を比較することによって、日タイ文化差を生んでいる社会文化的要因のいくつかが明らかになった。また、怒りを感じた場合の対処方法や対処方法選択の理由についても、日タイで共通点が多いものの、ある誘因については全く異なる表示規則を持つことが示唆された。それらは

すべてその文化にとって重要な価値観が根底にあると考える。本研究を通して、それぞれの文化を特徴づける価値観が怒り感情と結びついていることが確認された。その文化にとって重要な価値観を侵害する行為はその価値観を共有する人々の怒りを喚起する要因となり、その価値観の重要度によって喚起される怒りの強度も変化するだろうと考えられる。

このように、怒りの誘因や対処方法が様々な社会文化的要因に規定されていることは、Averil(1980) がいうように、感情が社会文化的に形成されていることを裏付けるものであると考える。自分が生まれ育った文化の中で、その文化にとって重要な社会規範や価値観を学習すると同時に、それらが侵害された時には怒りを感じなければならないこと、またその文化のにおいてどのように対処すべきかについても学習しているといえるだろう。

第3節 タイ人が日本人は怒りやすいと感じる理由

本研究は、在タイ日系企業で働く日本人の観察をもとに、タイ人がなぜ日本人は怒りやすいと感じるのかを表情認知における日タイの文化差を検討したHorimoto (2012)の研究を発展させた。まず無表情認知における社会文化的要因を検討するため、タイ人を対象にした面接調査(研究1)を行った。その結果、タイ人が無表情を怒りを含むネガティブな表情に誤認する傾向が確認された。また、タイ人が日常的な対人場面において怒りを無表情で示すという表示規則があり、その表示規則が無表情識別の誤認の要因の一つになっていることが推察された。

しかし研究3の結果、怒りの表示規則よりも感情規則において、日タイ間の文化差が顕著であり、全体として日本人の方が怒りを喚起しやすいという傾向が確認された。従って、タイ人が日本人は怒りやすいと感じるのは、表情認知における文化差よりも、タイ人が日本人と比較して怒りを感じにくいという感情規則に起因する部分が多いのではないかと推察する。

日タイ間の異文化コミュニケーションにおいて注意すべき点は、怒りを感じても表出しないように努力することではなく、怒りを感じないようゆったりとした気持ちで対人コミュニケーションを行えるよう努力することなのではないだろうか。

また、価値観や社会規範の違いによって喚起される怒りの強度は変化する。タイ人が自文化において怒りを喚起されない場面で、日本人が怒りを感じるのを見て、タイ人が日本人は怒りやすいと感じる場合もあるかもしれないし、また逆の場合もあるだろう。そうした誤解の発生を回避するためにも、互いの文化を十分理解することが必要だろう。

第 4 節 本研究により得られた知見の意義と位置づけ

本研究では、タイ人の怒り感情に関して初めての実証研究を行った。怒りが喚起されると考えられる15の場面を提示し、それぞれの場面における怒りの喚起と表出について、日本人との比較により、タイ人の怒りの感情の誘因や対処方法の文化的特徴が明らかになった。タイ人の怒りの感情の喚起や表出が、状況や相手との人間関係によって様々に変化し、そうした変化が Komin(1990) のいう「エゴ志向」「報恩的關係志向」「円滑な人間関係志向」といったタイ人の価値観、あるいはHolmes & Tangtongtavy (1995)のいう3つの世界（家族の世界、気配りの世界、自分本位の世界）に、少なからず規定されていることが確かめられた。また、実証的研究によりタイ人の怒りへの対処方略モデルが構築された。さらに、日本人とタイ人の比較を通して、タイ人の怒りがタイの社会・文化によって構築されていることを裏付けることができた。

これまでの感情の比較文化研究では、アジアと欧米の比較を基に集団主義－個人主義に結びつけた理論化が行われてきた(Matsumoto, 1989、Matsumoto, 1991、Matsumoto, 1996)。一方、本研究では同じ集団主義とされるアジア(Hofstede, Hofstede & Minkov, 2010) 圏内での文化比較を行い、アジア圏内でも文化による価値観の違いが怒りの感情規則や表示規

則に影響を与えていることが見いだされた。すなわち、同じ集団主義文化圏であっても少なからず怒り感情における文化的分散が生じていることを裏付ける結果が見いだされた。また集団主義文化圏での文化差を確認するために、怒りの強度や対処方法といった表面的な比較のみならず、相手の言動の認知判断や対処方法選択の理由など、認知段階での比較を行うアプローチが有効であることが実証できた。

感情の社会構築論を提唱したAverilは感情を主観的経験、生理的反応、表情、対処からなる「感情シンドローム」としてとらえるべきと主張している。本研究により得られた知見により、社会構築論の立場からの感情研究の有効性が確認されたといえる。

第5節 今後の展望

最後に、本研究でえられた調査結果をふまえて、今後さらに検討を進めていくべき課題を整理するとともに、本研究の展望を述べる。

本研究では、タイ人が無表情を怒りと誤認しやすいかどうかについて検討した。タイ人の怒りの対処方法には、「表出しない」から「感情的に罵る」まで、表出強度が異なる複数の方法があることが分かった。しかし、その際どのような表情をするかについての調査を行っていない。それぞれの対処方法において、表情がどのように変化するかを研究することによって、タイ人の無表情認知における誤認の要因がさらに明白に理解できるのではないかと考える。

質問紙調査で提示した怒りを喚起すると考えられる場面は、タイ人を対象とした面接調査によって得られた怒り経験場面の人への面接調査によって得られた怒りを喚起すると考えられる場面を使用している。しかし、選出された15場面がタイ人の社会文化的要因の全てを反映しているとは考えられない。今後は、さらに多くの場面を用いて研究することにより、タイ人の怒りの感情規則と表示規則を一般化する必要がある。またタイ人と日本人

の文化差を検討する場合、日本人への面接調査を行い、日本人が怒りを喚起される場面も併用して検討することが必要である。

喚起される怒りの強度を検討する際、質問紙の回答の選択肢を間隔尺度として数値化した、回答の選択肢は日本語及びタイ語による言語によるものであり、絶対値の比較は不可能である。従って、タイ人と日本人の怒りの強度の比較結果について確認できたとはいえない。今後は言語を介さずに怒りの強度を調査できる方法を用いた研究を行う必要がある。

相手の立場、所属集団の違いによって、怒りの強度と対処方法がどのように変化するかを検討したが、異なる15場面での比較であり、同一の状況において相手の立場が変化した場合の比較は行っていないため、この結果が相手との人間関係の違いによって得られた結果であるというよりも、各場面の怒りの誘因の違いによって生じた結果である可能性もあるため、今後は同じ状況において相手の立場が変化した場合に同様の結果が得られるかどうか、再度検討を行う必要があると考える。

本研究では、調査対象者がバンコクの大学関係者であったため、本研究でいうタイ人が、階層社会であり、職業、出身地、年齢、学歴などによって多様性のあるタイ人全体を反映していない可能性がある。今後は、さらに多様な社会階層のタイ人を対象として研究することにより、タイ人の怒りの感情規則と表示規則の一般化を行う必要があるだろう。

以上の課題を検討することにより、タイ人の怒りの感情規則と表示規則の理解がさらに深まり、タイ人との良好な異文化コミュニケーションを行う上での知見が得られるものと期待される。

謝 辞

本研究を遂行し学位論文をまとめるにあたり、多くのご支援とご支援を賜りました指導教官の米谷淳先生に感謝申し上げます。日本とタイを往復しながら、研究と仕事を両立させるという大変厳しい条件を背負った私の指導を快く受け入れていただき、研究の機会を与えて頂きました。また、限られた時間の中深夜に及ぶ論文指導をしていただくなど、熱意をもって終始ご指導いただきましたことに、心より感謝申し上げます。米谷先生のご指導なくしては、本論文の完成はなかったことでしょう。

国際文化学研究科の感性コミュニケーションコースの松本絵理子先生をはじめ、山本真也先生、定延利之先生、水口志乃扶先生、林良子先生には、論文執筆にあたって終始貴重なご指導とご助言をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。また、日本とタイの往復しながらの研究に暖かいご配慮を頂きましてありがとうございます。また、宇津木成介先生には、修士論文でご協力いただいたのち、米谷淳先生をご紹介いただいたことで、本研究が可能になりました。深く感謝申し上げます。

文化心理学研究の面白さを教えて頂き、論文執筆にあたって貴重なご助言をいただいた人文科学研究科の石井敬子先生に心より感謝申し上げます。

国立開発行政大学院（NIDA）のクワンチラ・セナー先生、バンコク大学のパシニー・プレムプラパンさんには、タイ人のデータ収集において、多大なご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。また、日本人としてタイ人の研究を遂行するにあたり、貴重な助言を頂くことができました。

宮城学院女子大学の木野和代先生には、感情の社会構築論の研究者として、貴重な資料のご提供と論文執筆にあたってのご助言をいただきましたことに感謝申し上げます。

ティップヤーラット・ポーティスィッティポーンさんをはじめ、感性コミュニケーションコースで一緒に学び、研究遂行にあたって様々なご協力をいただいた研究生の皆様に感謝申し上げます。

研究と仕事の両立をする上で配慮をいただいた盤谷日本人商工会議所の石井信行事務局長をはじめ、同僚の皆様に感謝申し上げます。

最後に、タイと日本を往復しながら研究を続けるにあたり、陰になり支援していただいた両親に感謝の意を表します。

文 献

赤木 攻 1989 タイの政治文化－剛と柔－ 勁草書房

Averil, J. R. 1980. A constructivist view of emotion In R. Plutchik & H. Kellerman (Eds.), *Emotion: Theory, Research and Experience*, Vol. 1 (pp. 305-339). New York: Academic Press.

Averil, J. R. 1982. *Anger and aggression*. New York: Springer.

Baxter, L. A. & Babbie, E. 2004. *The Basics of Communication Research*. CA: Wadsworth/Thmson Learning.

Beaupre, M. G. & Hess, U. 2006. An ingroup advantage for confidence in emotion recognition judgments: The moderating effect of familiarity with the expressions of out group members. *Personality and Social Psychology Bulletin*. 32(1).

Biel, M., Matsumoto, D., Ekman, P., Hearn, V., Heider, K., Kudoh, T., & Ton, V. 1997. Matsumoto and Ekman' s Japanese and Caucasian facial expressions of emotion (JACFEE): Reliability data and cross-national differences. *Journal of Nonverbal Behavior*. 21(1). pp.3-21.

Boiger, M., Gunger, D., Karasawa, M., and Mesquita, B. 2014. Defending honour, keeping face: Interpersonal affordances of anger and shame in Turkey and Japan. *Cognition and Emotion*. pp1-15.

Charmaz, K. 2006. *Constructing Grounded Theory*. Sage Publications 抱井尚子・末田清子 (監訳) 2008 グラウンデッド・セオリーの構築 ナカニシヤ出版

趙恃雷 2002 表示規則の日中比較研究. 国際文化学紀要 第6号 pp.77-89.

趙恃雷・米谷淳 2002 中国人の表情に関する研究: アドリブで表出された表情 信学技報, HCS2002-8 pp.7-10.

Cooper, R. & Cooper, N. 1996. *Culture Shock: Thailand*. Singapore: Times Edition Pte. Ltd.

Cornelius, P. R. 1996. *The Science of Emotion: Research and Tradition in the Psychology of Emotion*. New Jersey: Prentice-Hall. 齊藤勇 (監訳) 1999 感情の科学 誠信書房

- Ekman, P., & Friesen, W. V. 1971. Constants across cultures in the face and emotion. *Journal of Personality and Social Psychology*. 17(2), pp.124-129.
- Ekman, P. & Friesen, W. V. 1978. *Facial Action Coding System: Manual*. CA:Consulting Psychologists Press.
- Ekman, P. & Friesen, W. V. 2003. *Unmasking the Face*. MA: Malor Books.
- Ekman, P., Friesen, W. V., O' Sullivan, M., Chan, A., Diacoyanni-Tarlatzis, I., Heider, K., ...Tzavaras, A. 1987. Universals and cultural differences in the judgments of facial expressions of emotion. *Journal of Personality and Social Psychology*. 53(4). pp.712-717.
- Elfenbein, H. A. & Ambady, N. 2002. On the universality and cultural specificity of emotion recognition: A meta-analysis. *Psychological Bulletin*. 128(2). pp.203-235.
- Elfenbein, H. A., Beaupre, M., Levesque, M., & Hess, U. 2007. Toward a dialect theory: Cultural differences in the expression and recognition of posed facial expressions. *Emotion*. 7(1). pp.131-146.
- Embree, J. F. 1950. *Thailand: A "loosely structured" social system*. American Anthropologist. 52. pp.181-193.
- Friesen, W. V. 1972. *Cultural Differences in Facial Expressions in a Social Situation: An experimental test of concept of display rules* (Unpublished doctoral dissertation). University of California, San Francisco.
- 外務省 2015 海外在留邦人数統計（平成27年度速報版）
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/tokei/hojin/>(URL)
- Hofstede, G. 1984. *Culture's Consequences: International differences in work-related values*. CA: Sage Publications.
- Hofstede, G. 1991. *Cultures and Organizations: Software of the Mind*. London: McGraw-Hill.
- Hofstede, G., Hofstede, G. J. & Minkov, M. 2010. *Cultures and Organizations: Software of the Mind*. London: McGraw-Hill.
- Hall, E. T. 1959. *The Silent Language*. NY: Doubleday and Company. 國弘正雄・長井善

- 見・斎藤美津子（訳）1966 沈黙のことば—文化・行動・思考 南雲堂
- Holmes, H. & Tangtongtavy, S. 1995. *Working with the Thais: A guide to managing in Thailand*. Bangkok: White Lotus Co., Ltd. 末廣昭（訳）2000 タイ人と働く めこん
- Horimoto, M. 2011. ความแตกต่างทางวัฒนธรรมในการรับรู้อารมณ์เชิงลบทางสีหน้าระหว่างคนไทยและคนญี่ปุ่น [Cultural differences in recognition of negative facial expression between the Thai and the Japanese]. A research paper for AC9000 submitted in partial fulfillment of the requirements for the Degree of Master of Arts (Applied Communication), School of Language and Communication, National Institute of Development Administration. (未公刊)
- Horimoto, M. 2012. ความแตกต่างทางวัฒนธรรมในการรับรู้อารมณ์เชิงลบทางสีหน้าระหว่างคนไทยและคนญี่ปุ่น [Cultural differences in recognition of negative facial expression between the Thai and the Japanese]. *NIDA Journal of Language and Communication*. 18. pp.17-27.
- Izard, C. E. 1971. *The face of emotion*. New York: Appleton-Century.
- 木野和代 2000 日本人の怒りの表出方法とその対人的影響 心理学研究 第70巻 第6号 pp.494-502.
- 木野和代 2004a 対人場面における怒り表出とその影響—肯定的側面への注目— 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 博士論文（未公刊）
- 木野和代 2004b 対人場面における怒りの表出方法の適切性・効果性認知とその実行との関連 感情心理学研究 第10巻 第2号 pp.43-55.
- Komin, S. 1990. *The Psychology of the Thai People: Values and Behavioral Patterns*. Bangkok: National Institute of Development Administration (NIDA).
- Lee, Kang. J. I., Park, I. H., Kim, J.. & An, S. K. 2008. Is a neutral face really evaluated as being emotionally neutral? *Psychiatry Research*. 157. pp.77-85.

- 米谷淳・趙恃雷 2002 中国人の表情を日本人はどう見るか 信学技報 HCS2002-25
pp. 19-20.
- Matsumoto, D. 1989. Cultural influences on the perception of emotion. *Journal of Cross-Cultural Psychology*. 20(1). pp. 92-105.
- Matsumoto, D. 1991. Cultural influences on facial expressions of emotion. *Southern Communication Journal*. 56(2). pp. 128-137.
- Matsumoto, D. 1992. American-Japanese cultural differences in the recognition of universal facial expression. *Journal of Cross-Cultural Psychology*. 23(1).
pp. 72-84.
- Matsumoto, D. 1996. *Unmasking Japan: Myths and Realities About the Emotions of the Japanese*. CA: Stanford University Press.
- Matsumoto, D. 2006. "Culture and nonverbal behavior" In *Handbook of Nonverbal Communication*, Manusov, V. & Patterson, M. (Eds.). CA: Sage Publication.
- Matsumoto, D. & Ekman, P. 1989. American-Japanese cultural differences in intensity ratings of facial expressions of emotion. *Motivation and Emotion*. 13(2).
pp. 143-157.
- 中島マリン 2012 タイのしきたり めこん
- 中根千枝 1967 タテ社会の人間関係 講談社
- 中西輝政 2006 日本人としてこれだけは知っておきたいこと PHP新書
- 中村真 1991 情動コミュニケーションにおける表示・解読規則：概念的検討と日米比較調査 大阪大学人間科学部紀要 第17号 pp. 115-145.
- 野津隆志 2005 国民の形成－タイ東北小学校における国民文化形成のエスノグラフィー 明石書店
- 大淵憲一・小倉左知男 1984 怒りの経験 (1) : Averilの質問紙による成人と大学生の調査概況 日本犯罪心理学研究 第22巻 第1号 pp. 15-35.
- Petison, P. 2007. *Bridging Cultural Gap between Thai and Japanese Expatriates: Case of Japanese Expatriate Developing Local Suppliers in the Thai Automobile Industry*. Research report submitted to The Sumitomo Foundation.

- Petison, P. 2009. สัมพันธไทย-ญี่ปุ่น:แตกต่างแต่ไม่แตกแยก [Thai-Japanese Relationship: Different but never split up]. *For Quality*. No. 142. pp.55-57.
- Philips, H. P. 1965. *Thai Peasant Personality: The Patterning of Interpersonal Behavior in the Village of Bang Chan*. Berkeley : University of California Press.
- Porter, R. & Samovar, L. 1998. "Cultural influences on emotional expression: Implications for intercultural communication and emotion" In *Handbook of Communication and Emotion: Research, Theory Applications and Contexts*, Andersen, P. A. & Guerrero, L. K. (Eds.). CA: Academic Press.
- Potegal, M. & Stemmler, G. 2010. "Cross-disciplinary views of anger: Consensus and controversy" In *International Handbook of Anger* (pp.3-9), Potegal, M., Stemmler, G. & Spielberger, C. (Eds.). NY: Springer Science + Business Media.
- Rokeach, M. 1973. *The Nature of Human Values*. NY: The Free Press.
- Sabini, J., & Silver, M. 1982. *Moralities of Everyday Life*. Oxford: Oxford University Press.
- 戈木クレイグヒル滋子 2008 実践グラウンデッド・セオリー・アプローチ：現象をとらえる 新曜社
- 関那積・綾部早穂 2013 無表情に対する感情認知 筑波大学心理学研究 第46号 pp.1-8.
- Sharp, L., Hauck, H. M., Jenlekh, K., & Textor, R.B. 1953. *Siamese Rice Village: A Preliminary Study of Bang Chan, 1948-1949*. Bangkok: Cornell Research Center.
- 柴田利男 2013 無表情の感情価－既知の人物に対する表情認知－ 北星学園大学社会福祉学部北星論集 第50号 pp.75-82.
- Shioiri, T., Someya, T., Helmeste, D., & Tang, S. W. 1999a. Cultural differences in recognition of facial emotional expression: Contrast between Japanese and American raters. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*. 53. pp.629-633.
- Shioiri, T., Someya, T., Helmeste, D., & Tang, S. W. 1999b. Misinterpretation of facial expression: A cross-cultural study. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*. 53. pp.45-50.

- Shimoda, K., Argyle, M., & Bitti, P. R. 1978. The intercultural recognition of emotional expressions by three national racial groups: English, Italian and Japanese. *European Journal of Social Psychology*. 8. pp.169-179.
- Tang, Y, Ou, F, Wu, F, & Kong , L. 2011. Cultural differences in the recognition of facial emotion between Chinese and American. *Journal of China Medical University*. 40(5). pp.422-427.
- 上原俊介・中川知宏・森丈弓・清水かな子・大淵憲一 2012 関係規範の違反に対するシグナルとしての怒り感情：知覚された欲求責任違反の媒介的役割 社会心理学研究 第27巻 第3号 pp161-173.
- 王愛東・米谷淳 2008 面接調査における表情表出：中国人と日本人の比較 対人社会心理学研究 第8号 pp.97-102.
- 渡邊伸行・山田寛・巖島行雄 2002 無表情と知覚される顔に関する基礎的研究：線画表情を用いた表情の視覚的情報空間における無表情空間の同定 電子情報通信学会技術研究報告 第101巻 第610号 pp.13-18
- World Value Survey Retrieved December, 2015 from
<http://www.worldvaluessurvey.org/wvs.jsp>
- 山内星子 2008 認知的評価・感情喚起の個人差－状況的測定ツールの作成－ 発達研究 第22巻 pp.203-212
- Yuki, M., Maddux, W. A., & Masuda, T. 2007 Are the windows to the soul the same in the East and West? Cultural differences in using the eyes and mouth as cues to recognize emotions in Japan and the United States. *Journal of Experimental Social Psychology*. 43. pp.303-311.

補 遺

1. 面接対象者20名の属性一覧

面接対象者番号	場面数	年齢	性別	職業
1	9	33	女	会社員、秘書
2	8	43	女	フリーランス、ガイド・翻訳
3	3	46	女	会社員、秘書
4	5	61	男	地方公務員、管理職
5	2	44	女	会社員、経理マネージャー
6	2	27	男	会社員、購買
7	5	34	女	会社員、日本語通訳
8	6	32	女	会社員、日本語通訳
9	5	26	女	高校教師(日本語)
16	11	32	女	会社員、営業
24	9	42	男	大学職員
32	3	44	男	大学職員
33	7	26	男	大学職員
34	7	40	男	大学職員(スポーツ施設管理)
35	7	37	男	大学職員(スポーツ施設管理)
36	3	42	男	大学職員
37	4	46	男	大学講師
38	9	40	男	大学講師
39	6	45	男	大学講師(保健体育)
40	10	43	男	大学講師、サッカー審判

2. 面接対象者20名の発話データのラベル一覧

各表の1行目に面接対象者番号と場面番号を付している。

(表示例: 7-5 は、面接対象者7の5番目の場面)

	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5
状況	ทำงานไม่ดี(เหตุผล) 仕事のミス	เมเนเจอร์พูดลับหลัง (陰口を言う上司)	ความขัดแย้งทางความคิดกับ เจ้านาย (上司との考え方の違い)	พ่อไม่ยอมนั่งแท็กซี่ไป 父親がタクシーに乗ろうとしない	สั่งให้ซ่อมแซมรั้วในบ้าน (家の雨漏りの修理を依頼)
				รู้สึกโกรธเพราะเป็นห่วง 心配で怒る	เจ้าของร้านไม่มาทำ (店主は自分で修理に来なかった)
					ฝีมือของลูกชายเจ้าของร้านแย่มาก (店主の息子の仕事のひどさ)
					เก็บเงินแพง (高い修理費を払った)
					ฝนตกในห้อง (部屋の中に雨が降ってきた)
					พยายามแก้ไขสถานการณ์ (問題解決の努力)
					เป็นห่วงแม่(母親への心配)
					พี่สาวเห็นสภาพแย่มาก (姉がひどい状況を見た)
		รู้สึกแย่มากกับเมเนเจอร์ (上司に対してひどいと思う)		ทำให้โกรธมากๆ すごく怒る	โกรธมาก(とても怒った)
行為/ 相互行為	คนไทยจะเจียมพูดลับหลัง タイ人上司は陰で言う	สีหน้าเปลี่ยนด้วยความโกรธ (怒って顔色が変わる)	ขอให้เปลี่ยนคำสั่ง (指示を変えるように頼む)	พูดเสียงดัง大きな声を出す	เสียงดังด้วยความโกรธ (怒りで声が震える)
	ฝรั่งพูดตรง 西洋人上司はダイレクト	ถามความจริง (相手に確認する)		โมโหแล้วร้องไห้怒って泣く	อยากรจะไปทำร้านไปคำ (店に怒鳴り込む)
				เตือนโดยอ้างถึงอุบัติเหตุของญาติ ญาติ	
	นิสัยชาติของเจ้านาย 上司の国籍	เป็นคนที่ไม่รู้จักกัน (よく知っている人だから)	ปกติไม่มีปัญหาเกี่ยวกับเจ้านาย (普段は上司とうまくいって)		มั่นใจว่าคำผิด (間違いなく相手が悪い)
	ต้องนึกถึงความสัมพันธ์ 人間関係を考えるべき	ไม่ต้องกลัวการประเมินงาน (業務評価を気にしなくてよい)			
		อยากให้อัดเงิน (はつきりさせたい)			
	รู้จักกันกับเจ้านายคนไทยนาน มาก タイ人上司とは長い付き合い	ต้องทำงานกับเจ้านาย (一緒に働かなければならない)	เมเนเจอร์ใกล้ชิดกับกว่า ลูกค้า (顧客よりも上司の方が身近)		
	ตีความคนไทยพูด 上司の考えを自分で察する	การตอบรับ(上司の反応)		ไม่ยอมปรับตัว 注意しても聞き入れない	เจ้าของร้านมาดุนรังขึ้น (店主の反応)
					ไม่รับผิดชอบความเสียหาย (損害賠償はしなかった)
					โกรธนาน(怒りが長く続いた)
สรุป					อยากจะลืมไป (忘れてしまいたい)
		ทำให้ไม่คุยกัน (話しくなくなった)		พยายามหาวิธีแก้ไขปัญห 問題解決の方法をさがす	
	ไม่พอใจกับเจ้านายคนไทย タイ人上司の表現への不満	แสดงออกความไม่พอใจไม่ได้ (不満を表示してはいけない)			
		ต้องทำงานกับเจ้านาย (相手によって表現を変えるべき)			ซ่อมบ้านเอง(自分で修理する)

	1-6	1-7	1-8	1-9
状況	เจ้านายบอกว่าทำเรื่องโบนัสให้ (上司がボーナスを何とかしてあげると言った)	เพื่อนร่วมงานชอบเมา (同僚がおしゃべりすぎる)	คนแท็กซี่ดำในหลวง タクシー運転手が王様の悪口を言う	มอเตอร์ไซค์ย่นำลายแล้ววิ่งมาโดนแท็กซี่ (バイクタクシー運転手が吐いた唾が自分の乗ったタクシー)
	เจ้านายลืมสัญญา (上司が約束を忘れた)		เพราะเคารพในหลวง 王様を尊敬している	
			เราขังไม่ได้許せない	รู้สึกจน(むっとする)
行為/ 相互行為	เงียบ(黙った)	ยิ้มทั้งที่รู้สึกโกรธมาก (怒っても笑っている)	ทำเฉยๆ普段通り	บันทึกคนขับรถแท็กซี่ (タクシー運転手に文句を言う)
			เล่าให้พี่ทำงานฟัง 後で同僚に話す	
	ไม่อยากทำร้ายความรู้สึก (感情を書したくない)	เพราะชอบเพื่อนร่วมงาน (同僚のことは好きだから)	ต้องกลับบ้าน 家に帰らなければならない	
	เมื่อที่ถูกนินทาหลังหลัง (陰口をいわれるのにうんざり)			
	ต้องทำงานด้วยกัน (一緒に働かなければいけない)	ถ้าไม่ใช่เป็นเพื่อนร่วมงานแล้ว จะค่อยๆตัดออกไป (同僚じゃなくなったら、つきあいをやめる)		ไม่เจอกันนาน (ずっと会う人ではない)
		เพื่อนคิดว่าเราไม่โกรธ (相手は怒っていることに気付いていない)		
สรุป	การที่เงียบทำให้ฉัดฉาน (沈黙によるうっぶん)			
	ระบายกับเพื่อนทาง facebook(เฟซบุ๊กで友 達にうっぶん晴らし)			
สรุป		ทำให้เมามากขึ้น (おしゃべりをやめない)		
	ความเงียบดีที่สุด (黙っているのが一番)		พี่ที่ทำงานจะลงรถและต่ำกลับ 同僚はタクシーから飛び降りる	
	ได้ปรับตัว (うまく適応してきた)			

	2-1	2-2	2-3	2-4
状況	คนไทยผิดคำพูด (タイ人は口約束を守らない)	มารบกวนทำงาน (仕事の邪魔をする)	ลูกค้าเอาเปรียบเรา (客がいちやもんをつけて料金を返金させようとした)	ทำงานตลาดหุ้น (株取引の仕事)
	ไม่ซื่อสัตย์ (不誠実)	โกรธ (怒る)	ไม่ยอมให้อาณานิคม (客にはめられたくない)	
			โกรธลูกค้า (客に対して怒る)	
行為／ 相互行為	ทำหน้าเฉย (無表情になる)	ไม่สนใจ (無視する)	คุยกับด้วยเหตุผล (理論的に話す)	ใช้เหตุผลเพื่อแสดงความโกรธ (怒ったときは理論的に説明する)
	น้ำเสียงเรียบๆ (抑揚のない口調)	ทำอะไรกับผุ้ใหญ่ไม่ได้ (目上の人には何もできない)	พูดประชด (嫌味を言う)	ลูกค้าเอาเงินมาให้ (客は出資をしている)
	บอกเฉยๆว่าไม่ชอบ (ただ嫌だと言っ)	ใช้ทักษะควบคุมอารมณ์ (感情抑制力が必要)	ลูกค้าไม่พอใจ (客は不満に思う)	
	ให้รู้ว่าเค้าทำผิด (相手が間違っていることを自覚させる)	ไม่เข้าใจว่าโกรธ (相手は怒っていることに気付かない)	ลูกค้าจ่ายเงิน (客は金を払った)	
	บังคับเค้าไม่ได้ (相手に強要することはできない)	ออกไปแล้ว (出て行った)		
	ไม่สนใจความรู้สึกของอีกฝ่าย (相手にどう思われてもいい)			
	เข้าใจว่าเราโกรธ (相手は怒っていることを悟る)			
	ไม่ตอบอะไร (何も答えない)			
	เป็นคนที่ไม่แสดงอารมณ์โดยตรง (感情をストレートに出す性格)			
	แสดงแรงกว่ากับคนใกล้ชิด (親しい人に対してより強く感情を出す)			
歸結	บอกแล้วจบ (相手に言っでそれで終わり)	ติดต่อไม่ได้แล้ว (連絡しなくなった)	คนไทยโต้ตอบไม่ได้ (タイ人なら言い返せない)	แสดงความโกรธไม่ได้กับลูกค้า (客に怒りを出してはいけない)
	ต้องปรับบาลองในสังคมไทย (タイ社会では表現を弱くしなければならぬ)		พัฒนาเรื่องสิทธิของตัวเองมากขึ้นที่อเมริกา (アメリカで自分の権利を主張することを学んだ)	
	เปรียบกับคนที่ใกล้ชิด (あまり親しくない人に対しては黙っている)			
	แยกเรื่องงานและเรื่องส่วนตัว (仕事とプライベートは分けなければならぬ)			
	ต้องควบคุมอารมณ์ (感情を抑制しなければならぬ)			
	หาทางอธิบาย (感情のはけ口が必要になる)			

	2-5	2-6	2-7	2-8
状況	ระดับโกรธมากที่สุด (最高に怒ったとき)	ไม่ได้ช่วยตอนไม่สบาย (体調が良くないのに助けてくれなかった)	มีคนมาสาย (遅刻してきた)	นักเรียนนั่งเก้าอี้ครู (先生の椅子に座る生徒)
		ไม่ได้ทำตามคำพูด (口約束を守らない)		นักเรียนต้องต่ำกว่าครู (生徒は先生と対等ではない)
		คิดมากไปตอนไม่สบาย (体調が良くないので考えすぎる)		
行為／ 相互行為	ไม่แสดงอะไร (一切何も出さない)	ห่างออกมา (距離をおいた)	ปรับเวลานัด (約束の時間を変える)	สำหรับนักเรียนจะใช้น้ำเสียง (口調を変える)
	ทำหน้าเฉย (無表情)	ควบคุมอารมณ์ไม่ได้ (感情を抑えられない)	โกรธแล้วมีปัญหา (怒ったら問題になる)	พูดตรงๆว่าโกรธ (怒っていると言う)
	คนใกล้ชิดก็ไม่รู้ว่าโกรธ (親しい人も気づかない)	ไม่รู้ว่าเราโกรธ (相手は怒っていることを知らない)		พูดแบบธรรมดา (普通に話す)
		เป็นคนใกล้ชิดและเคารพ (親しい目上の人)		ต้องเลือกคำที่ใช้ (言い方を選ばなければならない)
		ลองคิดเหตุผลที่ไม่ได้ช่วย (もう一度なぜ助けてくれなかったのか考える)		ต้องสอนเรื่องลำดับชั้น (生徒に上下関係をおしえなければならない)
歸結	ตัดความสัมพันธ์ (付き合いをやめる)	ความหวังเราต้องเปลี่ยนตามคน (相手によって口約束をあてにしないでいいかどうか決める)	ยอมรับตัวตนของแต่ละคน (お互いを尊重する方法)	ลุกขึ้นทันที (生徒はすぐに立ち上がる)
	ถ้าเข้าใจเหตุผลโกรธหาย (理由があれば怒りもおさまる)			เรียบกับผู้ใหญ่ (目上の人には何も言わない)
				ไม่มีประโยชน์ในการพูดกับผู้ใหญ่ (目上の人に意見を言っても意味がない)
				เปลี่ยนความคิดผู้ใหญ่ไม่ได้ (目上の人とは考えを変えない)

	3-1	3-2	3-3
状況	ชี้แจงแล้วไม่ปรับปรุง (直すように注意する)	บอกแล้วยังทำผิด (言っても直さない)	บังคับให้ทำผิดขึ้นตอน (規定通りではないことを強制する)
	โกรธที่คนใกล้ชิดไม่ปรับปรุง (言っても直さないで怒る)	มีความคาดหวังกับที่บ้าน (家族には期待がある)	
	ไม่เกี่ยวกับสัญชาติ (国籍は関係ない)	ที่บ้านจะโกรธมากกว่า (家族に対しての方が怒りを強く感じる)	
	รู้สึกโกรธ(怒る)		
行為／ 相互行為	ไม่แสดงความรู้สึกกับคนที่ไม่มีส่วน เกี่ยวข้องกับเรา (自分とつきあいがいい人には怒りを出さない)	เงียบสักวันสองวัน (二三日黙り込む)	ใช้ความอดทนและอธิบาย (我慢して説明する)
	บางทีอยากให้เราโกรธ (相手に怒っていることをわからせたい時もある)	กลัวพูดไปไม่ได้ตั้งใจ (不用意な発言をしてしまうことを恐れる)	ต้องทำงานด้วยจิตใจบริการ (サービス精神をもって仕事をしなければいけない)
	น้ำเสียงเปลี่ยนเท่านั้น (口調が変わるだけ)	ต้องคิดก่อนว่าพูดอย่างไร (何を言うか前もって考えなければならぬ)	เพื่อนร่วมงานเคยเสียงดังแล้ว ไม่ได้ดีขึ้น (同僚が大声を出して状況が悪くなった)
	เป็นการอธิบายให้ปรับปรุง (直すように説得する)	นำวิธีการแสดงของแม่มาใช้ (母親の表出方法を取り入れた)	ครูที่เป็นตะวันตกมาช่วย (西洋人の先生が助け船を出す)
	คนใกล้ชิดจะสงสัยว่าโกรธ (親しい人なら怒っていることに気付く)	สามีสงสัยว่าเราโกรธแล้วมาถาม (夫は私が怒っていることに気付いて聞いてくる)	พ่อแม่รู้สึกดีขึ้น (両親の気持ちがおさまる)
	ไม่เกี่ยวกับสัญชาติ (国籍に關係ない)	อธิบายเหตุผลที่โกรธ (怒っている原因を話す)	
		ที่บ้านเรารู้จักกันดี (家族はお互いのことをよく知っている)	
		แสดงเหมือนกันที่บ้านและที่ ทำงาน (職場でも家庭でも表現は同じ)	
归结		เห็นว่าความเงียบเป็นการแก้ไขที่ดี (沈黙が最良の解決方法)	ความพยายามของเราทำให้ลด ปัญหาในอนาคต (努力することによって将来問題が起らなくなる)

	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5
状況	ลูกน้องไม่ได้ทำตามคำสั่ง (部下が指示通りに仕事をしない)	เจ้านายอดัดรุ่นน้องมาว่ามาอย่างอะไร (元部下が何を邪魔しに来たんだと言った)	เห็นไม่เหมือนกับภรรยา (妻と意見が対立)	ไม่โกรธในใจ (心の中では怒っていない)	ไปซื้อของที่ต่างประเทศแต่ทอนไม่ถูก (海外で買い物をしたらおつりが間違っていた)
	มีความรู้สึกว่ามีอำนาจเหนือกว่า (自分の方が権力があると感じている)	ไม่ควรทำกับคนที่อาวุโสกว่า (目上の人に言うことではない)	ไม่มีความไม่พอใจรุนแรง (それほど強く不満に思うわけではない)		มีอาการโกรธเหมือนกันกับคนต่างชาติ (外国人と同じ様に怒りを感じた)
	ขึ้นอยู่กับพื้นฐานอารมณ์ (その時の気分にもよる)	รู้สึกโกรธจนมีจذب (怒りが今でもおさまらない)			
	รู้สึกโกรธง่ายกว่าคนที่บ้าน (家族に対しての方が怒りやすい)				
行為／ 相互行為	ใช้วิธีการคุยกัน(話し合う)	โต้ตอบด้วยคำพูด (言葉で言い返した)	อยู่เฉยๆ(何もしない)	ไม่โกรธแต่แสดงความโกรธกับผู้น้อยกว่า (怒っていないが目下の人に対して怒ったふりをする)	ไม่ได้แสดงความโกรธ (怒りを表しなかった)
	ต้องให้รู้ว่าควรจะทำอย่างไร (何をすべきなのかを理解させる)	ต้องการให้รู้ว่าไม่พอใจ (不満に感じたことを知らせなければいけない)	ให้เวลาค่อยๆทำให้เราเย็นลง (気持ちが落ち着いてから話し合う)	กลัวผู้น้อยไม่กลัวเรา (自分を恐れなくなってしまうようにする)	พยายามมองในแง่ดี (プラスに考えるよう努力した)
		เฉยๆ ไม่ได้ขอโทษ (無視して謝らない)	ต้องคุยกันกับคนใกล้ชิด (親しい人とは話さなければならぬ)	เปลี่ยนวิธีการแสดงตามสถานการณ์ (相手の状況によってやり方を変える)	การโต้ตอบแรงไปจะมีผลเสีย (強く言い返しても悪い結果になるだけ)
			ต้องเข้าใจเหตุผลที่ควบคุมอารมณ์ไม่ได้ (なぜ感情を抑制できないのか理由を理解しなければならない)		
			ต้องรักษาสัมพันธของคนในบ้านและคนใกล้ชิด (家族や親しい人とは人間関係を維持しなければならない)		
归结	ไม่แสดงโกรธชัดเจนกับคนที่ระดับใกล้เคียง หรือผู้เหนือกว่า (同レベルや地位が上の人には怒りをはっきりと表さない)	คุยกันไม่เหมือนเดิม (前のように話をしなくなった)	เป็นวิธีการที่ได้ผล (最もよい対処方法である)		
		พร้อมที่จะให้อภัยถ้าคำมาขอโทษ (相手が謝れば許すつもりではある)	เรียนรู้ตามประสบการณ์ (経験によって学んだ)		

	5-1	5-2
状況	โกรธเรื่องเล็กๆ(さいなことで怒った)	ลูกน้องมาแจ้งหลังเดทไลน์ (システム改修を実施することを部下は締切のあとに知らせてきた)
		ต้องแจ้งล่วงหน้าเพื่อเตรียมงานได้ (準備するために事前に連絡しなければならぬ)
		โกรธลูกน้องที่ยอมรับโอที (部下とITの両方に怒った)
		โกรธ(怒った)
行為／ 相互行為	พูดตรงไปตรงมากับน้องชาย (弟にはダイレクトな言い方をした)	เดินไปโวยกับลูกน้องและโอที (部下とITのところに言って大声で文句を言った)
		คุยกันเพื่อหาจุดร่วมกัน (お互いの妥協点を話し合った)
		โอทีให้เวลาเตรียมตัววันถึง (ITは準備の時間を1日くれた)
		ลูกน้องเข้าใจประเด็นผิด (部下は問題点を把握していない)
帰結	ไม่ได้พูดกันเป็น3-4ปี (3-4年口をきかなかった)	พอใจกับผลที่ได้ส่งไวยวาย (文句を言ったことによって得た結果に満足している)
	ความที่ไม่คุยกันทำให้เกิดความเข้าใจผิด (話し合いをしなかったために誤解がうまれた)	ปัญหาแบบเดียวกันจะไม่เกิดขึ้นอีกแล้ว (同じような問題は二度と起こらない)
	รู้สึกผิดที่ไม่ได้คุยกันด้วยเรื่องเล็กๆ (話し合えなかったことは間違っていた)	
	พ่อแม่เสียก่อนเลยต้องช่วยกันกับพี่น้อง (両親や兄が先に亡くなって弟と助け合わなければならない)	
	เรียนรู้จากความผิดพลาดในอดีต (過去の経験から学んだ)	
	ทำให้เปิดใจกันมากขึ้น (お互いに心を割って話し合うようになった)	

	6-1	6-2
状況	มีคนไม่เข้าคิวขึ้นแท็กซี่ (列に並ばずにタクシーに乗ってしまう)	ทางคนที่ขายส่งทางผิด (間違って船便で商品を発送する)
	ไม่ชอบพฤติกรรมที่เห็นแก่ตัว (自分勝手な行動)	บริษัทได้รับความเสียหาย (商品が遅れて生産ができず会社に損失が出る)
	โกรธแทนคนอื่น (並んでいる他の人に代わって怒る)	
行為／ 相互行為	เรียกถามว่าทำไม (呼び止めてなぜかと聞く)	เราพูดด้วยเหตุผล (理由を言ってクレームを言う)
	คุยกับคนข้างๆ (回りにいる人と話をする)	ปรึกษากับเจ้านาย (上司に相談する)
	อยากให้มีความเป็นระเบียบในสังคมไทย (タイ社会も規律正しくなしてほしい)	ต้องขาดเงินของคนที่ขาย (賠償金を請求する)
	ปกป้องสิทธิ (自分の権利を守りたい)	พยายามขอโทษ (相手は一生懸命謝る)
	รู้สึกอายและเดินหนีไป (恥ずかしくて行ってしまふ)	เป็นลูกค้าใหญ่และมีทางเลือก (大口顧客で他に業者を変えることもできる)
帰結	เมืองไทยสบายแต่ไม่มีระเบียบ (タイは暮らしやすいが規律がない)	พยายามไม่ให้เกิดอีก (次回は間違わないよう注意を喚起する)
	ญี่ปุ่นไม่เหมือนไทย (日本はタイとは違う)	ผิดบ่อยครั้งแล้วใจใจไม่ได้ (何度も間違えようだともう信用しない)
	สมัยเด็กไม่กล้าเรียก (子供のころは呼び止めたりできなかった)	
	ได้รับวัฒนธรรมญี่ปุ่น (日本の文化が身についた)	
	การทิ้งขยะไม่มีผลกระทบต่อเราเลยไม่เรียก (ごみのポイ捨ては自分に害がないので何も言わない)	

	7-1	7-2	7-3	7-4	7-5
状況	ไม่เข้าใจสิ่งที่เราแปลให้ (通訳したことを理解できない)	อยากให้แฟนลดน้ำหนัก (彼にやせてほしいが聞い てくれない)	แฟนเอาขาขึ้นตรงพระ (ドイツ人の彼が仏像のそ ばに足を置く)	อธิบายเหตุผลที่สินค้าไม่ ครบ (上司に商品がまだ全部で きていないことを説明する)	คนมาแทรกคิวจ่ายเงิน (会計の列に横入りされ た)
	เกิดอารมณ์ฉุนเฉียวนิดนึง (少しむっとする)	อยากให้เขาเปลี่ยน (彼を変えたい)	แฟนไม่นับถือศาสนาพุทธ (彼は仏教を信仰していな い)	คนญี่ปุ่นไม่เข้าใจสิ่งที่เรา พยายามอธิบาย (日本人上司は自分が説 明しようとしていることが理 解できない)	ไม่อยากให้เอาเปรียบ (ずるいことをされたくない)
		ฉุนไปเลย (すぐにむっとする)	โมโหเต็มที่(目一杯怒る)	เจอสถานการณ์ที่ไม่เข้าใจ กันมួយ (日本人とタイ人はお互い に理解しあえないことが多 い)	
行為／ 相互行為	กำมือ(こぶしを握る)	เดินหนีไม่พูดสักพัก (その場を離れてしばらく話 をしない)	แสดงออกสีหน้าไปหมด (思い切り表情に出す)	ไม่พูดสักพักกับทั้งเจ้านาย และลูกน้อง (しばらく誰とも話さない)	สีหน้ากับสายตาไปแล้ว (表情やまなざしに出る)
	เจียนไป(黙り込む)	ให้รู้ว่าเราโกรธ (自分が怒っていることを 分からせたい)	เอาขาลงไปและพูดว่า ไม่ได้ (彼の足を下してしてはい けなと云う)	น้ำเสียงห้วนๆ (ぶっきらぼうな話し方にな る)	ด่าด้วยสายตา (まなざしで非難する)
	สีหน้าออก(表情に出る)	สงบจิตใจตัวเอง (自分の心を落ち着ける)	ไม่พูดอะไร(黙り込む)	กำมือ(こぶしを握る)	คิดในใจ (心の中で不服に思う)
	กลัวว่าทำให้เกิดผิดใจกัน (仲たがいを恐れる)	แฟนรู้ว่าเราโกรธ (彼は私が怒っていること に気付く)	แสดงให้เห็นว่าโกรธ (自分が怒っていることを 示す)	ให้เจ้านายรู้ว่าเราโกรธ (上司に怒っていることを知 らせたい)	เขยิบเข้าไปใกล้ๆเพื่อไม่ให้ เขา (前の人に近づいて横入り させないようにする)
	แสดงเหมือนกันกับคนไทย และคนญี่ปุ่น (タイ人に対しても日本人 に対しても同じようにする)	แฟนเรียกเราใหม่ (彼からまた通話してくる)	แฟนเห็นว่าเราโกรธ (彼は私が怒ったことが分 かる)	เจ้านายง (上司はなぜだかわからな い)	
			ขอโทษ(彼が謝る)	คนญี่ปุ่นต้องปรับตัว (日本人はタイの文化に適 応しなければならない)	
				เหมือนเข้าข้างคนไทย (タイ人の味方をする)	
				เราควรอ่อนลง (自分が折れなければなら ない)	
				เพื่อแก้ไขสถานการณ์ (状況をよくするため)	
帰結		เปลี่ยนเขาไม่ได้ (彼を変えることはできな い)	ถ้าหลุดทำอีกจะโกรธ กว่าเดิม (次にやったらもつと怒る)	ถ้ามีงานเข้าก็จะเริ่มคุยอีก (仕事きたらまた上司と 話す)	
			มีเจตนาที่หยอกเรา (自分をからかおうという気 持ちでやるから)	ยังโกรธอยู่ (まだ怒りがおさまらない)	
				แรกๆโทษตัวมากกว่า (最初は自分が悪いと思っ て謝った)	

	8-1	8-2	8-3
状況	อยู่ดีๆ โดนเรียกให้ไปประชุม 突然会議に呼ばれる	ยุ่งุ่นวายเรื่องของเรา 個人的なことに文句をつける	มีปัญหาเรื่องการใช้คำแปล 訳語の使い方でのくいちがい
	อยากจัดการเวลา時間管理したい		
	จนเฉียวในใจ内心むっとする	โกรธจัดเต็ม完全に怒る	
行為／ 相互行為	ถามว่าทำไมไม่ทำอะไรสักอย่าง	เรียกคุย呼び出して話す	
	เสียงแข็ง固い口調	มีเพื่อนสนิทไปด้วย 仲のいい友達に立ち会ってもらう	
	หน้าจะนิ่ง無表情になる		
	คนญี่ปุ่นจะมอง日本人はじっと見る	ร้องไห้泣く	
		ขอโทษ謝る	
帰結		ต่างคนต่างอยู่お互い関わらない	
			แสดงออกความโกรธกับคนอาวุโสกว่า ไม่ได้ 目上の人に怒りを表すことはできない

	8-4	8-5	8-6
狀況	ไม่แจ้งให้รู้เรื่องเวลา時間を知らせない	คนไม่รู้จักมาจอดรถขวางเรา 他人が前に駐車して出られない	ข่าวที่ปล่อยแม่แก่ๆ 年取った母親を放置するニュースを聞く
	มีหน้าที่แปล自分の業務に影響	อยากกลับบ้านเร็ว早く家に帰りたい	แม่เลี้ยงลูกแล้วลูกต้องเลี้ยงแม่ 自分を育てた母親の世話をすべき
		เห็นแก่ตัว自分勝手な行動	เข้าใจความรู้สึกของคนแก่ 老人への同情
		ไม่พอใจ不満に思う	รู้สึกหงุดหงิดイライラした気持ち
行為／ 相互行為	ไปถามเลย訳を聞く	พยายามออก何とか出ようと努力	พูดกับแม่母親と話す
	ออกทางสีหน้าและคำพูด 表情と口調に出る	แอบอ่านไปที่คนอื่นคิดว่าเขา 他にも文句を言っているひとがいることを確認	
	ให้น้องรู้เอง 後輩に怒っていることを分らせる		
	น้องเค้าขอโทษ後輩は謝る		
歸結		พอออกได้แล้วรู้สึกเฉยๆ 出られたので何とも思わなくなる	

	9-1	9-2	9-3	9-4	9-5
状況	โดนเพื่อนร่วมงานใส่ร้ายกับนักเรียน (同僚が生徒に悪口を吹き込んだ)	มีปัญหาทั้งหน้า (上司と問題)	เดือนแล้วแต่นักเรียนยังเข้าห้องสาย (注意したのに生徒が遅刻してくる)	พอเอารถไปตอนที่เราออกไปข้างนอก (出かけようしたら父親が車で出かけてしまった)	จ่ายเงินแล้วแต่แม่ค้านอกว่ายังไม่รับ (市場の商人にお金を払ったのにまだもらってないと言われた)
	ทนไม่ไหว(我慢できない)	ต้องรักษาสติตัวเอง (自分の権利を守らなければならない)	โมโหกับนักเรียน (生徒に対して怒る)		บ่นขึ้นด้วยสิ่งที่กระทบ (何か原因があるから気が狂ったように怒る)
行為／ 相互行為	คุยกันแรงๆโดยตรง (直接きつく言う)	เถียงกัน(口論になる)	ชี้หน้าว่านักเรียนต่อหน้าคนอื่น (他の生徒の前で顔を指さして叱る)	โทรไปว่าพ่อ (電話をかけて文句を言う)	อาละวาดในตลาด (市場で暴れた)
	ออกสีหน้าและน้ำเสียง (表情や口調に出る)	ออกสีหน้าและน้ำเสียง (表情や口調に出る)	ดุด่านักเรียนเพราะเครียด (深刻にとらえて生徒を叱る)	อยากให้พ่อรู้ว่าไม่พอใจ (父親に不満だということを分かせてたい)	โยนของแหลมค้ำ (物を商人に投げつけた)
	เพื่อนร่วมงานพูดจกกัด (同僚は遠回しな言い方をして認めない)	ไม่แสดงออกกับผู้มีปัญหานี้ (上司にはあまり表出しない)	เด็กอายุเพื่อน (生徒は友達の前で恥ずかしい思いをする)	ต้องระบายอารมณ์ (感情を吐き出さなければならない)	ขอให้คนในตลาดเป็นพยาน (他の市場の客に証人になってほしかった)
	บอกหัวหน้าหมวด (グループ長に訴える)	เพราะรักษาความสัมพันธ์ภาพ (人間関係を維持する)	ช่วงแรกๆโดนนักเรียนด่าบนกระดาน (生徒から黒板に要求を書かれた)		เป็นการทำบุญ (悪事を他人に知らせることが善意である)
	เพื่อนร่วมงานปฏิเสธโดยพูดดีๆ (同僚はうまく言って事実とは認めない)	รู้ตัวว่าโกรธง่าย (自分が怒りやすいと自覚している)	โดนหัวหน้าเตือน (上司に注意された)		ทุกคนไปแตกดิน (みんな我先に逃げていった)
	การทำอะไรกับเพื่อนร่วมงานไม่ได้ ทำให้เรารู้สึกอึดอัด (同僚に対して何もできないので息が詰まりそうに感じる)		หัวหน้ากลัวนักเรียนไปบอกผู้ปกครอง (上司は生徒が保護者に言いつけるのを恐れた)		
	เพื่อนร่วมงานบอกว่าเรา (同僚は私より先輩である)		ยอมรับหัวหน้าเตือน (上司の言うことは正しいと認める)		
归结	เพื่อนร่วมงานลาออกแล้ว (同僚は退職した)	การแสดงออกอารมณ์โกรธทำให้ดูไม่ดี (怒りをあらわにすることはみっともない)	อาจารย์ประจำต่องทำงานนาน (常勤の講師は長く働かなければならない)	พูดกับแม่ก็รู้สึกดีขึ้น (母親に話して気分が晴れた)	ไม่ได้คืนเงิน (結局返金してもらえなかった)
	ยังโกรธอยู่ (今でも怒っている)		เปลี่ยนแนวการแสดงออก (叱り方を変えてみた)	รู้สึกผิดกับตัวเอง (自分にも悪いところはあった)	โมโหมากไปแต่แต่เสีย (怒りすぎて損しかかった)
			เด็กยอมรับเรามากขึ้น (生徒から受け入れられるようになった)		ไม่ได้ผ่านหน้าร้านหลังจากนั้น (その後店の前を通ることはなかった)
					ร้านปิดไปหลังจากเหตุการณ์ (店は店じまいしてしまった)
					คุยกันกับแม่ค้าและให้เช็คใหม่ (お店の人にきちんと説明して確認させるべきだった)

	16-1	16-2	16-3	16-4
狀況	ไม่เคารพสิทธิของเขา (權利を尊重してくれない)	ลูกค้าโยนความผิดให้กับเรา (顧客に罪をなすりつけられる)	เดินมาว่าเรา(同様に文句を言われる)	
	รู้สึกไม่พอใจ(不満に思う)	จริงๆแล้วโกรธอยู่ (本当は怒っている)	โมโหเต็มที(目一杯怒る)	
	หน้าจะผ่าวๆ(顔がほてってくる)			
行為／ 相互行為	พูดเชิงปกป้องตนเอง (自己弁護するような話し方)	มีเทคนิคที่ควบคุมอารมณ์ (感情を抑制する)	ตอบโต้กลับได้ทันที(すぐ言い返す)	เงียบ(黙る)
	หน้าเสียงแข็งขึ้น(キツイ口調になる)		ไม่มีการควบคุมอารมณ์ (感情を抑制しない)	แสดงอารมณ์โกรธในทางอ้อม (間接的な怒りの表出)
			ว่าคนที่อายุห่างกัน (年上の人にも文句をいう)	หน้าตายมึนแ่ม (顔はにこにこしている)
				มีการต่อต้าน(相手に抵抗する)
	แสดงออกความโกรธได้ (怒りを表してもよい)	ต้องเก็บอารมณ์กับลูกค้า (顧客には感情を抑えなければならぬ)	แสดงออกตรงๆที่บริษัทอเมริกัน (アメリカ企業ではストレートに出す)	ให้รู้ว่ามีโมโห (不満であることを知らせる)
			เรียนรู้วิธีการแสดง (表出方法を学習してきた)	เรียนรู้ว่าแสดงอารมณ์ตรงๆ ไม่ได้
	อยากให้คนที่ทำให้เขาโกรธว่าทำผิด (自分を怒らせた人に自覚させたい)	รู้เงื่อนไขในการทำงาน (就業上の条件を知っている)	ฟังคนที่ใช้คำหยาบคายได้ (粗悪な言葉づかいの人は訴えることがで	อยู่ในระบบอาวุโสในองค์กรไทย (タイの会社は上下社会)
				ไม่เข้าใจโกรธเรื่องอะไร (なぜ怒っているのかわからない)
	เป็นคนจริงจังไปตรงมา (ストレートな性格)			
掃結			ชี้แจงเต็มที่แล้วจบไป (目一杯文句を言っておしまい)	มีผลกระทบนาน (長くしこりができる)
				ขัดขาตัวเอง(足を引っ張りあう)
	การแสดงออกความโกรธมากเกินไป ดูสภาพ (怒りを表出しすぎるのは失礼)		ทุกคนรู้แล้วว่าไม่ควรแสดงอารมณ์ (みんな怒りを表さない方がいいことは分かっている)	ไม่ปลอดภัย(安心できない)
			รู้สึกผ่อนคลายกว่า(気分が楽)	
			บอกดีหรือแย่ไม่ได้ (どちらがいいとは言えない)	

	16-5	16-6	16-7	16-8
状況		ที่บ้านมีความขัดแย้ง (家庭内での対立)		แฟนเก่ามาติดต่อน(夫が元カノと会った)
			รู้แล้วว่าโกรธแล้วยอมรับเอาอยู่ (怒っても夫は受け入れてくれる)	แฟนไม่ควรเจอแฟนเก่าโดยไม่บอกเรา (妻に黙って元カノに会うべきではない)
		เสียเวลาไม่พอใจตอนเด็ก (子供の頃は不満に思っ言い返した)	อารมณ์ไวมากกับแฟน (夫に対してはとても感情的になる)	ไม่พร้อมที่จะฟัง (夫の言い訳を聞く余裕がない)
			เองเราไม่ยอมลง (エゴが邪魔して怒りがおさまらない)	
			ไม่สามารถควบคุมอารมณ์ได้ (感情を抑制できない)	
行為／ 相互行為		อธิบายเหตุผล(理由を説明した)		โวยวายเสียงดัง(大声で文句を言う)
				ผลักแฟนออก(夫を遠ざけた)
		รู้สึกไม่ได้เสีย (反論したとは思わなかった)		ต้องแสดงความโกรธให้แฟนเห็น (怒っていることを夫にわからせなければならぬ)
	รับอารมณ์แรง (激しい感情を受け止める)	ผู้ใหญ่บอกว่าห้ามเถียง (大人に反論してはいけないと言われ)	แฟนเป็นคนใจเย็น (夫は落ち着いた性格)	แฟนพยายามอธิบาย (夫は必死で言い訳する)
	ร้องคนเดียว(一人で泣いた)		แฟนเป็นฝ่ายลงความโกรธ (夫が先に怒りがおさまる)	แฟนมาขอโทษหลังจากเราลง (気持ちが落ち着いたところ夫が謝りにく)
		สร้างทางลงให้เรา (私が落ち着くように道筋をつけてもらう)		แฟนคิดว่าขอโทษแล้วจบ (夫は謝れば済むと思っている)
				แฟนงงว่าทำไมขอโทษแล้วโกรธ (夫は謝ったのに私がまだ怒っているのか理解できない)
				ทำให้เป็นเรื่องตลก(ふざけて笑わせる)
			เขาลงตาม (夫が落ち着いたら自分も落ち着く)	รู้สึกที่แฟนไม่ได้ขอโทษจริง (心から謝っているように感じられない)
				ความโกรธหายไปเอง (自然に怒りがおさまる)
			บอกแฟนไว้ว่าเราจะพัฒนาความ โกรธอย่างไม่ให้หยุดได้ (夫に私は怒りだしたら止まらなないと)	
帰結			มีการปรับเปลี่ยนพฤติกรรมมาก (付き合い始めとずいぶん行動が変化した)	ได้เรียนรู้จากประสบการณ์ที่ผ่านมา (過去のケンカの経験から学んだ)
				รูปแบบการทะเลาะก็เปลี่ยนมา (ケンカの仕方に変化してきた)
	ไม่เห็นการแสดงออกรุนแรงมาก (強い感情表出を見たことがない)	การอธิบายเป็นการเถียงสำหรับเด็ก (子供が説明することは反論)		การทำเลาะกันทำให้เสียเวลา (ケンカしたって時間が無駄なだけ)
	ไม่ชินกับวิธีแบบอเมริกัน (アメリカ的なやり方には慣れていな)		ผู้ชายบางคนไม่ชอบบ๊อ (自分から仲直りしがらない男性も)	

	16-9	16-10	16-11
状況	ไฟฟ้าโดนตัด (夫が電気を払わなかったので家の電気が止められた)	engineer สั่งงานฉันเดียวกับเขาและลูกค้า (同僚が自分と顧客に同じ仕事を指示した)	ไม่ยอมรับคนที่ไม่ต่อคิว (列に並ばない人は許せない)
		ไม่ให้เกียรติเขาและลูกค้า (自分と顧客に敬意を払っていない)	
		ใช้ลูกค้ามาทำงานให้ตัวเองไม่ได้ (顧客に仕事を指示してはいけない)	
		โกรธแรงมาก(激烈に怒った)	ไม่ได้โกรธมาก (すごく怒るわけではない)
行為／ 相互行為	แกล้งแสดงความโกรธ (わざと怒ったふりをする)	ไปที่โต๊ะคุย (相手のデスクに行って話をした)	เชิญออก(出て行くように言う)
	การพูดที่ไม่ทำให้แฟนรู้สึกว่าคุณต้องทำ (やさしく言っても言う通りにしない)	แสดงความโกรธเต็มที่ (目一杯怒りを表現した)	พูดปกติแต่เสียงดัง (普通の言い方だが大きな声になる)
		ใช้ ^๕ น้ำเสียงดัง(大声を出した)	
		ปกติengineer ก็แรงกับเขา (普段はきつい性格)	
	แสดงความโกรธเพื่อ ^๕ ให้แฟน ^๕ รู้สึก (夫に分からせるために怒りを出す)		ให้ ^๕ รู้สึกว่าคุณต้องออกไป (列に並ばなければいけないと感じさせる)
	โกรธเพื่อ ^๕ สร้างการเปลี่ยนแปลง (変化を起 ^๕ こすために怒る)		ฟ้องคนรอบข้าง (周りの人にも訴える)
		บ่น ^๕ เรื่อยๆไม่ได้ตั้งใจ (そんなつもりじゃないとごまかす)	
		engineer น้ำตาคลอ(同僚は涙を浮かべた)	
		น้ำตาคลอเพราะเป็นช่วงที่มีปัญหา ครอบครัว	
		ตกใจที่น้ำตาคลอ(泣かれてびっくりした)	
		ความโกรธลงทันที(すぐに怒りがおさまった)	
			มีคนขอ จะให้เข้า (入れてほしいと頼まれれば許す)
	โกรธง่ายกับแฟน (夫に対してよく怒る)		
	ไม่ได้โกรธทุกคน (誰にでも怒るわけではない)		
掃結		เข้าใจกันแล้วจบ (お互いわかればそれでおしまい)	
		ไม่ ^๕ รู้ความรู้สึกจริง(相手の本心はわからない)	
		มาทำอะไรก็ไม่เกี่ยวกับเขา (陰で何を言っても関係ない)	
			สังคมไทยจะยอมรับคนแรงคิว (タイ社会では横入りを許してしまう人が多い)
			จะได้ผล(効果のあるやり方)
		พยายามไม่ให้เสียงดังอีก (大声を出さないよう気をつけている)	

	24-1	24-2	24-3	24-4	24-5
狀況	เบียดขวางคัดหน้าเรา (無理な割り込み運転)	ผู้ใหญ่ให้เด็กไปซื้อยาโด่ง (子供に酒を買いに行かせる)	มีเรื่องขัดแย้ง(意見の対立)	ให้ลูกทำแล้วทำไม่ได้ (子供が言うことをきかない)	มีความคิดที่แตกต่าง (考え方の違い)
	โกรธกับคนที่เห็นแก่ตัว (自分勝手な人に怒り)	ผู้ใหญ่ก็ผิด (大人も間違ったことをする)			
	รู้สึกหงุดหงิด(イライラする)			หงุดหงิดกับลูก(イライラする)	หงุดหงิดกับเจ้านาย (上司にイライラする)
行為／ 相互行為	บีบแตรไล่(クラクションを鳴らす)	คิดในใจ(心の中で思う)	เดินหนี(その場から立ち去る)	มีตัวดมีตะคอก(子供を怒鳴る)	พูดดีกว่าเงียบ (黙ってないで話し合う)
	บ่นนิดหน่อย(文句を言う)		เย็นแล้วค่อยคุยกัน (落ち着いてから話し合う)		เสียงดังโดยธรรมชาติ (自然に声が大きくなる)
					ไม่ควบคุมสีหน้า (表情は意識していない)
					ให้เจ้านายอธิบาย (まず上司の理由を聞く)
					อธิบายเหตุผลของตัวเอง (自分の理由を説明する)
	ให้รู้ว่ามีอีก (間違っていると知らせる)	เด็กต้องเชื่อฟังผู้ใหญ่ (子供は大人の言うことをきかなければならない)	ถ้าร้อนกันคุยไม่ได้ (怒っているときは話せない)	เสียงดังจะได้ผล (大きな声を出すと言ったを聞く)	เงียบแล้วไม่สบายใจ (黙っていても気分がよくない)
		ผู้ใหญ่พูดได้ (大人になったら意見を言える)	เรียนรู้จากเหตุการณ์ (過去の経験から学んだ)		
		เด็กกลัวโดนพ่อแม่ตี (親に殴られるのがこわい)			
	เลี้ยงลูกแบบว่าและตีเลย (怒ってなぐる育て方)		เป็นตัวของตัวเองกับครอบครัว (家族とは本音でいられる)		
			ภรรยาไม่ว่า(妻も分かっている)		
歸結	ให้เขาเข้า(前に割り込ませる)				
		ให้ลูกบอก (自分の子供には意見を言わせる)			

	24-6	24-7	24-8	24-9
状況	มีคนไม่เข้าคิว 列に並ばない	ชาวต่างชาติกอดคอกับพระพุทธรูป 外国人が仏像と肩を組んでいる	คนไทยกอดคอกับพระพุทธรูป タイ人が仏像と肩を組んでいる	มีคนสูบบุหรี่นอกพื้นที่ 大学構内の喫煙場所以外での喫煙
		ไม่ให้ความเคารพ 敬意がない	คนไทยน่าจะรู้ดีแต่ยังทำ (知ってて不敬な行動をする)	
		ไม่ชอบ 嫌な気分	ไม่พอใจ(嫌な気分)	
行為／ 相互行為	พูดให้ต่อคิว列に並ぶように言う	ต้องบอกเขา 相手に言う	ไม่เตือน(注意しない)	เดินไปเตือน行って注意する
			คำทางสายตา(目つきで非難する)	
			บอกเพื่อน(友達に言う)	
			ไม่ยอมมีปัญหา (問題を起こしたくない)	
帰結				

	32-1	32-2	32-3
状況	ผู้ปกครองไม่เชื่อเรา(保護者の苦情)	พ่อแม่ไม่ยอมให้เราเล่นกีฬา (スポーツをするを両親に文句を言われる)	มีคนมาแข่งคิวหรือเข้าคาน้ำ (運転中や列を並ぶときに横入りする人)
	ผู้ปกครองไม่เชื่อเรา (保護者が言うことをきいてくれない)		
	เป็นเรื่องที่ต้องเจอบ่อย(よくある問題)		
	โกรธกับผู้ปกครอง(保護者に対する怒り)		โกรธมาก(すごく怒る)
行為／ 相互行為	พยายามอธิบาย(一生懸命説明する)	เงียบ(黙る)	แสดงโดยไม่ใช้คำพูด(非言語で示す)
	พูดแบบห่างเหินมากขึ้น (話し方がよそよそしくなる)	รอยยิ้มเลิกละ (両親が文句を言わなくなるのを待つ)	
	ต้องเก็บกดอารมณ์ (感情を抑制しなければならぬ)		ไม่เข้าใจว่าเราโกรธ (相手に怒っていることを分からせる)
	เรียกคนที่มีความชำนาญ (責任者を呼んできて説明してもらう)		
	ผู้ปกครองไม่ยอมรับความผิดของลูก (子供の間違いを認めようしない保護者)		
	ผู้ปกครองไม่ฟังพนักงานระดับล่าง (下っ端の事務員の言うことを聞かない保護者)		
	ระบายความโกรธกับเพื่อนร่วมงาน (同僚に話して鬱憤ばらし)		
	อยากแชร์ประสบการณ์(経験を共有したい)		
帰結	มีวิธีจัดการ(対処方法がわかった)		
	เคยหงุดหงิดทั้งวัน(以前は一日中イライラした)		
	หายโกรธเร็วขึ้น (前よりも怒りが早くおさまるようになった)		

	33-1	33-2	33-3	33-4
状況	ไม่ยอมทำงานร่วมกัน (協力して仕事をしない)	ที่พ่อแม่พูดจิตใจตัวเอง (両親が自分に気に入らないことを言う)		
		อโมอยู่เฉยๆ (内心怒っている)		
行為／ 相互行為	ไม่พูด (何も言わない)	พูดคุยกเหตุผล (理由を言う)	พูดให้ต่อแถว (列に並ぶようにいう)	เตือนคนต่างชาติที่ทำพฤติกรรมไม่ เหมาะสมกับพระพุทธรูป (外国人が仏像に不適な態度を とったら注意する)
	ระบายความรู้สึกกับเพื่อนร่วมงาน (同僚に文句を言って発散する)	น้ำเสียงปกติ (普通の口調)	ไม่อยากให้อาแปรียบ (ずるをされたくない)	
		พูดสิ่งที่ไม่พอใจพูดในครอบครัว ได้ (家族では何か不満があれば 言ってもいい)		
		พ่อแม่ไม่ยอม (理由を言っても両親が納得しない)		
		ต้องเจียบ (それ以上は何も言わない)		
結果	ทำเอง (自分でやる)	เราต้องยอมรับฟังพ่อแม่ (両親の言う通りにしなければ ならない)		
		รู้สึกอึดอัด (気持ちに思う) โตขึ้นแล้วพ่อแม่รับฟังเรามากขึ้น (大きくなってからは両親も自分 の言うことを聞いてくれるよう になった)		

	33-5	33-6	33-7
状況	โกรธมากกว่าคนต่างชาติ (タイ人が仏像に不適な態度を とったら、外国人よりも怒る)	หงุดหงิดกับคนปาดหน้า (運転中に前に割り込まれるとイ ライする)	แสดงอารมณ์โกรธกับแฟนได้ มากกว่า (彼女に対しては怒りやすい)
	คนไทยรู้วัฒนธรรมและศาสนา (タイ人なら文化や宗教を理解し ている)		
行為／ 相互行為	เตือน (注意する)	ปล่อยตาม (そのまま行かせる)	เจียบ (黙る)
		บ่นกับตัวเอง (一人で文句を言う)	แฟนมาถามว่าทำไมไม่พอใจ (奥さんが何か気に入らないのか 聞いてくる)
		ถ้าไม่มีคนระบายจะรู้สึกโกรธมาก ขึ้น (誰かそばにいないと気分が晴れ ず、余計に怒る)	ตอบเหตุผลหรือไม่ขึ้นขึ้นอยู่กับ เหตุการณ์ (状況によって理由を答えたり答 えなかったり)
結果			

	34-1	34-2	34-3	34-4
状況	ครั้งแรกอธิบายกฎดีๆ (最初はやさしく規則を説明する)	พี่ชายไต่อะไรแล้วน้อยใจ (お兄さんが何かしらと不満に思う)	โกรธเรื่องการเรียนและเพื่อน (子供の勉強や友達のことと怒る)	ไม่เปิดไฟเสีย (曲がるときにライトを点けない)
	ต้องรักษากฎ (規則を守らなければならない)	รู้สึกเหมือนพ่อแม่ไม่รัก (両親に愛されてないように感じる)		โมโหมาก(すごく怒る)
行為／ 相互行為	นักศึกษาบางคนเตือนแล้ว เข้าใจ (注意してすぐに分かる生徒もいる)	หนีบ้านไปวัด (家から出て行ってお寺にいく)	คุยกับลูกว่าทำจริงหรือไม่ (本当にそうなのか子供に聞く)	ด่าใช้คำหยาบคาย (汚い言葉で罵る)
	นักศึกษาบางคนแสดงออก ไม่พอใจ (不満気な態度をする生徒もいる)	ไม่เอาเรื่องเดือดร้อนเข้าบ้าน (家の中にもめ事を持ち込みたくない)	ดีใจจนถึงม.ต้น (中学生まではぶった)	ไม่สนใจว่าเขาได้ยินหรือไม่ (相手に聞こえようと聞こえまいと構わない)
	นักศึกษาถูกลง (生徒に見下される)	เคยทะเลาะกับแม่แล้ว ร้องไห้แต่ไม่บ่อย (お母さんと喧嘩して泣いたこともある)		
	ไม่ยอมให้นักศึกษาถูกลง (生徒に見下されるのは許せない)	เป็นเด็กก้าวร้าว (攻撃的な子供だった)		
	ต้องพูดมากกว่าการเตือน (注意以上のことを言わなければならない)			
	ขอบัตรนักศึกษา (学生証を提示させる)			
	นักศึกษายังไม่ฟังก็จะถอยมา (学生がいうことを聞かなければ引き下がる)			
	เล่าให้อาจารย์ฟังด้วยความ โกรธ			
	ถ้าวุ่นกับนักศึกษาก็ผลเสีย (生徒と対立すると不利になる)			
歸結	บางคนกลับมาขอโทษ (後で謝りにくる生徒もいる)		เคยโมโหแล้วไม่มีประโยชน์ (怒ったけれども何もないことはなかった)	
	บอกว่าไม่เป็นไร (謝ればもういいよと言う)		ไม่ได้ดีหลังจบม.ต้น (中学を卒業したらぶたなくなった)	
	ตอนแรกจัดการเองไม่ได้ บอกอาจารย์เลย (最初は自分では対応できずすぐ先生に言った)		โตขึ้นแล้วคุยกันรู้เรื่อง (大きくなったら話して理解できる)	
	ปรับเปลี่ยนรูปแบบการเตือน ที่มีผลลัพท์มากกว่า (より効果のある注意の仕方に変えていった)		ตอนนี้โมโหแล้วต้องเก็บตัวไว้ (今は怒っても抑制しなければならない)	
	ให้เตือนกันเองในกลุ่มเพื่อน (友達同士でお互いに注意させる)		คุยกับแฟน(奥さんに話す)	

	34-5	34-6	34-7
狀況	มีเจตนาจะแข่ง (故意に横入りする)	รู้สึกไม่พอใจกับพฤติกรรมไม่ เหมาะสมของคนต่างชาติ (外国人の仏像に対する不 敬な態度に不満に思う)	คนไทยรู้ว่าต้องนับถือ (タイ人なら崇拝しなければ ならないと知っている)
			โกรธกับคนไทยมากกว่าคน ต่างชาติ (外国人よりもタイ人に対し ての方が怒る)
行為／ 相互行為	บอกให้ไปเข้าคิว (列に並ぶように言う)	ถ้าไม่มีคนเตือนแล้วเราต้อง ไปเอง (誰も注意する人がいなければ 自分で注意する)	ไปเตือนก่อน (まずは注意する)
	บอกเฉพาะผู้ชาย (男性にだけ言う)		ถ้าไม่เชื่อจะลงไม่ลงมือ (言っても聞かなければ手が 出る)
	ผู้หญิงจะอาย (女性は恥ずかしがる)		เราต้องการปกป้องสิ่งศักดิ์ สิทธิ์ของเรา (自分たちの神聖なものを守 らなければならない)
			ไม่สนใจว่าปัญหาที่หลัง (後でどんな問題が起こって もいい)
歸結	การพูดจะเหมือนการสอนให้ คนมีระเบียบขึ้น (注意をすることは規則正し くするように教えることと同 じ)	เป็นศาสนาเรา (自分たちの宗教である)	

	35-1	35-2	35-3	35-4
状況	เจ้านายได้รับคำสั่งให้เราทำไม่เหมือนเดิม (上司に今までと違うやり方で仕事をするように言われる)	มีมุมมองที่แตกต่างจากเพื่อน (友達と考え方が合わない)	มุมมองไม่เหมือนกันกับแฟน (奥さんと意見が合わない)	ไม่ควรแข่งคิว (列をぬかしてはいけない)
	พยายามอธิบายให้เจ้านายว่าทำงานไม่ได้ (そのやり方ではできないと説明しようとする)		โกรธบ้าง(怒るときもある)	
	เราเริ่มโตขึ้นแล้วล่ะพูด (自分は経験もあるので言える)			
	เจ้านายไม่ฟังและไม่ให้เราคิด (上司は自分のいうことを聞き入れず、そんなことは考えなくてもいいという)			
	ไม่มีความคิดที่จะสร้างสรรค์ (全く創造性がない)			
	ไม่พอใจที่เจ้านาย (上司に対して不満に思う)			
行為／ 相互行為	ยอมที่จะไม่พูด (もう何も話さない)	พูดความคิดตัวเองไป (自分の考えをいう)	เงียบทั้งช่วง (しばらく黙り込む)	ว่าเลย(すぐに文句をいう)
	พยายามเลี่ยงการปะทะกัน (できる限り衝突をさける)	พยายามเข้าใจเหตุผล (理由を理解しようとする)	พูดแล้วจะทะเลาะกัน (何か言ったらケンカになる)	น้ำเสียงห้วนๆ (ぶっきらぼうな口調)
	ทำงานตามคำสั่งของเจ้านาย (上司の言った通りに仕事をする)	พูดตรงๆได้ง่ายกว่ากับคนใกล้ชิด (親しい人に対してはストレートに言いやすい)	รู้สึกเป็นตัวของตัวเองกับแฟน (奥さんに対しては自分らしくいられる)	ให้รู้ที่ต้องต่อแถว (列に並ばなければならぬことをわからせる)
	เจ้านายอาวุโสกว่า (上司の方が目上である)	พูดด้วยเจตนาดี (善意でいう)	ต้องให้เกียรติกันกับแฟน (奥さんとは互いに尊重し合わなければならない)	
	คิดว่าไม่ใช่วิธีที่ดี (よいやり方であるとは思わない)			
帰結		ต้องเสียสละกันในคนหมู่มาก (たくさんの人として自分を犠牲にすることも学習した)	มีปัญหาเรื่องเดิม (また同じ問題が起こる)	
		เพื่อนรอบข้างยอมรับเรามากขึ้น (周囲の友達が自分を受け入れてくれるようになった)		

	35-5	35-6	35-7
状況	แม่ค้าไม่ตามคิวลูกค้า (レストランで後からオーダーした客に料理を先に出す)	รู้สึกไม่ดี (外国人が仏像に不敬な態度をとったらい気分がしない)	เป็นการเหยียบย่ำประเพณี (伝統を踏みこじる行為)
	เสียความรู้สึก (気分を害する)	อาจจะเป็นคนไม่สุภาพ (行儀の悪い人なのかもしれない)	คนไทยรู้ประเพณี (タイ人なら伝統文化を知っている)
			โกรธกับคนไทยมากกว่า (タイ人に対しての方が怒りが強い)
行為／ 相互行為	ว่าไม่เอาเลย (もう食べないと文句を言う)	อธิบายประเพณีไทยให้เค้า รู้ (タイの伝統文化を説明して理解してもらう)	บอกว่าไม่ได้ (そんなことをするなと言う)
	น้ำเสียงห้วนๆ (ぶっきらぼうな口調)		น้ำเสียงแข็งห้วน (硬くてぶっきらぼうな口調)
	แม่ค้าบอกว่าเดี๋ยวทำให้ (店の人はすぐに作りますという)		ต่อว่าครั้งเดียวและปล่อย (一度だけ言ってあとは放っておく)
			เป็นเรื่องของเค้า (相手の問題である)
歸結	ไม่กินแล้ว(もう食べない)		

	36-1	36-2	36-3
状況	พ่อไม่เลิกกินไข่ (父親が卵を食べるのをやめない)	แม่เป็นขี้บ่น (母親が文句ばかり言う)	หัวหน้าแบ่งงานไม่ยุติธรรม (上司の仕事の割り振りが不公平)
	พ่อต้องรักษาโรคเส้นเลือดในสมอง (父親は脳梗塞の治療中である)	เมื่อฟังแม่บ่นทุกวัน (毎日母親が文句を言うのにうんざり)	ทุกคนต้องทำงานเหมือนกัน (みんな同じように仕事をするべき)
	มีเรื่องโมโหในบ้าน (家で怒る話)	รู้สึกหงุดหงิด (いらいらする)	ไม่พอใจมากๆ (ものすごく不満)
行為／ 相互行為	พูดให้เห็นผลเสีย (食べたことによる害を話す)	บ่นกลับไป (文句を言い返す)	ถามว่าทำไมมีคนไม่ได้ทำงาน (上司になぜかきく)
	เดิมน้ำเสียงหงุดหงิด (イライラした口調でいう)	พยายามไม่พูดมาก (あまり言いすぎないようにする)	ถามด้วยน้ำเสียงธรรมดา (普段の口調で聞く)
	ให้พ่อตัดสินใจว่าทำหรือไม่ทำ (父親にどうするか決断させる)	กลัวบาปที่ว่าแม่ (母親に文句を言う罪を恐れる)	ถามเพื่อนนอกรอบก่อนบอกหัวหน้า (事前に同僚にも聞いておく)
		แม่เงียบ(母親は黙る)	หัวหน้าโกรธที่เราขัดสั่ง (上司は指示に従わないと怒る)
		พยายามคุยเรื่องอื่นกับแม่ (話題を変えようと努力する)	หัวหน้าอธิบายไม่ได้ (上司は理由を説明できない)
		แม่กลับมาประเด็นเก่า (また元の話に戻る)	เพื่อนกับหัวหน้ามาก่อน (上司は以前の同僚)
		อยู่กับแม่ต่อ (母親と一緒にいる)	
		ไม่ให้แม่อยู่คนเดียว (母親を一人ぼっちにさせない)	
帰結	พ่อไม่เลิกกินไข่ (父親は卵を食べるのをやめない)	ห้ามแม่บ่นไม่ได้ (母親が文句をいうのをやめさせることはできない)	คาใจแต่ไม่ทำอะไรไม่ได้ (わだかまりは残るがどうしようもない)
	คิดว่าให้พ่อกินอะไรยาก คิดว่า (もし父親が食べたいのなら食べさせた方がよい)		
	เชื่อเรื่องบุญกรรม (死ぬのは運命)		

	37-1	37-2	37-3	37-4
狀況	เดือนคนที่ขับรถย้อนศร แต่ไม่ยอมรับ (進行方向に逆行する車に 注意してもいうことを聞か ない)	ให้ช่วยงานเวลากำลังเล่น เพลิน (夢中で遊んでいるときに 手伝いをさせる)	ไม่ควรแข่งคิว (列に割り込むべきではな い)	โดนกล่าวหาโดยไม่ได้ฟัง เหตุผล (理由も聞かずに非難され る)
	ไม่เห็นความหวังดีเรา (自分の好意に気がかな い)	อยากเล่นต่อ (遊んでいたい)	ไม่พอใจ(不満に思う)	ไม่ได้ทำผิด (自分は何も間違っていな い)
	ทำตัวไม่เหมาะสม (態度がよくない)			ไม่ยอมรับ(許せないと思う)
	ทำให้โกรธ(怒った)			
行為／ 相互行為		ช่วยงานด้วยไม่เต็มใจ (しぶしぶ手伝う)	ทำเฉย(何もしない)	ทำเฉย(何もしない)
		รีบช่วยงานให้เสร็จ (急いで仕事を終わらせる)	บางทีมองเค้า (相手を見ることもある)	อยากให้จบ (話を終わらせたい)
		กลัวพ่อแม่บ่นเรื่อยๆ (両親にずっと文句言われ たくない)	เดือนนี้ติดนั่งกับคนที่เด็กกว่า (年下なら少し注意する)	กลัวเค้ามองเราในแง่ลบ (言い返して自分の印象が 悪くなると困る)
		ต้องช่วยพ่อแม่ทำเกษตร (両親の農業を手伝わなけ ればならない)	ให้รู้ตัว(相手にわからせる)	อยากจจะรักษาสัมพันธ์ (人間関係を維持したい)
			ไม่อย่ากซ้ำซั้มาก (あまり相手にうるさく言い たくない)	
歸結	ไม่เดือนอีกแล้ว (もう注意しない)			จะเห็นความจริงในอนาคต (そのうち真実はわかるだ ろう)

	38-1	38-2	38-3	38-4	38-5
状況	โดนหัวหน้าดู (上司に叱られる)	เด็กทำไม่ถูก (生徒が課題をちゃんと提出しない)	พ่อแม่ใช้ให้ทำอะไรตอนกำลังเล่นจะโกรธ (テレビを見ているときに両親に何か頼まれる)	ภรรยาทำให้เราไม่พอใจ (妻に不満をもつ)	ลูกดูทีวีไม่ทำการบ้าน (子供がテレビを見て宿題しない)
	ตามเด็กแล้วไม่มา ไม่ใช่ความผิดตัวเอง (自分はやったが生徒がいうことを聞かない)		ห่วยเล่น หัวงมงายสนุกสนานอย่างเดียว (遊びたい)		
	ไม่พอใจ (不満に思う)				
行為／相互行為	อธิบายว่าไม่ใช่ความผิดของตัวเอง (自分のせいではないと説明する)	ดุเด็กและอธิบายระเบียบ (生徒を叱ってやり方を説明する)	เงียบ (黙る)	ดุด้วยเสียงดัง (大きな声で叱る)	ดุให้ทำก่อน (先に宿題をしないと叱る)
	เสียงแข็งขึ้น (口調がきつくなる)	เสียงดัง (大きな声を出す)	ประพฤติประชัน (あてこするような行動をする)	ถ้าภรรยาแรงมา ต้องเงียบ (妻がきつく言い返したら黙る)	ลูกเชื่อฟัง (子供は言うことを聞く)
	รับฟังเรา (言うことを聞いてくれた)	นักศึกษาเข้าใจ (生徒は理解する)	ให้พ่อแม่รู้ (両親に不満であることを知らせる)	นิ่งไม่ก่อน (まずは黙る)	
				ทำให้ใจเย็นก่อน (まずは落ちつく)	
				การทะเลาะกันรุนแรงทำให้เสียใจกัน (激しくケンカすればお互い傷つく)	
帰結		วิธีการที่อธิบายให้เข้าใจได้ผล (もつとも効果的なやり方)			

	38-6	38-7	38-8	38-9
状況	ลูกเชื่อสิ่งที่เรียนที่โรงเรียนมากกว่าพ่อสอน (自分が教えたことより学校で習ったことが正しいと信じている)	ไม่พอใจกับคนที่แข่งคิว (列に並ばない人に対して不満に思う)	โกรธที่คนต่างชาติลบหลู่พระพุทธรูป (仏像に不敬な態度の外国人)	คนไทยทำไม่เหมาะสมกับพระพุทธรูปไม่ได้ (タイ人が仏像に不敬な態度をする)
	ตัวเองพูดความจริง (私は正しいことを教えている)	ไม่อยากถูกเอาเปรียบ (ずるいことをされたくない)		คนไทยน่าจะเข้าใจขนบธรรมเนียมประเพณี (タイ人はどのような伝統かを知っている)
				โกรธมากกว่ากับคนต่างชาติ (外国人に対してより怒る)
行為／相互行為	โต้เถียงกับลูก (子供と言い争う)	พูดไปว่าไม่ถูกต้อง (間違っているという)	บอกว่าการไม่ได้ (そんなことはしていけないという)	เตือนว่าการไม่ถูก (間違っていると注意する)
	อธิบายด้วยเหตุผล (理由を説明する)	น้ำเสียงปกติ (普段の口調で言う)		
		รักษาสีทิมของเรา (自分の権利を守るため)		
帰結				

	39-1	39-2	39-3
狀況	คนรุ่นใหม่ไม่มีการถูกตำหนิ (新しく入った社員が怒られない)	ลูกใช้โทรศัพท์มากเกินไป (子供の電話代が高い)	ผู้หญิงแก่โผล่มาขวางคิว (年配の女性が急に列に割り込んできた)
	สงสัยที่คนรุ่นใหม่ไม่โดนเหมือน สมัยก่อน(自分たちは怒られた)	เตือนแล้วยังทำและเกิดผลเสีย (注意してもやめない)	เห็นแก่ตัว(自分勝手な人)
	เกิดความไม่พอใจ(不満が生じる)	ไม่พอใจ(不満に思う)	
行為／ 相互行為	โต้แย้งเลยว่าไม่ยุติธรรม (不公平だと文句をいう)	พูดให้เข้าใจด้วยเหตุผล (理由を言って聞かせる)	คำกับคนที่ไปด้วยกัน (一緒に行った人に文句を言う)
	ใช้คำสุภาพ(丁寧な言い方)	ครั้งที่สามไม่จ่ายเงินให้ (3回目は電話代を払わなかった)	ตั้งใจให้ได้ยิน (わざと聞こえるように)
	น้ำเสียงดังหน่อย (少し声が大きくなる)	เขาเป็นผู้ใหญ่สอนลูก (大人は子供を教育しなければならぬ)	ไม่ได้สังเกตว่าเราตำ (本人は文句を言っていることに気がかない)
	แสดงทางสีหน้า(表情に出る)	ลูกโกรธ(子供は怒った)	
	บางทีเก็บอารมณ์ไม่ได้ (感情が抑制できないことがある)		
	พูดด้วยเหตุผล(理論的に話す)		
	ฝึกฝายก็เจียบ(相手は黙っている)		
帰結	ทำให้สถานการณ์การดีขึ้นใน ระยะเวลาหนึ่ง (状況は一時的にしかよくなる)	ลูกเลิกใช้โทรศัพท์ไปแล้ว (子供は電話を使うのをやめた)	ไม่ได้ออกไป (列から出ていかなかった)
	ผู้อาวุโสกว่าไม่พอใจที่เรา ก้าวร้าว (目上の人は反抗的な態度が不満だろうと思う)	เป็นมาตรการที่ดีที่สุด (一番効果的なやり方である)	
	การโต้แย้งผู้อาวุโสนั้นไม่เหมาะสม (目上の人に文句を言うてはいい)		
	ไม่ควรจะใส่อารมณ์ไปพูด (感情的に話すべきではない)		
	เด็กสมัยนี้ไม่เคารพผู้ใหญ่เสมอไป (最近の若い子は目上の人に敬意を払わない人もいる)		

	39-4	39-5	39-6
狀況	เจ้าของร้านขายสินค้าในราคาแพง กว่าลูกน้อง (店の主人が店員の言った値段よりも高く売りつけようとした)	คนต่างชาติไม่รู้เรื่องพระพุทธรูป (仏像にふさわしくない行動をする外国人)	เป็นผิดปกติ(異常である)
	เป็นการหลอกลูกค้า (お客を騙している)	หงุดหงิด(いらいらする)	ต้องไม่พอใจ(絶対不満に思う)
	ไม่พอใจ(不満に思う)		
行為／ 相互行為	พูดสิ่งที่ถูกต้อง (正しいと思うことを言う)	ให้เจ้าหน้าที่จัดการ (お寺の人に注意させる)	ต้องไปห้าม (止めるように言いに行く)
	ต้องแสดงความถูกต้องของเรา (自分の正当性を示さなければいけない)	ถ้าไม่ใคร จะไปห้ามเอง (誰もいなければ自分で注意する)	คนไทยต้องรู้อยู่แล้ว (タイ人にとっては常識である)
	ไม่มีความสัมพันธ์ (人間関係はない)	ต้องคิดเหตุผลก่อนที่จะเข้าไปห้าม (注意する前に状況をよく考える)	
帰結	ไม่ได้ซื้อ(何も買わなかった)		

	40-1	40-2	40-3	40-4	40-5
状況	นักกีฬาตัดสินด้านการตัดสินโดยพูด ไม่สุภาพ サッカー選手が審判にいいがかりをつ ける	ไม่ได้ทำตามเหมือนเดิม いつも通りにしなかった	คำคำหยาบ 元後輩の選手が汚い言葉で罵る	มีความขัดแย้งในวิธีการทำงานกับ ผู้บริหาร仕事のやり方で上司と対立	แม่ขยันทูลลูกมากมาย 子供の世話を一生懸命する母
	ไม่ควรพูดกับผู้ตัดสิน 審判に向かって言うべきではない		คนรู้จักต้องให้เกียรติมากกว่า 知り合いなら敬意を払うべきである	ไม่ยอม 上司のやり方を受け入れられない	
	ต้องคาดโทษเด็ก 次は罰則を科せられるかもしれない				
	ไม่รู้สักโกรธมากเท่ากับการ แสดงออก 態度に出すほどには怒っていない		โกรธมากとても怒る		มีความรู้สึกว่ามันมากเกินไป お母さんは世話をしすぎだと感じる
					โกรธกับแม่母親に対して怒る
行為／ 相互行為	เตือนว่าไม่ถูก正しくないと注意する	ถามถึงเหตุผล 理由をたずねる	คำตอบ罵り返す	พยายามอธิบายด้วยเหตุผล 理由を説明する	พูดดีๆว่าไม่ต้องทำ 世話をしなくていいよとやさしく言う
	ต้องมีพฤติกรรมก้าวร้าว 激しい表現をしなければならない				
	เพื่อให้หยุดพฤติกรรม 相手の行動をやめさせる	ต้องรักษาสัมพันธภาพ 人間関係を維持する必要	แสดงแรงกับคนที่รู้จัก 知り合いに対してはきつく怒る		แสดงความรู้สึกกับแม่เต็มที่ 母親には思った通りに感情を出す
	เป็นการเตือนเพื่อให้ภัย 許すために注意する				
		เป็นพี่ในที่ทำงาน自分は先輩だから	ผู้เล่นเป็นส่วนน้อง サッカー選手が自分の後輩	ผู้บริหารเคยเป็นผู้ใต้บังคับบัญชา 上司は元部下だった	พ่อแม่มักจะให้อภัยลูก 両親は感情を出すことを許してくれるだ ろう
					ไม่อ่านหนังสือไม่สมหวังแม่ 母親の期待に応えていない
					แม่อยากให้ลูกเรียนหนังสือ 母親は子供に勉強してほしい
帰結			สุดท้ายผู้เล่นต้องยอม 最終的に選手は審判のことを 聞く		แม่ไม่ยอม母親は世話をやめない
	บางคนไม่เตือนก่อนลงโทษ 注意せずにたちまち罰則を科す人も いる	ให้เกียรติเฉพาะคนที่มีความไม่ 目上の人だけに気をすることはよくな い	ไม่ควรทำผู้เล่น 選手を罵ってはいけない		
		การเลือกใช้ทำให้รู้สึกไม่ให้เกียรติ 差別すると軽視されていると感じる			
	ใช้วิชาชีพมาใช้ในการเตือน 教育学による注意の方法を使う		คิดว่ายุติธรรม公平だと思う		

	40-6	40-7	40-8	40-9	40-10
状況	ให้น้องชายกลับบ้าน (弟に家に帰ろうと言った)	แฟนแต่งหน้าแต่งตัวซ้ำ 妻の身支度が悪い	คนต่างชาติยืนขวางถนน 外国人が道路に立って進行妨害する	คนต่างชาติทำพฤติกรรมไม่เคารพ ศาสนาพุทธที่วัด 外国人がお寺で不敬な態度	คนไทยไม่เคารพพระพุทธรูป タイ人がお寺で不敬な態度
	น้องชายไม่ยอมกลับบ้าน (弟は喧嘩をして家に帰ろうとしな ない)	ต้องขับรถแบบอันตราย 急いで車を運転しなければならず 危ない	คนต่างชาติอาจจะไม่รู้ 外国人はわからないのかもしれない	ไม่เหมาะจะสมそうすべきではない	เป็นคนไม่ธรรมดา普通の人ではない
	รู้สึกอึดอัดเกี่ยวกับ (弟に対してはむかつく)		รู้สึกเฉยๆ何とも思わない		รู้สึกไม่คุ้นเคยな気分
			หงุดหงิดมากすぐイライラする		
行為／ 相互行為	บอกว่าพี่องแม่ (お母さんに言いつけるよと言った)	ประชันกับแฟน 嫌味を言う	บีบแตรไล่ クラクションを鳴らして追い出す	บอกว่าไม่ได้やめるように言う	ไม่บอก何も言わない
		บ่นกับแฟนสืบทานที่ 4-5分文句を言う		ยืนยันว่าไม่ได้จริง 再度やっつてはダメだと言う	
		หยุดบ่น文句を言うのをやめる			
			อารมณ์ไม่ดี機嫌が悪い		กลัวมีปัญหา問題を起こしたくない
	ต้องยอมน้องชาย (それでも弟だから許す)				
	ทะเลาะกับน้องชายบ่อย (弟とはよくケンカする)				
	ผู้ชายด้วยกัน(男同士だから)				
	น้องชายไม่ยอม (弟は言うことを聞かない)	ไม่ได้ตอบ何も言い返さない		คนต่างชาติไม่เข้าใจ 外国人は最初は理解できない	
	เขาไม่ได้ตีพี่ชาย (棒で殴りかかってきた)				
帰結	เลือกที่จะนั่งหนี(反撃せず逃げた)			คนต่างชาติเข้าใจอย่างค่อยๆ理解する	
		ปรับเร็วขึ้น身支度が早くなった			
			มาบอกว่าใจเย็นนะ 周りの人が落ち着くようにいう		
	โดนเข้าใจผิดว่าเป็นเด็กเกเร (近所の人に不良と思われた)		ปัจจัยแวดล้อมทำให้เกิดอารมณ์ 他の状況によって感情も変化する	ให้อยู่ก่อนน่ะสว่สว่สว่สว่สว่ 手を許す	
				ทำให้อารมณ์ลดลง感情が収まる	

3. 状況的質問票の全回答一覧

設問4の回答は、設問3の最多回答に対する回答データを表示している。

① 同級生からあなたの親友との関係を必要以上に詮索され、そんな人とはつきあわない方がいいと言われた。

怒りの強度					相手の言動の評価						
	日本人		タイ人			日本人		(最多)	タイ人		(最多)
感じない	13	12.4%	34	34.7%	行動妨害	10	11.0%		9	14.1%	
わずかに感じる	33	31.4%	45	45.9%	相手が思い通りでない	3	3.3%		16	25.0%	
感じる	47	44.8%	15	15.3%	個人的配慮の欠如	61	67.0%	①	34	53.1%	①
強く感じる	12	11.4%	4	4.1%	社会的非常識	17	18.7%		5	7.8%	
計	105	100.0%	98	100.0%	計	91	100.0%		64	100.0%	
平均	1.55		0.89								

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)				
	日本人		(最多)	タイ人	(最多)		日本人①		タイ人①
表出しない	26	31.3%	①	23	36.5%	① 人間関係を維持したい	10	38.5%	
無視する/話さない	10	12.0%		8	12.7%	怒りを表出するのはかっこ悪い			
表情・口調	12	14.5%		10	15.9%	問題を起こしたくない			11 50.0%
嫌味を言う	0	0.0%		3	4.8%	気持ちをすっきりさせたい			
冷静に話す	19	22.9%		10	15.9%	相手に怒っていることを知らせたい			
注意する	9	10.8%		0	0.0%	自分の権利を主張したい			
文句を言う	4	4.8%		3	4.8%	相手に反省させたい			
その場から立ち去る	1	1.2%		2	3.2%	相手の行動を変化させたい			
感情的に罵る	0	0.0%		1	1.6%	問題を解決したい			
その他	2	2.4%		3	4.8%	その他			
計	83	100.0%		63	100.0%				

② 先生が全員の試験の成績を名前つきで公表するので、自分の成績が悪いと他の人にばれてしまう。先生に名前を公表しないでほしいと言ったが変えてくれない。

怒りの強度					相手の言動の評価						
	日本人		タイ人			日本人		(最多)	タイ人		(最多)
感じない	26	24.8%	67	68.4%	行動妨害	4	5.1%		2	6.7%	
わずかに感じる	35	33.3%	27	27.6%	相手が思い通りでない	7	8.9%		22	73.3%	①
感じる	24	22.9%	2	2.0%	個人的配慮の欠如	44	55.7%	①	4	13.3%	
強く感じる	20	19.0%	2	2.0%	社会的非常識	24	30.4%		2	6.7%	
計	105	100.0%	98	100.0%	計	79	100.0%		30	100.0%	
平均	1.36		0.38								

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)				
	日本人		(最多)	タイ人	(最多)		日本人①		タイ人①
表出しない	9	12.0%		17	54.8%	① 人間関係を維持したい			
無視する/話さない	9	12.0%		6	19.4%	怒りを表出するのはかっこ悪い			
表情・口調	6	8.0%		3	9.7%	問題を起こしたくない			7 41.2%
嫌味を言う	6	8.0%		1	3.2%	気持ちをすっきりさせたい			
冷静に話す	21	28.0%	①	2	6.5%	相手に怒っていることを知らせたい			
注意する	2	2.7%		0	0.0%	自分の権利を主張したい	9	42.9%	
文句を言う	18	24.0%		0	0.0%	相手に反省させたい			
その場から立ち去る	3	4.0%		0	0.0%	相手の行動を変化させたい			
感情的に罵る	0	0.0%		0	0.0%	問題を解決したい			
その他	1	1.3%		2	6.5%	その他			
計	75	100.0%		31	100.0%				

③ タクシーに乗っていたら、タクシーの運転手が天皇陛下(王様)の悪口を言った。									
怒りの強度					相手の言動の評価				
	日本人		タイ人			日本人 (最多)		タイ人 (最多)	
感じない	64	61.0%	2	2.1%	行動妨害	1	2.4%	8	8.5%
わずかに感じる	27	25.7%	14	14.4%	相手が思い通りでない	2	4.9%	16	17.0%
感じる	8	7.6%	35	36.1%	個人的配慮の欠如	5	12.2%	3	3.2%
強く感じる	6	5.7%	46	47.4%	社会的非常識	33	80.5% ①	67	71.3% ①
計	105	100.0%	97	100.0%	計	41	100.0%	94	100.0%
平均	0.58		2.29						

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)				
	日本人 (最多)		タイ人 (最多)			日本人①		タイ人①	
表出しない	14	40.0% ①	15	16.0%	人間関係を維持したい				
無視する/話さない	12	34.3%	31	33.0% ①	怒りを表出するのはかっこ悪い				
表情・口調	1	2.9%	4	4.3%	問題を起こしたくない	9	64.3%	25	80.6%
嫌味を言う	2	5.7%	1	1.1%	気持ちをすっきりさせたい				
冷静に話す	0	0.0%	15	16.0%	相手に怒っていることを知らせたい				
注意する	6	17.1%	13	13.8%	自分の権利を主張したい				
文句を言う	0	0.0%	2	2.1%	相手に反省させたい				
その場から立ち去る	0	0.0%	4	4.3%	相手の行動を変化させたい				
感情的に罵る	0	0.0%	7	7.4%	問題を解決したい				
その他	0	0.0%	2	2.1%	その他				
計	35	100.0%	94	100.0%					

④ 友達が自分の悪口を別の友達に吹き込んでいることを知った。									
怒りの強度					相手の言動の評価				
	日本人		タイ人			日本人 (最多)		タイ人 (最多)	
感じない	12	11.4%	21	21.4%	行動妨害	16	18.2%	15	19.5%
わずかに感じる	14	13.3%	26	26.5%	相手が思い通りでない	5	5.7%	9	11.7%
感じる	37	35.2%	32	32.7%	個人的配慮の欠如	52	59.1% ①	52	67.5% ①
強く感じる	42	40.0%	19	19.4%	社会的非常識	15	17.0%	1	1.3%
計	105	100.0%	98	100.0%	計	88	100.0%	77	100.0%
平均	2.04		1.5						

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)				
	日本人 (最多)		タイ人 (最多)			日本人①		タイ人①	
表出しない	21	23.6%	10	13.0%	人間関係を維持したい				
無視する/話さない	27	30.3% ①	24	31.2% ①	怒りを表出するのはかっこ悪い				
表情・口調	7	7.9%	8	10.4%	問題を起こしたくない			9	37.5%
嫌味を言う	0	0.0%	4	5.2%	気持ちをすっきりさせたい				
冷静に話す	10	11.2%	6	7.8%	相手に怒っていることを知らせたい	10	37.0%		
注意する	4	4.5%	7	9.1%	自分の権利を主張したい				
文句を言う	13	14.6%	9	11.7%	相手に反省させたい				
その場から立ち去る	3	3.4%	3	3.9%	相手の行動を変化させたい				
感情的に罵る	1	1.1%	4	5.2%	問題を解決したい				
その他	3	3.4%	2	2.6%	その他				
計	89	100.0%	77	100.0%					

⑤ あなたが毎日部活でスポーツをしていると、父親に勉強の方が大切だから部活はやめろと言われた。									
怒りの強度					相手の言動の評価				
	日本人		タイ人			日本人		タイ人	(最多)
感じない	12	11.4%	25	25.5%	行動妨害	50	57.5%	33	45.2%
わずかに感じる	17	16.2%	50	51.0%	相手が思い通りでない	3	3.4%	15	20.5%
感じる	44	41.9%	18	18.4%	個人的配慮の欠如	31	35.6%	25	34.2%
強く感じる	32	30.5%	5	5.1%	社会的非常識	3	3.4%	0	0.0%
計	105	100.0%	98	100.0%	計	87	100.0%	73	100.0%
平均	1.91		1.03						

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)				
	日本人		(最多)	タイ人	(最多)	日本人①		タイ人①	
表出しない	3	3.3%		17	23.3%	人間関係を維持したい			
無視する/話さない	13	14.3%		6	8.2%	怒りを表出するのはかっこ悪い			
表情・口調	5	5.5%		7	9.6%	問題を起こしたくない			
嫌味を言う	3	3.3%		0	0.0%	気持ちをすっきりさせたい			
冷静に話す	41	45.1%	①	28	38.4%	相手に怒っていることを知らせたい			
注意する	0	0.0%		1	1.4%	自分の権利を主張したい	13	31.7%	
文句を言う	20	22.0%		6	8.2%	相手に反省させたい			
その場から立ち去る	0	0.0%		7	9.6%	相手の行動を変化させたい			
感情的に罵る	5	5.5%		0	0.0%	問題を解決したい			13 46.4%
その他	1	1.1%		1	1.4%	その他			
計	91	100.0%		73	100.0%				

⑥ 友達と待ち合わせたら30分遅刻してきて謝らない。									
怒りの強度					相手の言動の評価				
	日本人		タイ人			日本人		タイ人	(最多)
感じない	19	18.1%	30	30.6%	行動妨害	7	8.1%	11	16.2%
わずかに感じる	36	34.3%	44	44.9%	相手が思い通りでない	12	14.0%	30	44.1%
感じる	27	25.7%	16	16.3%	個人的配慮の欠如	16	18.6%	16	23.5%
強く感じる	23	21.9%	8	8.2%	社会的非常識	51	59.3%	11	16.2%
計	105	100.0%	98	100.0%	計	86	100.0%	68	100.0%
平均	1.51		1.02						

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)				
	日本人		(最多)	タイ人	(最多)	日本人①		タイ人①	
表出しない	17	21.3%		10	14.7%	人間関係を維持したい			
無視する/話さない	4	5.0%		2	2.9%	怒りを表出するのはかっこ悪い			
表情・口調	10	12.5%		9	13.2%	問題を起こしたくない			
嫌味を言う	8	10.0%		6	8.8%	気持ちをすっきりさせたい			
冷静に話す	4	5.0%		8	11.8%	相手に怒っていることを知らせたい			
注意する	25	31.3%	①	9	13.2%	自分の権利を主張したい			
文句を言う	12	15.0%		23	33.8%	相手に反省させたい	12	50.0%	11 47.8%
その場から立ち去る	0	0.0%		0	0.0%	相手の行動を変化させたい			
感情的に罵る	0	0.0%		0	0.0%	問題を解決したい			
その他	0	0.0%		1	1.5%	その他			
計	80	100.0%		68	100.0%				

⑦ 授業で、友達とグループでレポートを作成することになったので、みんなで分担を決めたが、グループの一人が自分ではできないからと言って、全く協力しようとしなかった。

怒りの強度					相手の言動の評価						
	日本人		タイ人			日本人		(最多)	タイ人		(最多)
感じない	7	6.7%	16	16.5%	行動妨害	7	7.1%		9	11.4%	
わずかに感じる	25	23.8%	34	35.1%	相手が思い通りでない	26	26.5%		14	17.7%	
感じる	37	35.2%	30	30.9%	個人的配慮の欠如	5	5.1%		1	1.3%	
強く感じる	36	34.3%	17	17.5%	社会的非常識	60	61.2%	①	55	69.6%	①
計	105	100.0%	97	100.0%	計	98	100.0%		79	100.0%	
平均	1.97		1.49								

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)						
	日本人		(最多)	タイ人		(最多)	日本人①		タイ人①		
表出しない	17	17.7%		6	7.4%		人間関係を維持したい				
無視する/話さない	10	10.4%		12	14.8%		怒りを表出するのはかっこ悪い				
表情・口調	4	4.2%		7	8.6%		問題を起こしたくない				
嫌味を言う	6	6.3%		8	9.9%		気持ちをすっきりさせたい				
冷静に話す	22	22.9%		8	9.9%		相手に怒っていることを知らせたい				
注意する	25	26.0%	①	19	23.5%	①	自分の権利を主張したい				
文句を言う	11	11.5%		16	19.8%		相手に反省させたい				
その場から立ち去る	0	0.0%		1	1.2%		相手の行動を変化させたい	19	76.0%	10	52.6%
感情的に罵る	1	1.0%		3	3.7%		問題を解決したい				
その他	0	0.0%		1	1.2%		その他				
計	96	100.0%		81	100.0%						

⑧ 教室で同級生に自分の両親の悪口を言われた。

怒りの強度					相手の言動の評価						
	日本人		タイ人			日本人		(最多)	タイ人		(最多)
感じない	12	11.4%	10	10.3%	行動妨害	2	2.2%		1	1.1%	
わずかに感じる	15	14.3%	6	6.2%	相手が思い通りでない	4	4.3%		3	3.4%	
感じる	28	26.7%	20	20.6%	個人的配慮の欠如	52	55.9%	①	69	79.3%	①
強く感じる	50	47.6%	61	62.9%	社会的非常識	35	37.6%		14	16.1%	
計	105	100.0%	97	100.0%	計	93	100.0%		87	100.0%	
平均	2.1		2.36								

怒り対処方法						対処方法選択の理由(最多回答のみ)					
	日本人		(最多)	タイ人		(最多)	日本人①		タイ人①		
表出しない	18	19.4%	①	1	1.1%		人間関係を維持したい	9	50.0%		
無視する/話さない	15	16.1%		8	9.2%		怒りを表出するのはかっこ悪い				
表情・口調	5	5.4%		13	14.9%		問題を起こしたくない				
嫌味を言う	1	1.1%		0	0.0%		気持ちをすっきりさせたい				
冷静に話す	5	5.4%		6	6.9%		相手に怒っていることを知らせたい				
注意する	15	16.1%		8	9.2%		自分の権利を主張したい				
文句を言う	17	18.3%		9	10.3%		相手に反省させたい			15	48.4%
その場から立ち去る	4	4.3%		6	6.9%		相手の行動を変化させたい				
感情的に罵る	13	14.0%		31	35.6%	①	問題を解決したい				
その他	0	0.0%		5	5.7%		その他				
計	93	100.0%		87	100.0%						

⑨ 明日までに提出しなければいけない宿題を一生懸命していたら、母親が話しかけてきた。無視して宿題を続けていたが、ずっと話をやめようとしなかった。

怒りの強度					相手の言動の評価						
	日本人		タイ人			日本人		(最多)	タイ人		(最多)
感じない	28	26.7%	63	64.3%	行動妨害	45	60.0%	①	20	57.1%	①
わずかに感じる	41	39.0%	28	28.6%	相手が思い通りでない	5	6.7%		10	28.6%	
感じる	25	23.8%	7	7.1%	個人的配慮の欠如	23	30.7%		5	14.3%	
強く感じる	11	10.5%	0	0.0%	社会的非常識	2	2.7%			0.0%	
計	105	100.0%	98	100.0%	計	75	100.0%		35	100.0%	
平均	1.18		0.43								

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)				
	日本人		(最多)	タイ人	(最多)	日本人① タイ人①			
表出しない	8	10.4%		9	25.7%	① 人間関係を維持したい			
無視する/話さない	17	22.1%		6	17.1%	怒りを表出するのはかっこ悪い			
表情・口調	4	5.2%		3	8.6%	問題を起こしたくない			4 44.4%
嫌味を言う	4	5.2%		0	0.0%	気持ちをすっきりさせたい			
冷静に話す	10	13.0%		4	11.4%	相手に怒っていることを知らせたい			
注意する	10	13.0%		2	5.7%	自分の権利を主張したい			
文句を言う	20	26.0%	①	6	17.1%	相手に反省させたい			
その場から立ち去る	2	2.6%		5	14.3%	相手の行動を変化させたい	10	50.0%	
感情的に罵る	1	1.3%		0	0.0%	問題を解決したい			
その他	1	1.3%		0	0.0%	その他			
計	77	100.0%		35	100.0%				

⑩ 父親が足を痛めたので、病院に行くのに車で送ってあげようと言っても、自分でバスに乗って行くからいいと言ってきかない。

怒りの強度					相手の言動の評価						
	日本人		タイ人			日本人		(最多)	タイ人		(最多)
感じない	73	69.5%	23	23.5%	行動妨害	3	9.4%		20	26.7%	
わずかに感じる	25	23.8%	39	39.8%	相手が思い通りでない	21	65.6%	①	50	66.7%	①
感じる	5	4.8%	23	23.5%	個人的配慮の欠如	3	9.4%		4	5.3%	
強く感じる	2	1.9%	13	13.3%	社会的非常識	5	15.6%		1	1.3%	
計	105	100.0%	98	100.0%	計	32	100.0%		75	100.0%	
平均	0.39		1.27								

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)				
	日本人		(最多)	タイ人	(最多)	日本人① タイ人①			
表出しない	11	34.4%	①	7	9.3%	人間関係を維持したい			
無視する/話さない	0	0.0%		2	2.7%	怒りを表出するのはかっこ悪い			
表情・口調	3	9.4%		5	6.7%	問題を起こしたくない	5	45.5%	
嫌味を言う	2	6.3%		4	5.3%	気持ちをすっきりさせたい			
冷静に話す	10	31.3%		32	42.7%	① 相手に怒っていることを知らせたい			
注意する	3	9.4%		4	5.3%	自分の権利を主張したい			
文句を言う	2	6.3%		18	24.0%	相手に反省させたい			
その場から立ち去る	0	0.0%		2	2.7%	相手の行動を変化させたい		10	31.3%
感情的に罵る	0	0.0%		0	0.0%	問題を解決したい		10	31.3%
その他	1	3.1%		1	1.3%	その他			
計	32	100.0%		75	100.0%				

⑪ バイト先で、上司は仲のいい人には仕事を頼まない。他のアルバイトの人は同じ給料をもらって暇そうにしているのに、自分は上司からたくさん仕事を頼まれる。

怒りの強度					相手の言動の評価						
	日本人		タイ人			日本人		(最多)	タイ人		(最多)
感じない	14	13.3%	12	12.4%	行動妨害	9	10.0%		11	15.5%	
わずかに感じる	26	24.8%	25	25.8%	相手が思い通りでない	6	6.7%		28	39.4%	①
感じる	22	21.0%	37	38.1%	個人的配慮の欠如	23	25.6%		9	12.7%	
強く感じる	43	41.0%	23	23.7%	社会的非常識	52	57.8%	①	23	32.4%	
計	105	100.0%	97	100.0%	計	90	100.0%		71	100.0%	
平均	1.9		1.23								

怒り対処方法						対処方法選択の理由(最多回答のみ)					
	日本人		(最多)	タイ人		(最多)	日本人①		タイ人①		
表出しない	30	35.7%	①	34	47.2%	①	人間関係を維持したい	15	50.0%		
無視する/話さない	6	7.1%		11	15.3%		怒りを表出するのはかっこ悪い			12	35.3%
表情・口調	13	15.5%		5	6.9%		問題を起こしたくない				
嫌味を言う	2	2.4%		5	6.9%		気持ちをすっきりさせたい				
冷静に話す	12	14.3%		12	16.7%		相手に怒っていることを知らせたい				
注意する	1	1.2%		1	1.4%		自分の権利を主張したい				
文句を言う	10	11.9%		0	0.0%		相手に反省させたい				
その場から立ち去る	7	8.3%		2	2.8%		相手の行動を変化させたい				
感情的に罵る	0	0.0%		0	0.0%		問題を解決したい				
その他	3	3.6%		2	2.8%		その他				
計	84	100.0%		72	100.0%						

⑫ アルバイト先で新しく入った後輩に、仕事中は携帯電話の電源を切るように言ったが、何度言っても電源を切らない。

怒りの強度					相手の言動の評価						
	日本人		タイ人			日本人		(最多)	タイ人		(最多)
感じない	13	12.4%	27	27.6%	行動妨害	0	0.0%		6	8.5%	
わずかに感じる	21	20.0%	36	36.7%	相手が思い通りでない	26	28.3%		16	22.5%	
感じる	49	46.7%	31	31.6%	個人的配慮の欠如	4	4.3%		18	25.4%	
強く感じる	22	21.0%	4	4.1%	社会的非常識	62	67.4%	①	31	43.7%	①
計	105	100.0%	98	100.0%	計	92	100.0%		71	100.0%	
平均	1.76		1.12								

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)						
	日本人		(最多)	タイ人		(最多)	日本人①		タイ人①		
表出しない	9	9.8%		2	2.8%		人間関係を維持したい				
無視する/話さない	5	5.4%		13	18.3%		怒りを表出するのはかっこ悪い				
表情・口調	5	5.4%		3	4.2%		問題を起こしたくない				
嫌味を言う	1	1.1%		1	1.4%		気持ちをすっきりさせたい				
冷静に話す	11	12.0%		8	11.3%		相手に怒っていることを知らせたい				
注意する	54	58.7%	①	37	52.1%	①	自分の権利を主張したい				
文句を言う	5	5.4%		3	4.2%		相手に反省させたい				
その場から立ち去る	1	1.1%		2	2.8%		相手の行動を変化させたい	34	63.0%	21	56.8%
感情的に罵る	1	1.1%		2	2.8%		問題を解決したい				
その他	0	0.0%		0	0.0%		その他				
計	92	100.0%		71	100.0%						

⑬ スーパーにシャンプーを買いに行ったら、ちょうど値引き中の札がついていた。キャッシャーでお金を払おうとしたら、いつもと同じ値段だった。店員に文句を言ったら、値札が間違っていると言われた。

怒りの強度					相手の言動の評価						
	日本人		タイ人			日本人		(最多)	タイ人		(最多)
感じない	45	42.9%	35	36.1%	行動妨害	16	27.1%		1	1.6%	
わずかに感じる	27	25.7%	38	39.2%	相手が思い通りでない	15	25.4%		44	71.0%	①
感じる	19	18.1%	20	20.6%	個人的配慮の欠如	3	5.1%		3	4.8%	
強く感じる	14	13.3%	4	4.1%	社会的非常識	25	42.4%	①	14	22.6%	
計	105	100.0%	97	100.0%	計	59	100.0%		62	100.0%	
平均	1.02		0.93								

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)					
	日本人		(最多)	タイ人		(最多)	日本人①		タイ人①	
表出しない	14	25.5%		4	6.5%		人間関係を維持したい			
無視する/話さない	0	0.0%		3	4.8%		怒りを表出するのはかっこ悪い			
表情・口調	9	16.4%		13	21.0%		問題を起こしたくない			
嫌味を言う	1	1.8%		1	1.6%		気持ちをすっきりさせたい			
冷静に話す	8	14.5%		11	17.7%		相手に怒っていることを知らせたい			
注意する	3	5.5%		7	11.3%		自分の権利を主張したい		16	69.6%
文句を言う	15	27.3%	①	23	37.1%	①	相手に反省させたい	5	33.3%	
その場から立ち去る	3	5.5%		0	0.0%		相手の行動を変化させたい			
感情的に罵る	0	0.0%		0	0.0%		問題を解決したい			
その他	2	3.6%		0	0.0%		その他			
計	55	100.0%		62	100.0%					

⑭ 後輩にやさしく注意したら不満な態度だった。

怒りの強度					相手の言動の評価						
	日本人		タイ人			日本人		(最多)	タイ人		(最多)
感じない	34	32.4%	14	14.3%	行動妨害	2	2.9%		4	4.8%	
わずかに感じる	44	41.9%	49	50.0%	相手が思い通りでない	37	52.9%	①	14	16.7%	
感じる	23	21.9%	15	15.3%	個人的配慮の欠如	15	21.4%		64	76.2%	①
強く感じる	4	3.8%	20	20.4%	社会的非常識	16	22.9%		2	2.4%	
計	105	100.0%	98	100.0%	計	70	100.0%		84	100.0%	
平均	0.97		1.42								

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)					
	日本人		(最多)	タイ人		(最多)	日本人①		タイ人①	
表出しない	27	40.9%	①	6	7.1%		人間関係を維持したい	16	59.3%	
無視する/話さない	8	12.1%		8	9.5%		怒りを表出するのはかっこ悪い			
表情・口調	15	22.7%		5	6.0%		問題を起こしたくない			
嫌味を言う	1	1.5%		2	2.4%		気持ちをすっきりさせたい			
冷静に話す	4	6.1%		11	13.1%		相手に怒っていることを知らせたい			
注意する	6	9.1%		41	48.8%	①	自分の権利を主張したい			
文句を言う	1	1.5%		7	8.3%		相手に反省させたい		17	41.5%
その場から立ち去る	2	3.0%		1	1.2%		相手の行動を変化させたい		17	41.5%
感情的に罵る	1	1.5%		2	2.4%		問題を解決したい			
その他	1	1.5%		1	1.2%		その他			
計	66	100.0%		84	100.0%					

⑮ 買い物に行って会計の列に並んでいたら、年配の女性が割り込んできた。										
怒りの強度					相手の言動の評価					
	日本人		タイ人			日本人 (最多)		タイ人 (最多)		
感じない	34	25.4%	14	15.9%	行動妨害	17	17.3%	6	8.1%	
わずかに感じる	18	13.4%	47	53.4%	相手が思い通りでない	1	1.0%	3	4.1%	
感じる	41	30.6%	21	23.9%	個人的配慮の欠如	3	3.1%	6	8.1%	
強く感じる	41	30.6%	6	6.8%	社会的非常識	77	78.6% ①	59	79.7% ①	
計	134	100.0%	88	100.0%	計	98	100.0%	74	100.0%	
平均	2.12		1.11							

怒り対処方法					対処方法選択の理由(最多回答のみ)			
	日本人 (最多)		タイ人 (最多)		日本人① タイ人①			
表出しない	31	33.0% ①	17	23.0% ①	人間関係を維持したい			
無視する/話さない	7	7.4%	8	10.8%	怒りを表出するのはかっこ悪い			
表情・口調	13	13.8%	12	16.2%	問題を起こしたくない	19	61.3%	11 64.7%
嫌味を言う	7	7.4%	9	12.2%	気持ちをすっきりさせたい			
冷静に話す	5	5.3%	8	10.8%	相手に怒っていることを知らせたい			
注意する	20	21.3%	15	20.3%	自分の権利を主張したい			
文句を言う	10	10.6%	5	6.8%	相手に反省させたい			
その場から立ち去る	1	1.1%	0	0.0%	相手の行動を変化させたい			
感情的に罵る	0	0.0%	0	0.0%	問題を解決したい			